

# 履修の手引き

2018年度生用

〈文学部〉

履修の手引き

2018年度生用

〈文学部〉

京都橘大学は「自立」「共生」「臨床の知」という教学理念を掲げ、人文・社会・医療系の多様な学部・学科で教育研究を行っています。

2005年4月、本学では男女共学化とともに「自立した女性の育成」という従来の教學理念を、今日的・世界的課題との関連において発展させ、21世紀にふさわしい男女両性の《自立》と《共生》としました。

めまぐるしく変化を遂げる今日の社会にあって、男女共同参画社会の実現、さらに民族・宗教・文化などの違いを越えた共生社会の実現が緊急の課題になっています。本学が培ってきた女性史・女性文化をはじめとする教育・研究資産を、新しい教學理念のなかで活かし、新しい男女共学の姿を追求しています。

また現在、大学と学問のあり方も問いかれており、学問を閉ざされた世界から開放し、社会とのつながりのなかで、その成果を問いかし再構築しようとする動きです。この要請に応え、本学では、社会と人々の幸福に貢献できる『実践的な、学門の追究と人材の養成をめざす』という意味を《臨床の知》という教學理念に込めています。

#### ■ブランドマーク

橘の紋章を現代的にアレンジし、未来を見つめるブランドをデザインしました。安定した形状の正円は自立を表し、背景と溶け合う橘の形は共生を意味しています。ブランドカラーの古代紫は、本学が教育で築いた100年の伝統と古都・京都をイメージしています。

## 履修の手引き

2018年度生用

文学部

### 学生憲章について

本学は、《自立》《共生》《臨床の知》という教學理念に基づいて教育・研究活動に取り組んでいます。この学生憲章は、本学が2017年に開学50周年を迎えるにあたり、学生一人ひとりが教學理念を体現し、未来を明るく豊かなものにするため、日々の学修のなかで大切にする行動の指針として策定しました。

#### 京都橘大学

#### 学生憲章

私たち京都橘大学の学生は、歴史に学び、社会の現実を見つめ、未来を明るくゆたかなものにするために、次の学生憲章を掲げ、行動の指針とします。

1. 私たちは常に深く思索し、自分の意思で判断し、行動します
2. 私たちは多様な意見や価値観を尊重し、協働して支え合う人間になります
3. 私たちは地域や社会の現場から積極的に学び、真理を誠実に探究します
4. 私たちは地域社会と国際社会に貢献するために、知恵と力を重ね、日々向上するよう努めます。

**京都橘大学**

## はじめに

本学の学生は、入学から卒業までの間に、学則に定められた科目を学習し、所定の単位を修得しなければなりません。

この「履修の手引き」は、それぞれの学生が、入学から卒業までどのような学習計画を立てるかを決定するために必要な情報をすべて掲載しているものです。

この「履修の手引き」を熟読し、それぞれの学習が計画的に進められるようにしてください。

### ポータルサイト配信・掲示板の確認を習慣に

学生のみなさんに対する連絡は、ポータルサイトへの配信や、掲示板への掲示によって行います。

配信・掲示されたものについては各自確認されたものとして取り扱いますので、毎日の習慣として必ず内容を確認するようにしてください。

なお、配信・掲示内容の電話による問い合わせには応じません。

#### 【ポータルサイトの利用方法】

京都橘大学ホームページ (<http://www.tachibana-u.ac.jp>) から  
『在学生の方へ』 → 『ポータルサイト (在学生専用)』 → 『ポータル1・2・3』

# 目 次

<b>第1章 学籍</b>	
1. 学籍番号と学生証	4
2. 修業年限、在学年限および回生	4
3. 卒業と学位	4
4. 学籍に関する異動	5
5. 証明書	6
6. 学籍と学費	7
<b>第2章 単位</b>	
1. 単位とは	8
2. 受講登録～単位の修得について	8
3. 単位認定について	8
4. 卒業に必要な単位	12
<b>第3章 受講登録</b>	
1. 受講登録とは	13
2. 科目の種類	13
3. 受講登録スケジュール	14
4. 受講登録の流れ	14
5. 受講登録上限	15
6. 注意事項	15
7. 履修辞退	16
<b>第4章 授業・試験</b>	
1. セメスター（学期）	17
2. 授業時間	17
3. 各種講義	17
4. 休講と補講	17
5. 臨時休講措置	17
6. 出席・欠席	18
<b>第5章 成績</b>	
1. 成績評価	19
2. 不正行為の禁止	19
3. 試験における注意事項	20
4. 成績通知	20
5. 成績疑義	20
6. GPA（グレード・ポイント・アベレージ）	21
7. 修学支援について	21
8. 成績通知書の見かた	22
<b>第6章 WEBシステム</b>	
1. ポータルサイト	24
2. KT-note（学習支援システム簡易マニュアル）	31
3. 学習支援アプリeduca（エデュカ）	34
<b>第7章 海外留学</b>	
○長期留学制度	
1. 交換留学制度	35
2. 認定留学	36
3. 海外留学に際しての特例措置	36
4. 長期留学の相談・手続き	36
5. SAP（スタディー・アブロード・プログラム）	37
○短期留学制度	
1. 海外語学研修	37
2. 短期海外研修	38
3. 短期海外研修（各学科・コース主催）	39
<b>第8章 教育理念</b>	
1. 全学	41

2. 日本語日本文学科	42
3. 歴史学科	43
4. 歴史遺産学科	44
<b>第9章 教育課程（教養教育課程）</b>	
1. 教養教育課程とは	46
2. 基礎教育科目群とは	47
3. 教養教育科目群とは	48
4. キャリア教育科目群とは	51
5. 日本語日本文学科 教養教育課程 カリキュラムマップ	58
6. 歴史学科 教養教育課程 カリキュラムマップ	62
7. 歴史遺産学科 教養教育課程 カリキュラムマップ	66
<b>第10章 教育課程（日本語日本文学科）</b>	
1. 日本語日本文学コース	70
(1) コースの特徴	70
(2) 各回生の到達目標	71
(3) 日本語日本文学コース 専門教育科目群 カリキュラムマップ	72
2. 書道コース	76
(1) コースの特徴	76
(2) 各回生の到達目標	76
(3) 書道コース 専門教育科目群 カリキュラムマップ	78
3. 履修条件	82
4. 卒業研究	82
<b>第11章 教育課程（歴史学科）</b>	
1. 日本史コース	83
(1) コースの特徴	83
(2) 各回生の到達目標	84
(3) 日本史コース 専門教育科目群 カリキュラムマップ	85
2. 世界史コース	90
(1) コースの特徴	90
(2) 各回生の到達目標	91
(3) 世界史コース 専門教育科目群 カリキュラムマップ	92
3. 履修条件	98
4. 卒業研究	98
5. 特別専攻（オプショナル・コース）	99
(1) コースの特徴	99
(2) 各回生の到達目標	99
<b>第12章 教育課程（歴史遺産学科）</b>	
(1) コースの特徴	100
(2) 各回生の到達目標	101
(3) 歴史遺産学科 専門教育科目群 カリキュラムマップ	104
(4) 履修条件	108
(5) 卒業研究	108
<b>第13章 科目概要</b>	
<b>第14章 免許・資格</b>	
1. 取得可能資格一覧	129
2. 教職課程	130
3. 司書課程	148
4. 学校図書館司書教諭課程	149
5. 博物館学芸員資格課程	150
6. 社会教育主事課程	152
7. 日本語教員養成	154
8. 2級考古調査士	156
<b>その他</b>	
キャンパスマップ	158
教室一覧	159
事務局連絡先一覧	161

## 第1章 学籍

## 1. 学籍番号と学生証

「学籍」とは、本学での所属を示すものであり、入学時から在学中の間に発生します。また、本学の学生には、入学と同時に学籍番号が与えられます。この番号は、学内のすべての手続きに必要となります。

学生証は、あなたが本学の学生であることを証明する大切なものですので、常に携帯してください。紛失や盗難にあった場合は、速やかに学生支援課へ届け出してください。なお、学籍番号の仕組みは以下のとおりです。

学部生共通	学部・学科				入学年度		一連番号		
a	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(入学年度) 西暦の下2ケタ  
(一連番号) 各学科ごとに001~

## 2. 修業年限、在学年限および回生

修業年限とは、教育課程を修了するために必要な期間であり、本学では4年と定められています。在学年限とは本学において学生として在学できる最大の期間であり、本学では8年と定められています。休学した学期は在学年限に算入しません。

回生は、入学と同時に1回生となり、単位の修得状況にかかわりなく、在学期間に基づき1か年単位で繰り上がります。履修指導等は、回生を基準として行います。4回生終了時までに卒業に必要な単位が修得できなかった場合は、5回生、6回生と繰り上がりますが、在学年限を超えて在学することはできません。

## 3. 卒業と学位

4年以上在学し、所定の要件にそって必要な単位を修得した場合、卒業となり、日本語日本文学科・歴史学科・歴史遺産学科は学士（文学）の学位が与えられます。また、4年以上在学し、前期セメスターで卒業に必要な単位を修得した場合には、前期末日である9月20日で卒業となります。

## 4. 学籍異動について

## (1) 休学

- 病気など、やむを得ない事由で学修を継続できない場合、許可を得てセメスター単位で休学することができます。
- 休学するには、事前にアドバイザー教員および教務部各課の職員との面談が必要です。また、休学に関する詳細は、面談時にお伝えします。休学を考えている場合は、まずは、アドバイザー教員または、教務部各課の職員に相談してください。  
※病気による休学の場合は、診断書の提出が必要です。
- 休学期間中は授業料およびその他の学費は免除されます。  
※学期途中からの休学は除きます。
- 休学期間終了日までに次セメスターの学籍に関する案内を送付します。案内にしたがって次セメスターの学籍に関する手続きを行ってください。

## (2) 復学

- 休学理由が消滅した場合、許可を得て復学することができます。復学期日は4月1日または9月21日です。
- 復学前にアドバイザー教員および教務部各課担当者との面談が必要です。復学を考えている場合は、まずは、アドバイザー教員または、教務部各課の職員に相談してください。  
※病気による休学の場合は、診断書の提出が必要です。

## (3) 在学留学

- 本学「海外留学をする者の取扱に関する規程」の適用により、外国の大学に留学する許可を得た場合、その期間は休学ではなく、在学のまま留学することができます。そのため、4年間で卒業することが可能となります。詳しくは総合教育課へ相談してください。  
※4回生時に留学する場合は、帰国後にさらに修学が必要となる場合があります。

## (4) 退学

- 病気など、やむを得ない事由で退学する場合には、所定の手続きにしたがって退学願を提出して許可を得なければなりません。退学期日は原則として学期末日となります。
- 退学期日の属する学期の学費は納入されなければなりません。
- 退学前にアドバイザーおよび教務部各課担当者との面談が必要です。また、退学に関する詳細は、面談時にお伝えします。退学を考えている場合は、まずは、アドバイザー教員または、教務部各課の職員に相談してください。

## (5) 除籍

- 期日までに学費を納入しなかった場合など、本学で決められた条件に該当した場合は除籍となり、学生の身分を失います。
- 前期は4月30日までに、後期は10月31日に納入されなければ、学費未納による除籍となります。  
※期日までに学費の納入ができない場合、学費延納願を提出し、許可を得なければなりません。延納許可期限は、前期は8月5日、後期は2月5日までです。

## (6) 復籍

- 学費未納や、休学期間終了日までに復学願、退学願または休学願を未提出であり、除籍となった者が、指定された期日までに復籍を願い出た場合、許可することがあります。

- ・復籍した場合は、除籍時の学部学科、回生、修得単位などをそのまま継続することになります。

#### (7) 再入学

- ・退学または除籍となった者が、再入学の出願を行った場合、選考の上、再入学を許可することがあります。詳しくは教務部各課に相談してください。

#### (8) 転学部、転学科、転コースおよび転課程

- ・入学した学部・学科で学修することが原則です。しかし、特別の事由がある場合は、学則第30条(「特別の事情があるときは、学年の始めに限り選考の上これを許可することができる」)に基づき、転学部、転学科、転コースおよび転課程を認める場合があります。詳しくは教務部各課に相談してください。

## 5. 証明書

在学生の方は、学内に設置された証明書自動発行機にて各種証明書を取得することができます。

#### (1) 証明書自動発行機で発行できる証明書の種類

- ・在学証明書
- ・成績証明書
- ・成績通知書
- ・学生時間割表
- ・卒業見込証明書（卒回生のみ）
- ・資格取得見込証明書（一部資格を除く、卒回生のみ）
- ・健康診断証明書
- ・通学定期証明書
- ・学割証明書

#### (2) 証明書自動発行機の設置場所

管理・特別教室棟2階（学務課カウンター横）

#### (3) 取扱時間

授業期間中の平日 8:45～18:15

休校期間中の平日、授業期間中の土曜日 8:45～17:15

※ただし、健康診断証明書・通学定期証明書・学割証明書は、平日8:45～17:15のみ発行できます。

#### (4) 証明書自動発行機の使用方法

- ① 証明書自動発行機に、学籍番号とパスワードを入力して、「ログイン」を押す。
- ② 必要な証明書の「発行通数」を選択して、「印刷」を押す。
- ③ 証明書自動発行機の下部より証明書が 출력されます。

## 6. 学籍と学費

学籍は、所定の納期までに学費を納入することによって各年度ごとに継続していくことになります。学費を納入しない場合は、学則に基づき除籍となり、学生の身分を失うことになります。

#### (1) 学費の納入期日

学費は納入期日までに納入しなければなりません。前期分は4月30日、後期分は10月31日までに所定の振込用紙で納入してください（※納入期日が休・祝日の場合は翌営業日が納入期日となります）。

#### (2) 学費の延納について

何らかの事情で、期日までに納入が困難な場合は、「学費延納願」を学生支援課へ提出して、事前に許可を受けなければなりません。許可なく期日を過ぎて未納の場合は、除籍になります。

延納許可期限 前期分 8月5日

後期分 2月5日

## 第2章 単位

### 1. 単位とは

本学の教育課程では、各科目について基準で定められている単位を修得し、卒業の要件や資格取得の要件を満たしていくという「単位制」をとっています。

本学では、大学設置基準に基づき、45時間の学習時間を1単位として計算しています。具体的には、授業15時間、自学自習時間（予習・復習時間）30時間で当該科目1単位として構成されています。ただし、科目的性格によっては、授業と自学自習時間（予習・復習時間）の時間構成が異なる場合があります。

なお、1回あたりの授業は90分を基本としていますが、これを2時間で計算しています。したがって、「前期セメスター・2単位」という授業科目は、通常、毎週1回（90分）の授業を前期セメスター中に15週行い、あわせて各自の予習・復習が行われることを意味しています。

### 2. 受講登録～単位の修得について

#### （1）単位修得の流れ

単位を修得するには、まず科目的「受講登録」を行い、試験結果や平常の評価が合格点に達しなければなりません。

\*学則第13条 授業科目の履修は単位制とし、単位は、試験によるほか、出席その他平素の成績を考慮して認定する。成績評点は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。



### 3. 単位認定について

#### （1）本学以外で修得した単位等の認定について

次の①～③に該当する場合は、あわせて60単位を超えない範囲で、本学において修得した単位として認定することができます。なお、対応する科目を既に修得済み、または登録中の場合は認定できません。

##### ① 入学以前に他大学等で修得した単位等の認定

学生が本学に入学する以前に他大学等で修得した単位等は、教育上有益と認められる場合に限り、本学において修得した単位とし認定されます。この単位認定は、本人の申請により行われます。申請は入学年度、4月の受講登録訂正期間の第1日目まで受け付けます。

##### ② 在学中に他大学等で修得した単位の認定および大学以外の教育施設における学修の認定

在学中に他大学等で修得した科目的単位は、本学において修得したものとみなすことができます。該当する科目は次のとおりです。

- ・「大学コンソーシアム京都」単位互換履修科目
  - ・本学と学術交流協定を締結している提携校（海外を含む）での履修科目
  - ・「海外留学をする者の取り扱いに関する規程」に基づく認定留学による履修科目
- また、大学以外の教育施設における学修も、要件を満たせば単位認定されることがあります。

#### ③ 技能審査・検定等に合格した場合の単位認定

以下の技能審査や検定に合格した場合も、本学において修得した単位として認定されることがあります。ただし、入学以前に合格したものとの申請は、入学年度の定められた時期にのみ受け付けます。単位認定を希望する者は所定の手続きを行ってください。

##### ●申請手続き

- ・資格取得が入学以前の場合（入学年度のみ）
  - 申請窓口 教務部各課
  - 申請期限 入学年度4月の受講登録訂正期間の第1日目まで
  - \*検定合格証（写し）の添付が必要
- ・資格取得が在学中の場合
  - 申請窓口 教務部各課
  - 申請期限 前期セメスター期間 6月末日まで
  - 後期セメスター期間 1月末日まで
  - \*検定合格証（写し）の添付が必要

##### ●単位認定可能な技能審査・検定

「技能審査・検定等に合格した場合の単位認定」は、下記のとおりです。国際化と高度情報化が進展する社会にあって、言語や情報処理機器の運用能力が、ますます重要になっています。認定により、さらに上級をめざし、社会的評価に耐えうる力をつけてください。

##### ・語学関係（英語）

対象	級位スコア等	認定単位数	認定科目名
実用英語技能検定（英検）	準1級～	8	英語ⅠA
TOEIC (IP除く)	600～649 650～699 700～749 750～	2 4 6 8	英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA
TOEFL iBT	72～	8	英語ⅢB
国連英検	A級	8	英語ⅣA
IELTS	5.5～	8	英語ⅣB

##### ・語学関係（第二外国語）

対象	級位スコア等	認定単位数	認定科目名
漢語水平考試（HSK）	1級 2級 3級～	2 4 8	中国語Ⅰ 中国語Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
中国語検定試験（中検）	準4級 4級～	4 8	中国語Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
韓国語能力試験（TOPIK）	1級 2級 3級～	2 4 8	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅰ・Ⅱ 韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

対象	級位 スコア等	認定 単位数	認定科目名
「ハングル」能力検定試験（ハン検）	5級 4級 3級～	2 4 8	韓国語 I 韓国語 I・II 韓国語 I・II・III・IV
実用フランス語技能検定試験（仏検）	5級 4級～	2 4	フランス語 I フランス語 I・II
ドイツ語技能検定試験（独検）	5級 4級～	2 4	ドイツ語 I ドイツ語 I・II

・数学関係

対象	級位 スコア等	認定 単位数	認定科目名
実用数学技能検定（数検）	2級 準1級～	2 4	数学演習 I 数学演習 I・II

・情報処理技術関係

対象	級位 スコア等	認定 単位数	認定科目名
Microsoft Office Specialist検定 Word/Excel/PowerPoint	-	各1	
Microsoft Office Expert検定Word/Excel	-	各1	
日商PC検定試験 (データ活用) / (文書作成)	3級 2級～	1 2	情報処理演習 I 情報処理演習 II
情報検定 情報活用試験	2級 1級	2 4	情報処理演習 III 情報処理演習 IV
ICTプロフェッショナル検定試験（P検）	準2級 1級	1 2	情報処理演習 V 情報処理演習 VI
NTTコミュニケーションズ インターネット検定.com Master ADVANCE	★ ★★	1 2	
情報セキュリティスペシャリスト試験	-	4	
ITパスポート試験	-	4	
検索技術者検定	3級	1	

●注意事項

単位認定は、下記に記した規則の範囲内で行います。

- 成績評価は「N」で認定されます（素点評価なし／GPAの計算対象外）。
- 未修得の科目を、認定単位数の範囲において、履修順序に沿って認定します。
- 修得済みまたは履修中の科目については、認定対象外とします。

**(2) 大学コンソーシアム京都単位互換履修科目**

協定参加大学の提供する授業を相互に履修することができる制度です。

基本的に相手校が受講を認めれば履修することができ、合格した科目は、本学の教養教育科目群の単位として認定されます。大学によっては履修登録等の日程や条件が異なり、希望しても履修できない場合があります。また、この結果をうけて、本学の受講登録を変更することもできませんので、通学時間等を十分考慮して履修計画をたてる必要です。

**(3) インターンシップの単位認定**

在学中に「本学主催のインターンシップ・プログラム」または「大学コンソーシアム京都主催のインターンシップ・プログラム」を修了した場合、本学における授業科目により修得した単位として認定が可能です。単位が認定されると、成績通知書、成績証明書には「N」と表示されます。

単位認定を希望する者は、所定の手続きを行ってください。

- 認定の範囲 本学主催インターンシップ・プログラム、大学コンソーシアム京都主催インターンシップ・プログラム

※ただし、両方のプログラムの単位認定を申請することはできません。

- 認定の条件 インターンシップ・プログラム修了認定を受けた者であること。

所定の手続きにもとづき、認定申請を行った者であること。

・認定の方法

下表のとおり

- 申請方法 提出書類 単位認定申請書（所定様式）  
インターンシップ・プログラム修了証（写し）
- 提出期限 11月中旬（インターンシップ・プログラム実施前ガイドンスにて指定します。）
- 提出先 キャリアセンター

プログラム	単位数	分野	認定科目	成績評価
<b>① 本学主催インターンシップ</b>				
(民間企業等)	2	キャリア教育科目群	キャリア開発演習II	N
(図書館司書)	2	キャリア教育科目群	インターンシップB	
(行政)	2	キャリア教育科目群	インターンシップC	
(NGO・NPO)	2	キャリア教育科目群	インターンシップD	
② 大学コンソーシアム京都 インターンシップ	2	キャリア教育科目群	キャリア開発演習II	

※文学部必修科目「キャリアゼミIII」におけるインターンシップについては、別途「キャリアゼミIII」に関するガイドンスを参照してください。

問い合わせ先 学務第2課

## 第3章 受講登録

### 4. 卒業に必要な単位

#### (1) 科目構成

卒業に必要な科目は、「要卒科目」と呼ばれ、次の分野に大別できます。

分野	内容
基礎教育科目群	大学での学修に必要な基本的な知識やスキルを学びます。
教養教育科目群	社会人として求められる教養を学びます。
キャリア教育科目群	社会人として自立していく準備（就業力の育成）のための将来設計や職業観の構築、社会のルールなどを学びます。
専門教育科目群	各学部・学科の専門的な知識やスキルを学びます。

#### (2) 卒業単位配当表

卒業するためには、4年間以上在学して、学科・コースごとに定められた分野から、必要単位数以上を修得しなければなりません。

（詳細は各学科のカリキュラムマップから確認してください。）

学科	科目 コース	基礎教 育科目	教養教育科目		専門教育科目	合計	
			必修	必修	選択		
日本語	日本語日本文学	10	9	44以上	38	24以上	125
日本文学	書道	10	9	44以上	34	28以上	125
歴史	日本史	14	9	32以上	28	42以上	125
	世界史	14	9	32以上	28	42以上	125
歴史遺産		10	9	36以上	30	40以上	125

### 1. 受講登録とは

受講登録とは、各年度当初の定められた時に、その年度に受講しようとする科目を登録するものです。受講登録は、すべて登録者本人の責任で行います。登録事項に間違いがあった場合、本人がその責を負います。また、登録していない科目の受講はできません。

### 2. 科目の種類

#### (1) カリキュラム上の種類

##### ① 必修科目

必ず修得しなければならない科目です。あらかじめ登録されており、ポータルサイトの画面では青色で表示されています。

※一度不合格となり、次年度再履修する場合は、自身で登録する必要があります。

##### ② 選択必修科目

決められた科目の中から、規定以上の単位を修得することが必修とされている科目です。自分の興味関心のある科目はもちろん、幅広い知識を身につけることを念頭に置きながら計画的な履修を心がけてください。

##### ③ 自由科目

必要または興味に応じて自由に選択することのできる科目です。卒業要件単位には数えません。

#### (2) 受講登録上の種類

##### ① 履修指定科目

必修科目ではありませんが、所属学科の方針や将来のキャリアデザインのために履修が強く推奨されている科目です。原則として削除することはできません。

##### ② クラス指定科目

必修科目や履修指定科目であらかじめクラスが指定されている場合は、原則的にクラスの変更はできません。

##### ③ 抽選実施科目

科目によっては定員を設定しており、その場合はシラバスに定員数を記載しています。登録申請者が定員を超えた場合は教務部各課で抽選を行い、受講者を決定します。抽選にもれた場合は登録が削除されますので、必要に応じて受講登録訂正期間に訂正を行ってください。また、当選した科目的登録を削除（辞退）することはできません。

なお、先の受講登録期間に定員に達さず、追加登録を受け付けた科目的申請者が定員を超えた場合は、追加申請者を対象にあらためて抽選を実施します。

##### ④ 定員到達科目

定員に到達した科目は、訂正期間中に追加で登録することができません。教務部各課からの連絡をよく確認するようにしてください。

## 4. 受講登録の流れ

登録に関する年間のスケジュールは以下のとおりです。詳細な日にちについては、毎年度、事前に通知されます。教務部各課からの連絡は、必ず確認するようにしてください。

3月中旬	上回生 受講登録期間※
3月下旬	抽選結果ポータルサイト配信・掲示
4月初旬	新入生登録期間
4月上旬	前期授業開始
4月中旬	受講登録訂正期間
4月下旬	定員到達講義・抽選実施講義結果発表 「学生時間割表」確認期間
9月中旬	後期登録訂正期間
9月下旬	後期授業開始
10月上旬	定員到達講義・抽選実施講義結果発表 「学生時間割表」確認期間

## 3. 受講登録スケジュール

## 5. 受講登録上限

### (4) 登録申請科目の確認

前期・後期ともに、登録期間終了後に時間割確認期間を設けています。これは、自身がどのような科目を登録したかを確認するための期間です。

受講登録期間に登録した内容は、ポータルサイト「受講確認」画面、また学務第2課横に設置のパソコンから印刷できる「学生時間割表」に随時反映されますが、抽選対象となる科目もあり、最終確定版ではありませんので注意してください。

学修すべき科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的として、各回生で登録できる単位数の上限を設けています。登録の際は、この上限単位数を超えて登録することはできません。

なお、本学以外で修得した単位等で申請により認定された単位（8ページ参照）およびインターンシップの単位認定は、上限の対象外とします。

※「キャリアゼミⅢ」での認定を除く。

要卒単位・資格関係科目	1回生	2回生	3回生	4回生
文学部	49	48	48	48

## 6. 注意事項

### (1) 配当回生

各科目には履修できる回生が決められており、履修するには自身の回生が配当回生に達している必要があります。例えば、3回生の学生が1回生配当の科目を履修することはできますが、1回生の学生が3回生配当の科目を履修することはできません。

### (2) 重複履修

すでに単位を修得済みの科目を、もう一度登録することはできません。また、同一学期の同一講時に、2つ以上の科目を重複して登録することはできません。集中講義を複数登録する際は、授業日程に重複がないか、自身でよく確認を行ってください。

※教務部各課での日程重複のチェックは行いません。重複する科目の受講登録を行った場合、一方の科目に出席できなくなり、単位を修得できません。

### (3) 他学部・他学科科目の履修

資格取得などの関係により、所属する学部以外の科目を、一部の科目を除いて随意科目（要卒単位外）として履修することができます。希望する場合は、受講登録期間中に教務部各課へ申し出てください。

### (4) 秋期集中科目、通年集中科目の登録・削除

8月下旬～9月中旬の間に行われる「秋期集中科目」と、前後期通して不定期に行われる「通年集中科目」は、9月の後期登録訂正期間での登録・削除を認めていません。前期の登録訂正期間までに登録・削除をおこなってください。

### (5) 前提科目の合否と履修制限

科目によっては、「A科目の単位を修得済みでないとB科目を受講登録できない」などの制限がある場合があります。『履修の手引き』でよく確認してください。

### (1) 履修計画の立てかた

履修計画は、この『履修の手引き』をよく読んでポータルサイトから配信される各年度のシラバスや時間割を参考にしながら、慎重に行ってください。同時に、クラスアドバイザーや各学科教務委員、教務部各課の職員の指導も参考にしてください。

※シラバスとは「授業計画書」のことです。みなさんがその授業について知り、理解するためのものです。シラバスを見て、自分が何のために何をどのように学び、何ができるようになるのかを明確化し、具体的にイメージしてみてください。その授業を履修するかどうかを判断しやすくなります。なお、シラバスは本学のホームページから閲覧できます。

### (2) 受講登録期間

受講登録は以下の手続きで行いますが、「指定された期間に登録・訂正・確認ができない」などの責任は全て学生自身の責任となります。この『履修の手引き』や学年暦、掲示や配布物による登録関係の連絡事項に十分注意して、間違いないように行ってください。

#### ① 登録期間・登録訂正期間（前期）

在学生の登録期間は3月中旬、新入生は4月初旬です。後期科目についても登録期間に一括して登録しなければいけません。登録期間後に登録訂正期間を設けていますので、科目の追加や削除ができます。ただし後期の科目を後期登録訂正期間の時に登録しようとしても、定員到達や抽選（13ページ参照）のため、登録できないことがあります。年間の履修計画を登録期間にしっかり立てるようにしましょう。

#### ② 登録訂正期間（後期）

前期に行った登録のうち、後期科目の追加・削除ができますが、通年科目や秋期集中科目の追加・削除はできません。

#### (3) 登録申請

登録はWeb上のポータルサイトから行いますが、登録期間以外は登録画面に入ることができません。また、ポータルサイト上にある「受講登録マニュアル」を確認してから受講登録を行うようにしてください（25ページ参照）。

## 第4章 授業・試験

### (6) 登録に関する質問

- 『履修の手引き』『受講登録の注意事項』『履修ガイダンス等での配布資料』を読んでも、分からなかった場合の質問は、以下いずれかの方法にて受け付けます。
- ①教務部各課窓口にて『受講登録に関する質問票』を提出する。
  - ②教務部のメールアドレス (academic@tachibana-u.ac.jp) へメール送信する。
- ※件名は、「【登録の質問】学籍番号・氏名・〇〇〇〇について」としてください。

### 7. 履修辞退

登録した科目の履修ができない、また、履修を継続できない特別の理由が生じた場合、下記の条件で履修辞退を認めることができます。許可された場合は、その科目の成績評価はGPAの計算対象外となり、「成績通知書」には履修辞退を表す「W」が表示されます。

また、履修辞退が許可された場合、辞退した科目の単位数分の科目を受講登録訂正期間に追加登録することができます。「履修辞退」の申請要領は、下記のとおりです。

#### (1) 申請理由 以下の理由により、受講が困難となる場合を原則とします。

- ① 病気・事故による入院または加療
- ② 日時を指定された通院
- ③ 実習・介護等体験・インターンシップと集中講義との日程重複

#### (2) 申請期間

各セメスター、学年暦上の授業終了日まで

※集中講義については、各集中講義期間の最終日まで申請を受け付けます。

#### (3) 受付時間

教務部各課窓口時間

#### (4) 提出先

教務部各課のカウンターで申し出てください。

#### (5) 申請書類

以下の書類を一式として申請時に提出してください

- ① 所定の申請書 (教務部各課前レターケース)
- ② 学生時間割表
- ③ 辞退理由を証明する書類

※病気等が辞退理由の場合は診断書、公募型インターンシップの場合は「理由書」が別途必要です。

### 1. セメスター (学期)

1年を2学期に分け、4月1日から9月20日までを前期セメスター(春学期)、9月21日から3月31日までを後期セメスター(秋学期)としています。授業は各15週、年間35週(ガイダンス、集中講義等を含む)を原則としています。

授業科目はこれによって、原則的に各セメスターで完結します。開講形態としては、週2回の授業を行うものと、週1回行うもの、曜日講時を固定せず、不規則に行うものと/or大別されます。

ただし一部科目は、通年制をとるものがあります。

### 2. 授業時間

授業は原則として、月曜日から金曜日まで行います。ただし、一部の授業は土曜日に実施されることがあります(図書館など大学の業務は一部行っています)。

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時
9:00~10:30	10:45~12:15	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	18:10~19:40

### 3. 各種講義

#### (1) 個別の日程で行われる講義

「毎週○曜日△講時」という決まった枠で行われない講義があります。一定の連続した期間や、不規則な日程で行うものがあり、それらをまとめて「集中講義」としています。

ポータルサイトの「時間割個別日程表」で講義日程を確認することができます。

#### (2) 振替授業

授業担当教員の判断で、通常の授業のかわりに、他の催し等への参加をもって授業への出席とみなすものです。(詳細は、ポータルサイトで連絡します。)

#### (3) eラーニング講義

eラーニング講義として開講する科目があります。インターネットによるビデオ視聴となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。

ビデオ視聴の際は、Internet Explorer、Google Chromeなどの推奨されたブラウザを使用してください。

### 4. 休講と補講

大学または授業担当教員のやむを得ない事由により、授業を休講することができます。休講連絡はポータルサイトで行います。

休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても授業担当教員が入室しない場合は、教務部各課に連絡して指示を受けてください。休講についての電話照会には応じません。

休講した授業は、必ず補講が実施されます。また、試験実施など、授業担当教員の判断で補講を行うことがあります。補講連絡はポータルサイトで行います。

### 5. 臨時休講 措置

次の①②③のいずれかに該当する場合、授業は休講となります。

①暴風警報もしくは暴風雪警報または特別警報が京都市または京都市を含む地域に出された場合

②台風等の災害やストライキ等のために京阪バス(山科・醍醐地域系統)と地下鉄東西線が両方とも不通になった場合

③下記の4交通機関のうち、3交通機関以上が不通の場合

JR西日本(大阪から草津を基準とします)

## 第5章 成績

阪急電車（京都線梅田から四条河原町を基準とします）  
近鉄電車（京都から橿原神宮前を基準とします）  
京阪電車（本線・淀屋橋から出町柳を基準とします）  
※上記の暴風警報等の解除・交通機関の開通の場合は、次の原則で授業を開始します。  
a. 午前6時30分までに解除・開通になった場合は平常通り授業を行います。  
b. 午前10時までに解除・開通の場合は第3講時（13時）から授業を行います。  
c. 午前10時を過ぎても解除・開通しない場合は全日休講となります。

### 6. 出席・欠席

#### （1）出席管理について

入学時に出席管理用の学生証を配布しています。授業に出席した時には、カードリーダーに学生証をかざしてください。

- ・授業時に忘れた場合や出席・欠席の情報の間違い → 授業担当教員
- ・紛失や破損・磁気不良（読み取りが出来ない等） → 学生支援課

なお、授業担当教員の判断により、カードリーダー利用に加えて、別の方法で出席確認を実施する場合があります。

#### （2）欠席について

本学では、単位制度の考え方に基づき、授業はすべて受けることを前提とし、欠席した分の学修は自分で進める基本としています。やむを得ず授業を欠席する（した）場合は、自分の意志でその理由等について「欠席連絡票」を用いて担当教員に報告し、指導を受けてください。

※欠席の取り扱いは科目によって異なります。

※わずかな欠席でも単位修得が認められない科目もあります（シラバス参照）。

※「欠席連絡票」は、事由の発生前または発生後すみやかに担当教員へ申告してください。

### 1. 成績評価

#### （1）評価種別

成績評価は、点数により評価し、評点と評価記号により通知します。評点は100点満点で、60点以上が合格で単位が認められます。59点以下の科目は不合格であり、単位は認められません。本学以外で修得した単位等が認定された場合、認定の種類に応じて評価記号が異なります。

評価方法	評価記号	評点	ポイント	合否	GPA算出対象
点数評価	S	100~90	4	合格	対象
	A	89~80	3	合格	
	B	79~70	2	合格	
	C	69~60	1	合格	
	D	59~0	0	不合格	
単位認定	T	あり	点数評価に準拠	合格	対象
	N	なし	なし	合格	対象外
	H	なし	なし	合格	対象外
評価外	W	なし	なし	履修辞退	対象外
	Y	なし	なし	履修条件未達	

※成績証明書には、合格科目の評価記号のみが記載されます。

#### （2）評価方法と項目

成績評価は、学習者が授業の到達目標をどの程度達成したかを確認するものです。科目や授業を担当する教員によって、評価方法や評価基準がことなります。評価方法・評価基準は、シラバスに記載されています。

評価項目は、「試験・レポート」、「小テスト」、「授業中課題」、「授業中発表等」、「参加度」の5つで、合計100%で配分されています。

成績評価方法	項目の説明
試験・レポート	期末に行われる、授業のまとめとして実施するテスト・レポート。
小テスト	授業中に任意の時期に実施する小テストなど。
授業中課題	授業中に提出を求める課題や、コミュニケーション・ペーパー、コメントシート、授業期間中の任意の時期に提出を求める小レポートなど。
授業中発表等	授業中のプレゼンテーション、制作発表やディスカッション内容、実技、実習など。
参加度※	出席率や、学生の授業への参加態度、積極性、クラスへの貢献度など。

※参加度とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したものです。授業に全回出席しても、参加度分の点数を獲得できるわけではありません。

### 2. 不正行為の禁止

不正行為とは、成績評価の対象となる事項について正当でない手段をもって、自己または他人の便宜をはかる行為のことを指します。学生としての本分を守り、単に不正行為を行わないだけでなく、誤解を与えるような紛らわしい行為を行わないように十分注意してください。不正行為となる一例は、以下のとおりです。

#### （1）不正行為の例

- ① 試験などで指定された物品以外を使用する
- ② 試験などで監督者の指示に従わない
- ③ 他人と答案や提出レポートを交換する

- ④ 他人の答案をのぞき見する
- ⑤ 他人の提出レポートを写す

#### (2) 不正行為が発覚した場合

試験、レポートなどにおいて不正行為を行ったと認められた場合は、懲戒処分にするとともに、その学期に履修しているすべての科目的成績を「0点」とします。この単位不認定により、単位修得状況によっては4年間での卒業ができなくなることがあります。

### 3. 試験における注意事項

- 試験については、以下の点に注意して受験してください。
- (1) 座席を指定された科目については、指定された席で受験してください。座席表は、教室入り口に掲示します（座席を指定しない場合もあります）。
  - (2) 「学生証」の提示を指示された場合は、机上に写真面を上に提示してください。「学生証」を試験当日に忘れた場合は、試験監督に申し出て、指示に従ってください。
  - (3) 「学生証」を忘れ、「仮学生証」が必要になった場合は、学生支援課に申し出てください。発行日および有効期限は試験日当日のみです。
  - (4) 試験場では、試験のために必要な筆記用具および特に許可されたもの以外の携帯品は鞄等の中にしまってください。また、携帯電話やその他電子機器類は必ず電源を切った上で、鞄等にしまってください。
  - (5) 試験開始後の入室、退室については、試験監督の指示に従ってください。
  - (6) 一切の不正行為を厳禁とします。不正行為を行ったと認められる場合は、該当する学期の全ての受講登録科目的成績を『0点』とします。
  - (7) 上記の他、試験場では試験監督の指示に従ってください。
  - (8) 試験の受験にあたっては、不正行為はもちろんのこと、不正行為と誤解を招く行為についても十分注意してください。

#### (1) 通知時期

成績は、前期終了後（9月上旬～）と後期終了後（3月上旬～）に通知します。卒業回生の卒業判定結果については、2月末に通知します。

一部科目においては、授業スケジュールの関係上遅れて通知することがあります。別途連絡があるので、確認するようにしてください。

#### (2) 通知方法

学務課カウンター横の証明書自動発行機から「成績通知書」を各自出力して、確認してください。なお、ポータルサイトで確認することも可能です。また、父母へは、学生への通知日と同日に郵送で通知されます。

### 4. 成績通知

#### (1) 成績疑義とは

成績通知を受けた学生が、不合格科目的結果について再確認を求める制度です。対象の科目が不合格の場合（評価59点以下）に該当します。定められた期間に教務部各課まで申し出てください。

この制度は、成績訂正を求める制度ではありません。与えられた点数についての不服申立てなど、疑義の内容によっては受付けることができませんので、ご注意ください。

### 5. 成績疑義

#### (2) 成績疑義の流れ

所定の申請用紙に記入後、教務部各課に提出してください。申請用紙は、教務部各課のカウンターにあります。

回答は教務部各課から口頭で伝えられます。内容によっては、すぐに回答ができないことがあります。その場合は、追って連絡があります。

### 6. GPA (グレード・ ポイント・ アベレージ)

#### (1) GPAとは

GPAとは、「学業成績の平均点」のことです。修得単位数の水準を知るうえでの指標となります。S～Dの評価記号に応じて、それぞれ0～4ポイントが付与されます。

#### (2) GPAの活用方法と算出対象

GPAは、履修指導の対象者、資格課程、奨学金などの選抜に活用されることがあります。算出の対象については、19ページの「評価種別」の表を確認してください。なお、過去に不合格となり、再履修後に合格となった場合、不合格科目はGPAの計算から除外されます。

算出方法については、以下の計算方法となります。

$$GPA = \frac{\text{(履修登録した科目的うちGPA算出科目的単位数} \times \text{当該科目的ポイント)}}{\text{履修登録した科目的うちGPA算出科目の総単位数}}$$

### 7. 修学支援について

各クラスにはクラスアドバイザーが配置されており、日常的に履修、学習上の相談や助言を行っています。履修にあたって聞きたいことなどがあれば、積極的にクラスアドバイザーに相談してください。また、各学期の単位修得状況や出席状況などによって一定の基準を設け、必要に応じてクラスアドバイザーからの面談等を行っています。

新しい学年が始まる前には学科ごとに「履修ガイダンス」を実施します。次年度の履修計画を立てる際に必要となる重要な事項を連絡しますので、必ず出席してください。履修ガイダンスの日程は毎年度ポータルサイトを通じて連絡します。

## 8. 成績通知書の見かた

# 成績通知書

a1020XX001 橋 太郎 通常  
 学年クラス: 4回生 d  
 所 属: 文学部日本語日本文学科日本語日本文学コース  
 発行日: 2016年〇月×日

科目名	単位	評価	修得期
基礎教育科目・必修			
日本語表現I	2	89:A	2013 前期
日本語表現II	2	91:S	2013 後期
キャリアコミュニケーションI	2	93:S	2014 前期
キャリアコミュニケーションII	2	90:S	2014 後期
英語I A	1	78:B	2013 前期
英語I B	1	76:B	2013 前期
英語II A	1	72:B	2013 後期
英語II B	1	73:B	2013 後期
情報処理演習I	1	100:S	2013 前期
情報処理演習II	1	86:A	2013 後期
教養教育科目/キャリア教育科目・必修			
教養入門	2	95:S	2013 前期
キャリアデザイン入門	2	73:B	2014 前期
教養教育科目/キャリア教育科目・選択			
人間と知の伝達領域			
現代の思想分野			
日本人と宗教	2	100:S	2013 後期
メディアと情報分野			
現代のメディアと表現	2	82:A	2016 前期
数学演習I	2	N認定	2013 前期
数学演習II	2	N認定	2013 後期
人間と文化領域			
外国語と文化理解分野			
比較文化論	2	95:S	2013 前期
異文化コミュニケーション論(人文)	2	84:A	2013 後期
芸術と文化	2	96:S	2013 前期
中国語I	2	99:S	2013 前期
中国語II	2	96:S	2013 後期
中国語III	2	59:D	2016 前期
人間と社会領域			
法律・行政・政治分野			
法学概論I	2	75:B	2013 前期
経済・経営・社会分野			
家族の心理・社会学	2	67:C	2013 後期
時事問題研究	2	93:S	2013 後期
人間と自然領域			
自然と環境分野			
地球環境論	2	100:S	2015 前期
エコロジー研究	2	85:A	2013 前期
キャリア科目・選択			
キャリア開発演習I	2	92:S	2014 後期
キャリア開発演習III	2	83:A	2014 後期
よそおいの心理学	2	81:A	2014 前期
広告心理学	2	82:A	2016 前期
生涯学習概論I	2	70:B	2014 前期
博物館学概論	2	86:A	2013 前期
博物館経営論	2	80:A	2014 後期
博物館資料論	2	72:B	2014 前期
博物館保存論	2	91:S	2014 前期
博物館展示論	2	85:A	2014 後期
博物館教育論	2	93:S	2013 後期
博物館実習I	1	95:S	2015 前期
博物館実習II	1	90:S	2015 後期
専門教育科目・必修			
研究入門ゼミI	2	76:B	2013 前期
研究入門ゼミII	2	85:A	2013 後期
基礎演習I	2	89:A	2014 前期
基礎演習II	2	83:A	2014 後期
日本語日本文学演習I	2	85:A	2015 前期
日本語日本文学演習II	2	83:A	2015 後期
日本語日本文学演習III	2	90:S	2016 前期
専門教育科目・選択			
区分1			
日本語学概説I	2	63:C	2013 前期
日本語学概説II	2	77:B	2013 後期
区分2			
日本語日本文学講読e(平安文学研究I)	2	75:B	2014 前期
日本語日本文学講読f(平安文学研究II)	2	93:S	2014 後期
日本語日本文学講読g(古典文学研究I)	2	75:B	2014 前期
日本語日本文学講読h(現代文学研究I)	2	77:B	2014 前期
日本語日本文学講読I(現代文学研究II)	2	90:S	2014 後期
日本語日本文学講読m(メディア・表現研究I)	2	78:B	2014 前期
日本語日本文学講読n(メディア・表現研究II)	2	61:C	2014 後期
日本語日本文学講読p(文芸創作実習)	2	88:A	2014 後期

科目名	単位	評価	修得期
区分3			
日本語日本文学特講e(京都と文学)	2	90:S	2015 前期
日本語日本文学特講f(女性文学研究)	2	80:A	2015 後期
日本語日本文学特講i(近代文学研究III)	2	80:A	2015 前期
日本語日本文学特講j(近代文学研究IV)	2	75:B	2015 後期
日本語日本文学特講k(現代文学研究III)	2	70:B	2015 前期
日本語日本文学特講l(現代文学研究IV)	2	95:S	2015 後期
日本語日本文学特講m(メディア・表現研究III)	2	86:A	2015 前期
日本語日本文学特講n(メディア・表現研究IV)	2	94:S	2015 後期
その他選択必修科目			
日本美術史I	2	100:S	2015 前期
日本美術史II	2	71:B	2015 後期
文化・文化交流史I	2	93:S	2014 前期
文化・文化交流史II	2	93:S	2014 後期
古都学I	2	74:B	2015 前期
古都学II	2	93:S	2015 後期
資格関係科目			
博物館情報・メディア論	2	85:A	2014 後期
**合計**	136		

単位修得状況	必要単位	修得単位
基礎科目・必修	14	14
教養/キャリア・必修	4	4
教養/キャリア・選択	44	44
人間と知の伝達	4	8
人間と文化	4	10
人間と社会	4	6
人間と自然	4	4
キャリア科目・選択		24
専門科目・必修	22	14
専門科目・選択	40	40
区分1	4	4
区分2	16	16
区分3	16	16
その他選択必修科目から		12
【卒業所要単位合計】	124	116
資格関係科目		2
随意科目		16

卒業判定 △

④

### ① 履修科目別単位・成績(評点・評価記号)・履修年度記載欄

履修したすべての科目(合格科目・不合格科目・履修辞退した科目)の単位・成績(評点および評価記号)・履修年度および履修学期が表示されます。

### ② 単位修得状況・卒業判定欄

卒業に必要な単位数に加えて、各自が修得した単位が分野別に集計して記載されます。分野ごとの修得単位数が記載されます。

卒業要件として集計されない単位は、随意科目の集計欄に表示されます。

卒業回生(4回生以上)には下欄に卒業見込判定を記載しています。修得済み単位および履修中単位数の合計が卒業要件単位数を満たしている場合は卒業見込を表す「△」が表示され、卒業要件単位数が足りていない場合は、卒業不可を表す「×」が表示されます。

なお、卒業決定時には「△」のかわりに、「○」が表示されます。

### ③ 免許・資格の取得状況を表示するエリア

取得(または受験)可能な資格の取得状況を記載します。記号の意味は、卒業判定欄と同じです。

### ④ GPAを表示するエリア

入学から成績通知書作成時点までの累計およびセメスターごとのGPAを表示します。

### ⑤ 単位認定によって修得した単位を表示するエリア

単位認定によって修得した合計単位数を表示します。

④

③

⑤

現在認定されている単位数は合計 4単位です。(ただし、Hの認定は除く。)

## 第6章 WEBシステム

### 1. ポータル サイト

ポータルサイトでは受講登録や授業の教室、時間割やシラバスの確認をはじめ、休講・補講掲示の確認や大学からの重要な連絡事項の確認などを行うことができます。

#### (1) 機能一覧

タブ名称	機能名	機能
ポータル	メッセージ	大学からの連絡を確認します。
	教務情報参照	時間割や教室の確認授業の休講・補講、教室変更情報や授業に関する連絡を確認します。
履修	受講登録	受講登録を行います。
	成績照会	成績を確認します。
シラバス	検索する	シラバスを検索します。
	お気に入り	お気に入りに登録したシラバスを閲覧します。

#### (2) ログイン

ポータルサイトを利用するにはログインを行う必要があります。

※ポータルサイトのID・パスワードは入学時に配布されます。無くさないようにしてください。

- 京都橋大学HPより「在学生の方へ>ポータル1,2,3」と進み、ポータルサイトを開きます。(https://portal1.tachibana-u.ac.jp/portal/top.do)
- 「ユーザID」「パスワード」を入力し、「ログイン」ボタンを押します。

※ポータルサイトへログイン中は、ブラウザの「戻る」ボタンを使用しないでください。

### 2. 受講登録

受講登録とは、各年度当初の定められた時に、その年度に受講しようとする科目を登録するものであり、受講登録は年間の受講科目を定める重要な作業です。

受講登録はポータルサイトから行います。このマニュアルをよく読んで、入力間違いや登録漏れがないようにしてください。

卒業要件を満たすためにはどの科目を受講すれば良いのか、「履修の手引き」や「受講登録注意事項」を参考にして、よく考えてから登録を行ってください。

#### (1) 受講登録を行う

受講登録の手順は以下のとおりです。なお、入力ミスや誤って別の画面に移動してしまったなどして、前のページに戻りたい場合は、画面内にある「戻る」をクリックしてください。ブラウザバック（インターネット画面の左上の「←」）のボタンを押すと、エラーになり、入力した内容が消えてしまいますので、注意してください。万が一、エラーになってしまった場合は、ポータルサイトへのログインからやり直す必要があります。

- 画面上部のタブより「履修」を選択します。



- 画面左側のメニューより「受講登録」を選択します。



- ③ 受講登録を行う曜日・時限の鉛筆ボタンをクリックします。  
必修科目など、必ず受講しなければならない科目はあらかじめ登録されています。それらは青色で表示され、削除することはできません。

後期の科目を登録するには時間割表の上部にある「後期へ」をクリックします。

- ④ 鉛筆ボタンをクリックすると、その時限での履修可能科目が表示されるので、受講したい科目のチェックボックスにチェックを入れ、「登録」ボタンをクリックします。

- ⑤ 「登録」ボタンを押すと、先ほど選択した講義が時間割表に黒で表示されます。選択した科目が正しく反映されていることを確認してください。この段階ではまだ登録は完了していませんので、注意してください。

- ⑥ ③～⑤の手順を繰り返し行って、受講登録作業を進めていきます。  
全ての科目を登録し終えたら、「確認画面へ」のボタンをクリックします。

- ⑦ 「確認画面へ」のボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。登録をした科目が全て反映されているかを確認した上で、「申請」ボタンをクリックします。「申請」ボタンをクリックすると、「申請してもよろしいですか?」と最終確認の画面が出ますので、「はい」をクリックします。

「申請」ボタンをクリックしない限り、受講登録を完了したことにはなりません。  
なお、登録期間中は何度も申請することができます。

(2) 受講登録した科目を確認する

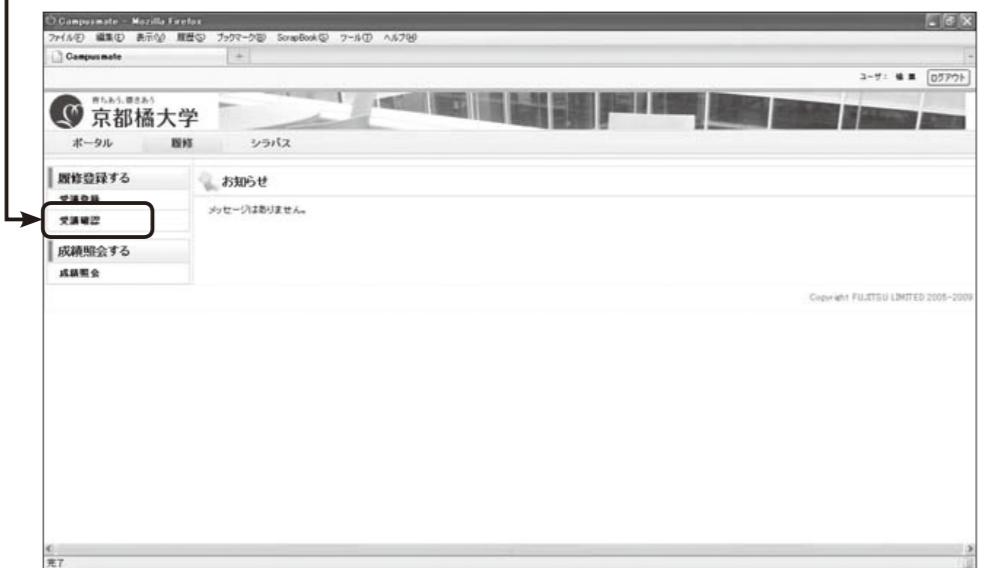
登録作業を行っている際にインターネットの接続状況が不安定だったり、通信中・ページ移動中に画面を閉じてしまったりすると、受講登録の申請ができていないことがあります。

これらの不具合による受講登録の未申請を防ぐため、受講登録を終えた後は、必ず受講確認画面を見るようにしてください。受講確認画面の見かたは、以下のとおりです。

① 画面上部のタブより「履修」を選択します。



② 画面左側メニューより「受講確認」をクリックします。



③ 受講登録の申請が問題なく完了している場合は、登録した全ての科目が時間割表に表示されます。また、画面上部の「最終申請日時」に申請ボタンを押した日時が表示されます。

**「最終申請日時」に日時が表示されていない場合は、受講登録が完了できていません。**  
**5ページに書かれている手順を再度行ってください。**なお、「受講確認」メニューは、受講登録期間中に使用するものです。受講登録期間終了後は、「MY時間割」より確認してください。



※受講確認画面に表示される科目は、「受講登録申請」をした科目です。抽選等により、  
**実際の受講科目は変更される場合があります。**

最終的な受講科目は、時間割確認期間中に「学生時間割表」で必ず確認するようにしてください。学生時間割表は、学務第2課カウンター横にある証明書発行端末から出力できます。

### 3 メッセージ転送

メッセージおよび教務掲示に配信される情報は、任意のアドレスへ転送することができます。

① 左側のメニューより「メッセージ転送設定」を選択します。

※「ポータル」が選択されていない場合は、画面上部のタブより「ポータル」を選択します。

② それぞれの項目に値を設定し、「確認」ボタンをクリックします。

・E-Mailで受け取りたい情報

転送したい情報にチェックを入れます。

・E-Mailアドレス

転送先のアドレス、転送する内容（タイトル、またはメッセージの件数）、転送時刻を指定します。アドレスは最大3つまで設定できます。

③ 確認画面が表示されますので、内容が正しければ「登録」ボタンをクリックします。

※転送設定を登録すると portal@tachibana-u.ac.jp から登録したメールアドレスへメッセージが送られます。メッセージが受信できない場合は再度入力内容を確認してください。

※携帯電話などに転送する場合は、portal@tachibana-u.ac.jp からのメールを受信できるように設定してください。

## 2. 学習支援システム KT-note

本学では、学生のみなさんが主体的・積極的な学習姿勢を獲得することを支援するとともに、教職員によるより適切な学習支援に役立てるために学習支援システムKT-noteを運用しています。

KT-noteでは、①授業のレポートや課題を提出する、②各種アンケートに回答する、③自身の学習状況を確認する、といったことができます。KT-noteでは、出席状況や単位修得状況などとあわせて、いつでも自身の学習状況を確認するようになっています。このシステムを利用し、自身の学習の振り返りと学習計画立案のツールとして活用してください。

なお、KT-noteでは、教職員による学生支援に活かすことを目的として、みなさんの学修の記録をはじめ、従来から大学で管理していた成績情報や面談記録などを管理し、必要に応じて関係する教職員で共有しますが、閲覧権限は厳格に管理しており、学生の学修指導以外の目的には利用しません。

### (1) ログイン

QRコードを読み込み「KT-note」へアクセスします。

<https://portfolio.tachibana-u.ac.jp/>



HPの「在学生の方へ」からもアクセスできます。



ID、パスワードを入力し、ログインボタンをクリックします。ID、パスワードはポータルサイトと同じです。



## (2) トップページ

トップページには未確認の授業中課題、レポートや実施中のアンケートが表示されます。



## (3) 提出物の確認

「確認する」や「回答する」をクリックすると、それぞれの授業中課題、レポートなどの提出物やアンケートに回答することができます。授業資料の確認もここからすることができます。

「過去の〇〇を見る」をクリックすると、既に提出した提出物や授業資料を確認することができます。



## (4) 基本情報の確認

大学に登録されているさまざまな情報を確認することができます。「出席情報」からは出席カードの読み取り状況を、「提出物情報」からは過去の提出物をすべて確認することができます。過去の自分の学習状況を振り返ることができますので、定期的に確認すると良いでしょう。



## 第7章 海外留学

3. 学習支援  
アプリ  
educa  
(エデュカ)

本学では、学生のみなさんがスマートフォン等を使用し、スキマ時間を利用した学習支援に役立てるために学習支援アプリ educa (エデュカ) を運用しています。

educa では、①授業の予習復習ドリルを行う②授業の予習復習資料を閲覧する③授業の予習復習動画を閲覧する、といったことができます。このアプリを利用し、習慣的な学習ツールとして活用してください。

なお、educa では、教職員による学生支援に活かすことを目的として、みんなの学習状況に関する記録を管理・共有しますが、閲覧権限は厳格に管理しており、学生の学習指導以外の目的には利用しません。

## (1) ダウンロード

① iOS 対応スマートフォンの方は Appstore、Android 対応スマートフォンの方は GooglePlay へアクセスします。

② 「educa」と検索し、京都電子計算株式会社 (Kyoto Information Processing Service co .ltd) 提供のアプリを選択し、ダウンロードします (無料)。

※ 類似する名前のアプリが複数ありますので、注意してください。

## (2) ログイン

① アプリ立ち上げ後、教育機関コード入力画面になりますので、6桁の数字【012194】と入力します。

② ユーザーログイン画面になりますので、ポータルサイトで使用しているものと同じ ID とパスワードを入力します。

## (3) トップページ・科目コンテンツ選択画面

トップページには課題が出てる科目など、あなたが取り組むことができる科目が表示されます。

## (4) 単元選択画面

科目もしくはコンテンツを選択すると、学習する単元が表示されますので、学習したい分野を選択し、学習をはじめます。

本学では、海外留学を通じて学生が国際的視野を広め、異文化理解を深めることを期待して、さまざまな海外留学の機会を設けています。海外留学に関する業務は「総合教育課」(リバティホール1F) で取り扱っています。

制度	対象学部・学科
交換留学・認定留学・各種海外研修	全学部・全学科 ※各学部・学科・コース主催研修は所属生のみ
SAP (スタディー・アブロード・プログラム)	・国際英語学部 ・現代ビジネス学部経営学科 ※経営学科生の場合は、半年プログラムのみ

## ●長期留学制度

## 1. 交換留学制度

## (1) 制度

本学と交換留学協定を締結している下記の大学へ約1年間留学する制度です。留学期間は在学期間に算入されます。

## (2) 単位

- 留学期間中に修得した単位は8~12ページの単位認定とあわせて、60単位を上限として本学の卒業に必要な単位として認定されますので、4年間で卒業が可能です。
- 4回生時に留学する場合は、帰国後さらに修学が必要となる場合があります。

## (3) 派遣先大学

国名	派遣先大学	人数	本学学費	海外学費	海外寮費	滞在費	派遣時期
オーストラリア	ラ・トローブ大学	2	要納入	免除	自己負担	自己負担	2月~11月
カナダ	オカナガン大学	1	要納入	免除	自己負担	自己負担	9月~5月
中国	西北大学	1	要納入	免除	免除	自己負担	3月~1月
韓国	カトリック大学	2	要納入	免除	免除	自己負担	3月~12月
	慶熙大学	1	要納入	免除	免除	自己負担	3月~2月



ラ・トローブ大学



オカナガン大学



西北大学



カトリック大学



慶熙大学

#### (4) 募集、応募

- ・交換留学生の募集は、例年1月頃から掲示およびポータルサイトで通知します。
- ・応募時にTOEFLスコア等の一定の書類が必要となりますので、早期から窓口で相談・質問することや、留学説明会・留学生帰国報告会へ出席するなど、計画的な準備が必要です。

### 2. 認定留学

#### (1) 制度

海外姉妹校・協定校以外の大学でも、正規の高等教育機関（大学に相当）であれば「正規留学」することができます。この場合、各人は希望する海外大学に自分で出願手続きをし、入学許可書を取得しなければなりません。先に留学希望者が取得した単位等を本学が後から認定するため、この留学制度を「認定留学制度」と呼びます。

#### (2) 単位

- ・留学期間は在学期間に算入され、留学期間中に修得した単位は、60単位を上限として本学の卒業に必要な単位として認定されますので、4年間で卒業が可能です。
- ・4回生時に留学する場合は、帰国後さらに修学が必要となる場合があります。

#### (3) 認定基準

- ・本学海外協定校と同等、またはそれ以上のレベルの大学であることが必要です（本学協定校は後述の「○協定校一覧」を参照）。
- ・留学先の大学で、語学以外の正規科目を1科目以上履修し、単位を取得する必要があります。語学学校等での語学学修のみでは認定留学と認めていません。
- ・認定留学中は、本学の一部学費が免除されることがあります。
- ・このケースで留学を希望する者は、事前に具体的な資料を揃えて、総合教育課で早期に指導を受けてください。

国名	派遣先大学	人数	本学学費	海外学費	海外寮費	滞在費
特定しない	正規の高等教育機関（大学は特定しない）	制限なし	要納入	自己負担	自己負担	自己負担

### 3. 海外留学に際しての特例措置

本学の海外留学制度の適用を受けて留学する場合、海外との教育制度の違いによって生じる、主として受講登録に関する諸問題については特例措置を取っています。

- (1) 海外に留学した者は、翌年5月31日までに帰国し所定の手続きを行えば、帰国年度の受講登録が認められます。
- (2) 4月1日～5月31日までの不在期間は、担当教員の了解が得られれば欠席扱いとなる場合があります。

### 4. 長期留学の相談・手続き

- (1) 海外留学に関する学生指導は総合教育課で行います。総合教育課では、海外の大学に関する資料収集・情報提供等を行うほか、留学希望者に対する個別相談も随時行っています。また、留学に関する奨学金制度や成績、学籍、帰国後の履修等に関する相談にも対応します。
- (2) 出願の受け付けも総合教育課で行います。「留学志願票」等、本学所定の書類の他に留学先の大学が設けている語学レベルの基準に達していることを証明する書類（TOEFLスコア等）が必要です。

(3) 海外留学制度の適用を受けて海外留学した学生は、帰国後直ちに帰国報告の諸手続きを行わなければなりません。「留学終了届」の他に留学先大学で取得した成績証明書等の必要な書類を揃えて手続きを行ってください。指定された期日に遅れたり、書類上の不備があったりする場合は、単位認定がされないばかりでなく、正規留学が1年前に遡って取り消されることもありますので注意してください。

### 5. SAP (スタディー・アブロード・プログラム)

#### (1) 1年間の留学プログラム ※国際英語学部生のみ

- ・留学先はアメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、アジアの6カ国を予定。各国でトップレベルの英語教育実績を持つ大学と提携しています。自らの興味や目的に合う、厳選された留学先を選べます。
- ・1年間の留学期間中は、単なる語学留学ではなく、自らの進路に合わせた専門科目も履修の予定です。

※プログラムの詳細や派遣先大学等は、説明会で確認をしてください。

#### (2) 半年間の留学プログラム ※教員志望の国際英語学部生、経営学科生

- ・2回生後期の約6カ月間、ホームステイをしながら、アメリカ、カナダ、オーストラリア等の提携大学に留学。世界各国の留学生と一緒に受ける英語の授業をはじめ、現地の人々や文化と触れあう体験プログラムも豊富です。
- ・留学前の1年間でしっかりコミュニケーション力を高め、留学先では現地スタッフが細かなサポートを行ってくれるため、不安なく留学を経験できます。

※プログラムの詳細や派遣先大学等は、説明会で確認をしてください。

## ◎短期留学制度

### 1. 海外語学研修

#### (1) 制度

全学部全学科の学生を対象に、正課の外国語教育を補完するため、1か月程度の期間、提携大学の語学プログラムに参加するものです。現地の文化体験プログラム等も受講します。また、長期留学を目指す学生にとっては、その準備段階としても役立つものとなります。

なお、英語文化研修については、最少催行人数に満たない場合は実施しないこともあります。

#### (2) 単位認定

事前説明会、現地での成績評価、レポート提出により2単位が認定されます（学科によって科目名は異なります）。帰国後には「帰国報告会」を実施します。

#### (3) 募集、応募

掲示およびポータルサイトで通知しますので、各自確認してください。また、早期から窓口で相談・質問することや、留学説明会・留学生帰国報告会へ出席するなど、計画的な準備を推奨します。

## 2. 短期海外研修

### (1) 制度

本学グローバル教育推進室主催で、下記の短期研修の機会を全学部全学科生対象に設けています。渡航先やプログラム内容には変更の可能性もありますので、詳細は実施年度の案内を確認してください。また、最少催行人数に満たない場合は実施しないこともあります。

### (2) 単位認定

なし

### (3) 募集、応募

- 掲示およびポータルサイトで通知しますので、各自確認してください。また、早期から窓口で相談・質問することや、留学説明会・留学生帰国報告会へ出席するなど、計画的な準備を推奨します。

### (4) 受付窓口

総合教育課 (リバティホール1F)

プログラム名	時期	国	プログラム内容	期間	単位認定
海外体験企画	9月上旬	台湾	・現地学生との交流	5日間	なし
		ベトナム	・日系企業見学	6日間	
	2月or3月	台湾	・文化施設視察	5日間	
		韓国		5日間	
海外インターンシップ	8月下旬～9月下旬	オーストラリア	・最初の1週間、語学学校に通学し、英語学習	1か月	なし
		ニュージーランド	・残り3週間を、各派遣先でインターンシップ実施		



海外インターンシップ



海外体験企画 (台湾)



海外体験企画 (ベトナム)

### (4) 受付窓口

総合教育課 (学生会館1F)

プログラム名	実施時期	国	派遣大学	期間	単位認定
英語文化研修	2月上旬～下旬	カナダ	オカナガン大学	3週間	あり
英語研修	8月下旬～9月中旬	ニュージーランド	ワイカト大学	3週間	あり
中国語研修		台湾	淡江大学	3週間	あり
韓国語文化研修	8月上旬～下旬	韓国	カトリック大学	3週間	あり
			慶熙大学	3週間	あり



韓国語学研修



中国語学研修



英語文化研修

## 3. 短期海外研修 (各学科・コース主催)

各学科やコースなどの主催で、授業で学ぶ専門分野に現地で実際触れる目的に行われる研修も実施しています。詳細は、各学科・コースの説明会等で確認してください。

なお、最少催行人数に満たない場合は実施しないこともあります。

- キャリアゼミⅢ (海外研修) 《文学部のみ》
- 書道コース海外研修《日本語日本文学科書道コースのみ》
- 文学部海外研修《文学部のみ》
- 学校・地域調査 (海外) 《児童教育学科のみ》
- 観光臨地演習《都市環境デザイン学科のみ》
- 国際看護学研修《看護学科のみ》
- 理学療法学科海外研修《理学療法学科のみ》
- 救急救命特別実習《救急救命学科のみ》

## ◎協定校一覧 (2017年12月現在)

国名	地域	大学名	留学制度
アメリカ合衆国	カナダ	ブリティッシュコロンビア州 オカナガン大学	交換留学、SAP派遣、英語文化研修 (春)
	オンタリオ州	ヨーク大学	
	オレゴン州	オレゴン州立大学	SAP派遣
		コンコーディア大学 (ELSポートランド校)	SAP派遣
		カリフォルニア大学デービス校	SAP派遣
		カリフォルニア州立大学 (ELSサウザンドオーツ校)	SAP派遣
		ドミニカン大学カリフォルニア校 (ELSサンラファエル校)	SAP派遣
	ニューヨーク州	ホフストラ大学 (ELS NYホフストラ校)	SAP派遣
	フロリダ州	南フロリダ大学	SAP派遣
	マサチューセッツ州	ボストン大学	SAP派遣
		レズリー大学	
		メリボルン	ラ・トローブ大学
		シドニー	ニューサウスウェールズ大学
オーストラリア	ニューカッスル	ニューカッスル大学	SAP派遣
	ブリスベン	クイーンズランド大学	SAP派遣
	ブリスベン他	オーストラリア・カトリック大学	
	メリボルン	ディーキン大学	SAP派遣
	リズモー	サザンクロス大学	SAP派遣
	パース	西オーストラリア大学	

## 第8章 教育理念

国名	地域	大学名	留学制度
イギリス	イーストサセックス	サセックス・ダウンズ・カレッジ	SAP派遣
	ウェストサセックス	チチェスター・カレッジ	SAP派遣
	スターリング	スターリング大学	
	リーズ	リーズ・ベケット大学	
フランス	カンペール	EMBAブルターニュ アトランティック・ビジネススクール	
ニュージーランド	ハミルトン(北島)	国立ワイカト大学	SAP派遣、英語文化研修(夏)
中華人民共和国	西安	西北大学	交換留学
	天津	南開大学	
	南京	中国传媒大学(南広学院)	
中華民国(台湾)	淡水	淡江大学	中国語学研修、日本語教育実習生派遣、 日本語TA派遣(大学院生)
	台北および高雄	実践大学	
	台中	国立台中教育大学	
大韓民国	ソウル	慶熙大学(国際教育院)	交換留学、韓国語学研修
		カトリック大学	交換留学、韓国語学研修
	慶州	慶州大学	
タイ	チェンマイ	チェンマイ・ラチャパット大学	
マレーシア	クアラルンプール	サンウェイ大学	SAP派遣
		アジア・パシフィック大学	SAP派遣

京都橋大学では、教学理念として《自立》《共生》《臨床の知》という3つの教育理念を掲げています。教学理念とは「教育活動の目標」と言い換えることができます。つまり、本学で大学生活を4年間過ごしたみなさんが修得すべき力を端的に表したものと考えてください。

《自立》とは、社会人として自立できる知識や能力、素養を身につけること  
 《共生》とは、他者と適切に交流し、人への配慮ができるような感性やセンスを身につけること  
 《臨床の知》とは、社会人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけることによって、さまざまな課題に自信を持って取り組み、解決できるようになること

このように、京都橋大学では学生のみなさんはもちろん、社会に対しても「このような目標を立て、教育活動を展開しています。そして、本学の学生はこれらの力を養って成長し、社会へと巣立っていきます」という公約をしています。

本学の教育課程は、さまざまな科目によって構成されていますが、これらは上述の「ディプロマポリシー」を達成するために必要な科目から成り立ち、それぞれの授業科目は「ディプロマポリシー」を達成するための基本的な考え方に基づいて実施されることとなります。この教育課程の編成や教育内容・方法についての基本的な考え方のことを「カリキュラムポリシー(教育課程の編成・実施方針)」といいます。

「カリキュラムポリシー」に基づき、それぞれの科目群には《必修科目》として必ず履修しなければならない科目や、《選択必修》として設定され、決められた科目の中から規定以上の単位を修得することが必修とされている科目群が存在していますので、それらを中心に自分の興味関心のある科目はもちろん、幅広い知識を身につけることを念頭に置きながら計画的な履修を心がけてください。

次の項目からは、大学全体におけるディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとみなさんの所属学科におけるポリシーが記載されています。みなさんは大学を卒業した後、社会人として社会で活躍することとなります。そのためには、これらのポリシーを念頭におきながら、4年間でどのような力を身につけて卒業に向かうのか、しっかりと履修計画を立て、それぞれの授業に臨み、必要な力を身につけてください。

### 1. 全学

#### (1) 教育研究上の目的

本学は、教育基本法および学校教育法の規定に基づき、広く一般教養を施すとともに、深く専門の研究に根ざす学芸および技能の教授を行い、もって、教養高く情操豊かにして地域社会および国際社会の発展に貢献しうる、社会に有為なる人材を育成することを目的とする。

#### (2) ディプロマポリシー(学位授与方針)

京都橋大学は、教学理念および大学の目的に則り、次のような能力を身につけ、各学科のディプロマポリシー(学位授与方針)を満たした者に学士の学位を授与する。

- ①自立した社会人として社会に貢献するための知識や能力、素養を身につけている。
- ②他者と適切に交流し、人への配慮ができるような能力を身につけている。
- ③自立した社会人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけることによって、さまざまな課題に自信を持って取り組み、解決できる力を身につけている。

#### (3) カリキュラムポリシー(教育課程の編成・実施方針)

京都橋大学は、学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を修得するために、以下の方針で教育課程を編成する。

①文学部・国際英語学部・発達教育学部・現代ビジネス学部の教育課程は、《教養教育》《専門教育（専門教育科目群）》《免許・資格課程（資格教育科目群）》の3つに分け、さらに《教養教育》を「基礎教育科目群」「教養教育科目群」「キャリア教育科目群」に区分し、5つの科目群で構成する。《教養教育》《専門教育》においては、基礎から応用へと段階的に科目を配置する。

②看護学部は、看護系大学の教育課程として、資格取得とリベラルアーツを有機的に結合した5つの科目区分で構成する。区分4では、総合大学としての利点を生かし、「多様な学問分野に触れ、知性と感性を育成する」科目を配置する。

③健康科学部の教育課程は、「こころとからだの健康と臨床」をテーマとして、主体的に学習する姿勢と幅広い教養を学ぶ「基礎分野」、および心理学、理学療法学、作業療法学、救急救命学、臨床検査学それぞれの専攻に関する知識と技術を学ぶ「専門分野」で構成する。

### 2. 日本語日本文学科

#### （1）教育研究上の目的

文学部は、幅広い教養や専門的知識を身につけ、社会で活躍するための人材を養成する。文学部日本語日本文学科は、日本語日本文学および書道の各分野において専門的な知識や技術を身につけ、知性と感性を磨き、自らの考えを豊かに表現できる人材を育成することを目的とする。

#### （2）ディプロマポリシー（学位授与方針）

文学部日本語日本文学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、日本語による表現力を高め、日本文化をよく知ることによって、社会における多様な文化や価値観を大切にし、自ら問題を解決できる人材を養成することをめざしている。そのため日本語日本文学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（文学）の学位を授与する。

- ①日本語の特質を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけている。
- ②各時代の文学を読解するための、基礎的な語彙力や表現力を身につけている。
- ③作品や文章を通して、人間や社会に関する課題を発見し、考察する力を身につけている。
- ④日本文化に関する総合的な理解を深めていくことで、国際化が進行する社会にふさわしい知性やコミュニケーション力を身につけている。
- ⑤書の制作や書学研究を深めることにより、自身の感性を磨き、豊かな創造力と表現力を身につけている。

#### （3）カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、文学部日本語日本文学科では、日本語日本文学コースおよび書道コースにおいて、以下の方針で教育課程を編成する。

##### 〈日本語日本文学コース〉

- ①日本語日本文学への理解を深めていくことで豊かなコミュニケーション力やすぐれた社会的人格の獲得を目指す「日本語日本文学領域」、グローバルな視点から日本文化に関する理解を深めていくことで、国際化が進行する社会にふさわしい知性や能力の獲得を目指す「国際日本文化領域」の2つの専門分野の授業科目を配置する。
- ②狭い専門科目だけに履修が偏らないよう基礎的で総合的な科目をまず配置し、学年進行に従って、それぞれの興味に応じ、各分野のより専門的で高度な知識や技術が獲得でき

き、また学問の幅と奥行きを感じるように概説と講義の各科目群を段階的に配置する。

③1・2回生時に各分野の専門研究に共通する研究方法の基礎を学ぶため、少人数の「研究入門ゼミ」および「基礎演習」を配置する。

④1・2回生混合のクラス編成で、自ら考え、共に学ぶ力を育てるため、グループ活動を基本にした「言語文化総合演習」を配置する。

⑤3・4回生時に少人数の演習科目で高度な知識や技術を身につけ、学生生活の集大成として自ら設定したテーマの解明に取り組む「日本語日本文学演習」および「卒業研究」を配置する。

⑥日本文化に関する総合的な学びを社会において十分に活かす実力を獲得するため、今日における京都の伝統文化やそれを土台とするさまざまな産業を理解することができる科目を配置する。

⑦現代社会に関する基本的な認識を養い、各分野の今日的なトピックを中心に授業を進める教養教育科目群（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）を配置する。  
（書道コース）

①1回生時に「研究入門ゼミ」をはじめとする基礎力アップのための科目を配置する。

②2回生時に「漢字古典研究」「かな古典研究」および「中国書道史」「日本書道史」を配置し、幅広く書の魅力を探る。

③3回生時に実習科目の「書法」と、講義科目の「書論」を開講し、実技・理論の両面から書を深め、卒業研究（卒業制作）につなぐ科目とする。

④4回生時には、自らの作品を創作する表現力を身につけるための「作品研究」を配置し、4年間の集大成として「卒業制作」（論文も可）を行う。

⑤2回生から、狭い専門科目だけに偏らないよう、多様な「日本語学講義」「古典文学講義」「近現代文学講義」などを選択科目として配置する。

⑥日本文化に関する総合的な学びを社会において十分に活かす実力を獲得するため、今日における京都の伝統文化やそれを土台とするさまざまな産業を理解することができる科目を配置する。

⑦現代社会に関する基本的な認識を養い、各分野の今日的なトピックを中心に授業を進め、教養教育科目群（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）を配置する。

### 3. 歴史学科

#### （1）教育研究上の目的（学則）

文学部は、幅広い教養や専門的知識を身につけ、社会で活躍するための人材を養成する。文学部歴史学科は、歴史学を学ぶことを通して、人類の築き上げた社会の本質を根源から見極める姿勢を養い、科学的な視点にたって様々な課題を論理的に解決することのできる人材を育成することを目的とする。

#### （2）ディプロマポリシー（学位授与方針）

文学部歴史学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、歴史を深く学び、市民・社会人として必要とされる知識・教養ならびに道徳観や人間性を身につけ、グローバル化した社会で多様な文化、人々と共生し、問題解決能力と判断力を備えた人材を養成することをめざしている。そのため歴史学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（文学）の学位を授与する。

- ①歴史に関する知的好奇心を高め、学問を主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
- ②多彩な学問分野の成果を吸収し、歴史研究に役立てる重要性を理解する能力を身につけている。
- ③史料（資料）等を読むことを通して、ことば（文章）と文化について深く理解し、かつ、必要なデータを蒐集・整理し、理論的に思考する能力を身につけている。
- ④総合的かつ探求的な学修を通じて、人類の作り上げてきた社会・経済・政治・文化に対する深い関心と理解力を身につけている。
- ⑤学修ならびに研究の成果を明確に表現する能力を身につけている。

### （3）カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、文学部歴史学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

- ①幅広い分野に及ぶ「人間の歴史」を学ぶにあたって、明確な目標を定め、大学生としての学びを実現できるよう、2回生以上を対象に【日本史コース】【世界史コース】の2コースを用意する。コース選択に役立てるために、日本史・世界史両分野の教員がリレー講義を行う「歴史学入門講義」を1回生時に配置する。また、歴史学のより専門的な深い学習を提供するために、3回生以上を対象に【現代史特別専攻】【女性史特別専攻】【文化交流史特別専攻】の3つの特別専攻（オプショナルコース）を設定する。
- ②1回生時から《基礎教育科目群》《教養教育科目群》《キャリア教育科目群》を配置し、社会人として生きる基礎的な素養を養うとともに、歴史研究を行う上で非常に重要な基礎力を養成する。
- ③歴史の基本的な研究方法を学び、それに基づく歴史研究を行うため、1回生時に「研究入門ゼミ」、2回生時に「基礎ゼミ」、3・4回生時に「演習」といったゼミ形式の科目群を配置し、集大成として4回生時に「卒業研究」を行う。
- ④専門的研究を支える科目群として、2回生時から「古文書学」「外書研究」などの演習系科目、3回生時に専門分野ごとの「講読」を配置する。
- ⑤歴史学科の学修の裾野を支える科目として、1回生時に「概説」科目群、2回生時以上に「特講」などの講義系科目群を配置する。

## 4. 歴史遺産学科

### （1）教育研究上の目的（学則）

文学部は、幅広い教養や専門的知識を身につけ、社会で活躍するための人材を養成する。文学部歴史遺産学科は、歴史遺産を対象とする研究をおこない、その歴史的・文化的意義を解明するとともに、歴史遺産を適切に活用した社会を創造する意欲を身につけた人材を育成することを目的とする。

### （2）ディプロマポリシー（学位授与方針）

文学部歴史遺産学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、歴史遺産についての知識、技術を身につけ遺産の保全や活用できる人材、社会人として自立できる知識や能力、素養をもち、他者への配慮をおこたらない人材を養成することをめざしている。そのために歴史遺産学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（文学）の学位を授与する。

- ①文化遺産を活用できる能力を持つことで社会での文化創造に寄与しようとする意欲を身につけている。

- ②文化遺産の調査・記録方法、そのプレゼンテーション能力を身につけている。
- ③文化遺産の取扱や保存管理の知識をもち、研究に高めるための技術と方法を身につけている。
- ④課題を設定し、資料を集め、観察、分析、考察を行う手順を修得する能力を身につけている。
- ⑤現代社会に関する基本的な認識と対応能力を身につけている。

### （3）カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、文学部歴史遺産学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

- ①人類の所産のうち、考古資料、彫刻、絵画、工芸品、歴史資料などの動産遺産と、建造物、近代化遺産、都市・文化的景観、史跡、埋蔵文化財といった土地に定着した不動産遺産、これら2つの領域の文化遺産情報を対象とした科目を配置する。
- ②1回生時に、文化遺産に関する基礎的知識と文化遺産に接する姿勢を幅広く身につけるために「歴史遺産学総合演習」などの科目を配置するとともに、各領域にわたるモノやフィールドごとの観察や鑑賞、調査の仕方、研究史、研究方法の違いを知り、調べたことを発表、報告、文章化するプレゼンテーション能力を身につけるため「研究入門ゼミ」を配置する。
- ③2回生時に、自ら調査した内容を分析し、まとめる力を身につけるため「歴史遺産学基礎ゼミ」と、実習を通して取扱い方法や保存管理技術、知識を体得する「歴史遺産学実習」を必修科目として配置するとともに、専門研究に必要な技術や方法を学ぶための「考古学研究」「建築遺産研究」「歴史遺産研究」「美術工芸史研究」、遺産の特性に応じた調査方法を学ぶ「歴史遺産調査実習」、文献史料の読解力を修得する「文献史料学」を選択必修科目として配置する。学生は、選択必修科目の履修により、専門領域を2つ以下に絞り込む。
- ④3回生時から、考古学、美術工芸史、古文書、歴史遺産のいずれか1つの領域を専門とする「考古学コース」「美術工芸史コース」「歴史遺産コース」を置き、学説の分析やその批判、先学を含めてそれらを自らのテーマへ再構築するための「歴史遺産学演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
- ⑤4回生時に、課題を設定し、資料を集め、観察、分析、考察を行う手順を修得するための「歴史遺産学演習Ⅲ・Ⅳ」を配置するとともに、「卒業研究」を行う。
- ⑥2級考古調査士の資格取得を目的に「文化財行政論」「考古学研究Ⅰ」の必修科目や「保存科学Ⅰ・Ⅱ」といった選択科目などを配置する。
- ⑦在学中に獲得した力を卒業後、社会に出て十分に活かすことができるよう、現代社会に関する基本的な認識を養い、各分野の今日的なトピックを中心に授業を進める教養教育科目群（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）を配置する。

## 第9章 教育課程（教養教育課程）

### 1. 教養教育課程とは

本学の「教養教育課程」は、「基礎教育科目群」「教養教育科目群」「キャリア教育科目群」の3つの科目群で構成しており、7つの教育目標を掲げています。

#### 【3つの科目群】

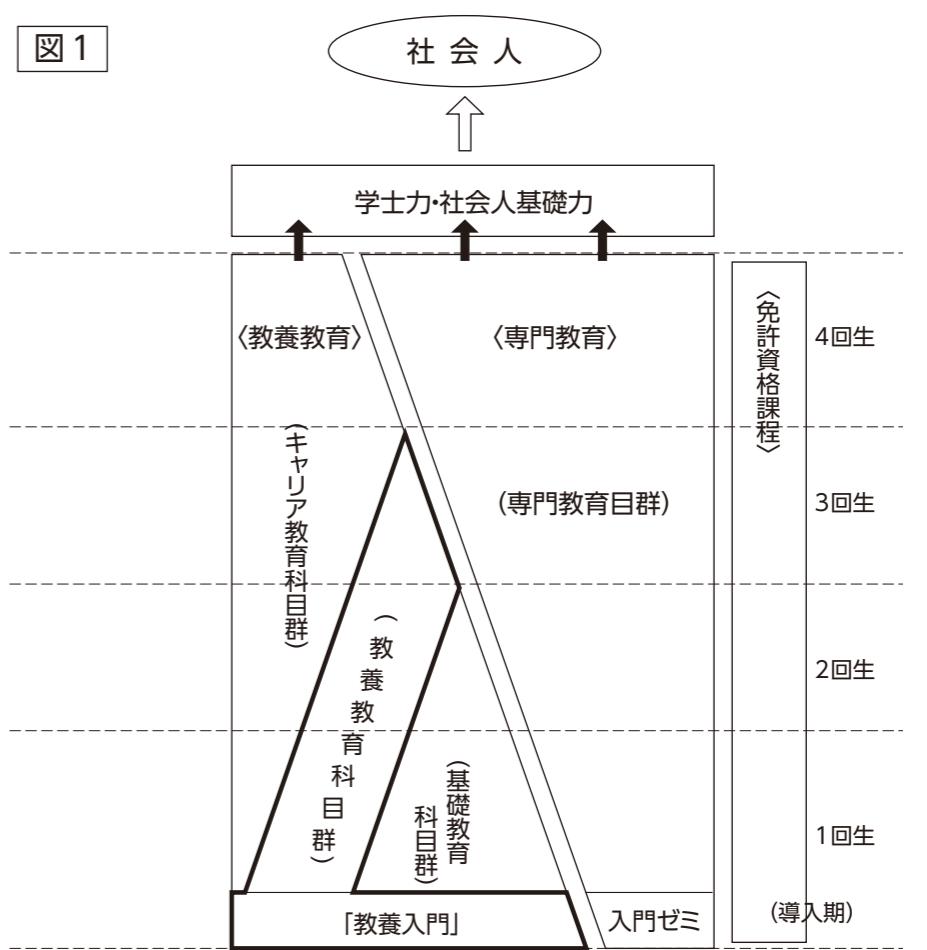
(1) 基礎教育科目群	大学での学修に必要な基本的な知識やスキルを学びます。
(2) 教養教育科目群	社会人として求められる教養を学びます。
(3) キャリア教育科目群	社会人として自立していく準備（就業力の育成）のための将来設計や職業観の構築、社会のルールなどを学びます。

#### 【7つの教育目標】

- ①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成
- ③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成
- ④異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成
- ⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成
- ⑥物事を論理的に分析する能力の養成
- ⑦読む力や書く力、話す力や聞く力の養成

- ・3つの科目群それぞれが、「ディプロマポリシー」を実現するために重要な役割を果たしていますので、各科目群には《必修科目》として必ず履修しなければならない科目や、決められた科目の中から規定以上の単位を修得することが必修とされている《選択必修》科目が存在しています。それらを中心に、自分の興味関心のある科目はもちろん、幅広い知識を身につけることを念頭に置いて計画的な履修を心がけてください。
- ・大学卒業後は、社会人として社会で活躍することとなります。そのために、卒業（学士学位取得）時には、「学士力」・「社会で生きる力」（社会人基礎力）をしっかりと身につけておくことが必要です。後述の【図1】からも、「学士力」・「社会人基礎力」を支える大きな柱は《教養教育》と《専門教育》だと言えます。
- ・《教養教育》、《専門教育》、加えて《免許・資格課程》科目それぞれ、回生毎の学びにあわせた科目を配置していますので、自分の将来を見通し、毎年度履修計画を立て、計画的に学修を深める必要があります。
- ・大学での学修は、みなさんの選択で自由に形を変えることができるといつても過言ではありません。従って、みなさんの学びの範囲は非常に広く設定されていますが、他方で、責任をもって、計画的に、卒業に必要な単位修得することが求められます。

図1



### 2. 基礎教育科目群とは

大学での学修活動に必要とされる基本的な知識や能力を身につけるための科目群です。多くの科目が必修として配置されており、大別すると次のようになります。なお、学部・学科により、必修科目および履修指定科目や区分、科目名称は異なります。

#### 【アカデミックライティング／日本語表現Ⅰ、教養ゼミ／日本語表現Ⅱ】

全学必修科目である、前期の「アカデミックライティング」／「日本語表現Ⅰ」では、大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての読解力や文書作成能力などの日本語運用能力の獲得をめざします。原稿用紙の使い方など大学生活で役立つ実用的な「書く」能力を身につけることからはじめ、高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高めます。

後期の「教養ゼミ」／「日本語表現Ⅱ」では、教養とは何か、大学で教養を学ぶ意義はどこにあるのか、を考えます。まずは、「話す」を中心としたコミュニケーションの基礎を学び、幅広い分野から選定したテキストを使用して、ゼミ形式で検討していきます。

#### 【英語教育】

英語では、基本科目である「英語ⅠA～ⅣB」において、大学での学修において必要とされる英語力の獲得を目指すと同時に、企業就職に際して重視されることも多いTOEIC

のスコアアップを目指すクラスも開かれています。到達度別でクラス編成を行うので、無理なく英語力を向上させることができます。

また、本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、履修条件（履修制限）を設定しています。

対象科目	履修条件
英語Ⅲ A	英語Ⅰ AまたはⅡ Aを修得済みであること
英語Ⅲ B	英語Ⅰ BまたはⅡ Bを修得済みであること
英語Ⅳ A	英語Ⅰ AまたはⅡ Aを修得済みであること。
英語Ⅳ B	英語Ⅰ BまたはⅡ Bを修得済みであること。

#### 【情報教育】

コンピュータ・リテラシーつまりコンピュータを主体的に使いこなす能力や情報を利用・活用する能力は、在学中はもちろん社会に出てからも不可欠です。全学必修の「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ／情報科学Ⅰ・Ⅱ」では、コンピュータの基本操作に始まり、一般に広く用いられているワードやエクセル、さらにはパワーポイントなどのアプリケーションの操作方法を学びます。また基本ソフトの操作方法の修得と共に、インターネット利用時のルールやマナー、情報の活用についても学びます。

#### 【キャリアコミュニケーション科目】

大学卒業後、多くの人が社会人として社会に出ます。アカデミックライティング／日本語表現Ⅰ、教養ゼミ／日本語表現Ⅱと平行し、＜社会人として通用すること＞に主眼を置きながら、正しい話し方や、書き方、また就職活動でも活かせるコミュニケーションマナーやプレゼンテーション技能なども学びます。

### 3. 教養教育科目群とは

教養教育科目群は7つの教育目標を掲げ、卒業後、社会人として自立していくにあたっての、目指すべき方向を示しています。学生のみなさんには、それぞれの科目群や科目の持つ目標や役割を正確に理解し、学びに参加し、卒業後は社会人として精神的にも経済的にも自立していくような成長を実現してほしいと、強く願っています。

また、科目を履修するに当たって、どのような領域のことを学ぶのかイメージしやすいよう、テーマごとに4領域に分類されています。さらに、それぞれの領域は2分野（合計8分野）に整理されています。

	領域			
	【人間と知の伝達】	【人間と文化】	【人間と社会】	【人間と自然】
分野	現代の思想	外国語と文化理解	法律・行政・政治	健康・こころ・からだ
	メディアと情報	歴史・文化	経済・経営・社会	自然と環境

#### 【人間と知の伝達】

##### 現代の思想（分野）

- ・哲学、思想、宗教についての基礎的な知識を身につけ、自らの生き方に役立つ世界観をひとりひとりが構築できるようになることを目指しています。
- ・『人間とは？』『人生とは？』『世界とは？』といった問いに取り組んできた先人たちのものの考え方や分析の仕方を修得することで、論理的にものごとを考える力を身につけることを目指します。
- ・さまざまなもの考え方や価値観、宗教観、倫理観を学び、異なる文化をもつ人々と共に生し、異なる価値観をもった人々との交流ができる人間性の獲得を目指します。

##### メディアと情報（分野）

- ・情報が発信者から受信者に伝達される際のメディア（媒体）について理解を深め、情報化社会において必要な知識を身につけることを目指します。
- ・メディアの特性を知ることによって、発信者の意図や伝え方、また、受信者の認識や態度によってさまざまに変化する情報を、さまざまな場面において適切に受け取り、処理できる力を養います。
- ・また、情報の正しい発信力や受信力は、異なる考えを持った人と共生するために必要な力です。情報を冷静に分析し、他人の意見を理解できる力を獲得することを目指します。

#### 【人間と文化】

##### 外国語と文化理解（分野）

- ・グローバル化する社会の中で生活を送るために必要な語学の能力および外国の文化を理解し、日本と海外との相互理解を促進するために必要な知識・教養を身につけることを目指します。
- ・それを通じて、異なった意見にも耳を傾けて理解し、独断ではなく多面的に思考して自己の意見を形成する力を修得します。さらに、社会における異なった文化や価値観を持った人々の共生のために必要な世界観を獲得します。

また、本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、履修条件（履修制限）を設定しています。

対象科目	履修条件
中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
中国語Ⅲ	「中国語Ⅱ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
中国語Ⅳ	「中国語Ⅲ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
韓国語Ⅲ	「韓国語Ⅱ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
韓国語Ⅳ	「韓国語Ⅲ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
ドイツ語Ⅱ	「ドイツ語Ⅰ」を修得済み、もしくは同等以上の者。

**歴史・文化（分野）**

- ますます複雑化する現代社会を生き抜くために必要な基礎的教養として、歴史に関する入門的知識を修得するとともに、日本の歴史や文化の中心である京都を題材として、伝統文化や歴史遺産、古典から現代までの文学についての基礎的な知識の修得を目指します。
- それらを通じて、物事や出来事を考える際にその歴史的な根元まで立ち返って考えるという思考方法、目先の物質的欲望に惑わされず文化的価値や伝統を尊重する態度を身につけます。このような姿勢を修得することで、私たちは、社会に出てから、さまざまな諸問題に対処する際の、表面ではなくその本質を洞察することができるようになります。

**【人間と社会】****法律・行政・政治（分野）**

- 法律、行政、政治に関わる基礎的な知識を身につけ、身边に起こる出来事について、「社会的なルール」を基準に評価することのできる思考力を養います。
- また、成熟した市民として、裁判や選挙など、社会で定められた手続きに沿って、社会にはたらきかけていく実行力を身につけます。そのうえで、国際社会の中で異なる文化をもつ人々と共生し、人権に配慮しつつ、市民として責任ある行動をとることのできる人間性の確立を目指します。

**経済・経営・社会（分野）**

- 経済、経営、会計の基礎知識を修得することで、私たちの暮らしを支えるさまざまな活動を理解するとともに、社会の一員として生活を営むために必要な分析力や論理的思考力を獲得します。
- また、現代の社会全体が抱える諸問題を多角的に分析できる広い視野を身につけ、他者の立場に配慮しながら、自ら進んでその解決に乗り出すことのできる人間性を身につけることを目指します。

**【人間と自然】****健康・こころ・からだ（分野）**

- 日々の生活を振り返り、「健康」の意味を考えることを通じて、人間の心身の仕組みと働きの基礎を理解します。これらの知識は、長い人生を生きていく上で、自分や家族、社会の幸福や健康を維持・増進していくために必要な力となります。

**自然と環境（分野）**

- 自然と環境の仕組みについて総合的に理解し、自然科学の基礎的知識を身につけます。
- それらを通じて、災害対策、地球温暖化問題や放射能汚染の問題など、環境にまつわる地球規模の課題の解決に向けた取り組みについて考え、「自然」との共生を軸に据すえた、これから時代にふさわしい世界観・倫理観・文明観・人間性の獲得を目指します。

**4. キャリア教育科目群とは**

みなさんがこれから京都橘大学のキャリア教育を理解し学修していくにあたって、大きく次の3点を理解する必要があります。

①卒業後の人生あるいは業種を選択するという点に関して、学部学科によってはすでに入学時から決まっている場合もあります。

例) 看護学部へ入学→卒業後は看護職（看護師・保健師・助産師）になることを選択。発達教育学部児童教育学科や、健康科学部理学療法学科、救急救命学科も同様です。これらの学部・学科のキャリア教育は、各学部・学科で行われます。

それ以外の学部・学科のみなさんは、本学におけるキャリア教育の概要をしっかりと理解し、一人ひとりが夢を現実のものにできるよう、1回生の時からしっかりと学修する必要があります。

②《キャリア教育》という考え方と《キャリア関連科目》は同じ概念ではありません。

本学では「キャリアデザイン入門」、「キャリア開発講座Ⅰ～Ⅳ」、「キャリア開発演習Ⅰ～Ⅳ」などの科目を配置しています。では、これらの科目だけを勉強すれば就業力が身につくのか、夢が現実のものになるのかというと決してそうではありません。直接的な就業対策に取り組むためには、その前提となる基礎学力や一般教養が身についていなければなりません。

例) 公務員試験や教員採用試験を受験→基本的な数学の力や政治経済の知識必要。

また、様々な文章を作成するにあたり、論理的思考力や表現力も必要とされます。したがって、《キャリア教育》という枠組みは、キャリア関連科目をコアとしつつも、基礎学力を身につける科目群や教養教育科目群と連携をとりながら有機的にキャリア開発をすすめるシステムとして組み立てられています。《キャリア教育》とは、基礎教育科目と教養教育科目、キャリア関連科目を包括している教育システムであると理解してください。

③京都橘大学のキャリア教育の大きな特色は、就職進路課（キャリアセンター）とも深く連携していることです。就職進路課（キャリアセンター）は、正課におけるキャリア科目的編成、科目の位置づけ、授業内容編成について深く関わっています。正課外の各プログラムを実施する際には、正課授業での取組内容を確認の上、内容を編成しています。正課の授業でインプットした内容を正課外の講座やセミナーでアウトプットする、この繰り返しによって正課授業と正課外プログラムが有機的につながり、みんなの就業力向上の一助となります。いわば、キャリアセンターのセミナーや講座は、主にキャリア関連科目で学習した内容を実践して経験を積み重ねていく場だと理解してください。

そして、前述の（1）基礎教育科目、（2）教養教育科目、（3）キャリア教育科目と、課外で実施される対策講座を4つのパッケージにまとめて、一般企業就職志望者や公務員志望者を対象とした「キャリア開発プログラム」を設定しています。

1回生の間は、どの「キャリア開発プログラム」においても、キャリア開発のために必要とされる基礎的な学力を身につけるための科目群と、課外講座である「たちばなアカデミー」を履修します。それぞれの「キャリア開発プログラム」の学修は2回生から開始さ

れ、2回生以降でキャリア形成を目指す科目を履修することとなります。

京都橘大学のキャリア開発プログラムおよび主な対象学部・学科は次のとおりです。

#### 【キャリア開発プログラム】

①地域密着型の一般企業就職志望者	②大手企業就職志望者
③公務員行政職志望者	④警察官・消防官志望者
⑤教員、その他 ※受講科目は基本的に①と同じとなります。	

#### 【主な対象学部・学科】

文 学 部：日本語日本文学科、歴史学科、歴史遺産学科
国際英語学部：国際英語学科
発達教育学部：児童教育学科（一部異なる科目があります）
現代ビジネス学部：経営学科、都市環境デザイン学科
健康科学部：心理学科（一部異なる科目があります）、救急救命学科（一部異なる科目があります）

#### ①地域密着型の一般企業就職志望者、⑤教員、その他の志望者

内容	回生	主な科目
基礎力育成	1回生	日本語表現Ⅰ・Ⅱ／アカデミックライティング・教養ゼミ 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB English Communication I・Ⅱ（心理のみ） English Literacy I・Ⅱ（心理のみ） 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 数学演習Ⅰ・Ⅱ（心理は除く） 時事問題研究（心理、救急救命は除く）
	2回生	英語ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB
キャリアデザイン・キャリア開発	1回生	キャリア開発講座Ⅰ インターンシップA／インターンシップ
	2回生	キャリアデザイン入門 キャリアコミュニケーションⅠ・Ⅱ キャリア開発講座Ⅲ・Ⅳ
業種別キャリア開発	2回生	キャリア開発演習Ⅲ (児童教育、救急救命は除く)
	3回生	キャリア開発研究Ⅰ キャリア開発研究Ⅵ
教養科目	1回生	教養入門（心理は除く） くらしと経済、経営学概論、会計学概論、社会学概論Ⅰ・Ⅱ、日本国憲法
	2回生	情報処理演習Ⅲ～Ⅵ、国際関係入門、経済学概論Ⅰ・Ⅱ、民法
課外講座	1回生	たちばなアカデミー（単位認定あり）
	2回生	公務員試験対策講座 公務員試験レベルで学習をすることは、民間試験の十分な対策になります。

- 履修回生や科目名等は年度によって変更される場合がありますので、必ず毎年シラバスや注意事項で確認してください。
- 教員志望者であっても、必修科目および履修指定科目は受講しなければなりません。
- また、あくまでも履修例であって、学部学科により必修科目および履修指定科目や区分等は異なります。

## ②大手企業就職志望者

基礎力育成	1回生	日本語表現Ⅰ・Ⅱ／アカデミックライティング・教養ゼミ 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB English CommunicationⅠ・Ⅱ(心理のみ) English LiteracyⅠ・Ⅱ(心理のみ) 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 数学演習Ⅰ・Ⅱ(心理は除く) 時事問題研究(心理、救急救命は除く)
	2回生	英語ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB English CommunicationⅢ(心理のみ) English LiteracyⅢ(心理のみ)
キャリアデザイン・ キャリア開発	1回生	キャリア開発講座Ⅰ インターンシップA／インターンシップ
	2回生	キャリアデザイン入門 キャリアコミュニケーションⅠ・Ⅱ キャリア開発講座Ⅲ・Ⅳ
業種別キャリア開発	2回生	キャリア開発演習Ⅲ (児童教育、救急救命は除く) キャリア開発演習Ⅳ〈G〉
	3回生	キャリア開発研究Ⅰ、キャリア開発研究Ⅱ〈G〉 キャリア開発研究Ⅲ・Ⅳ〈G〉 キャリア開発研究Ⅵ
教養科目	1回生	教養入門(心理は除く) くらしと経済、経営学概論、会計学概論、 比較文化論、異文化コミュニケーション論、 中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ、地球環境論、 エコロジー研究
	2回生	情報処理演習Ⅲ～Ⅵ、中国語Ⅲ・Ⅳ、韓国語Ⅲ・Ⅳ、国際関係入門
課外講座	1回生	たちばなアカデミー(単位認定あり)
	2回生	公務員試験対策講座 公務員試験レベルで学習をすることは、民間試験の十分な対策になります。

その他、海外体験企画・海外インターンシップ・語学研修・留学生との交流などの企画への参加を強く推奨。

・履修回生や科目名等は年度によって変更される場合がありますので、必ず毎年シラバスや注意事項で確認してください。

・教員志望者であっても、必修科目および履修指定科目は受講しなければなりません。

・また、あくまでも履修例であって、学部学科により必修科目および履修指定科目や区分等は異なります。

## ③公務員行政職志望者

基礎力育成	1回生	日本語表現Ⅰ・Ⅱ／アカデミックライティング・教養ゼミ 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB English CommunicationⅠ・Ⅱ(心理のみ) English LiteracyⅠ・Ⅱ(心理のみ) 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 数学演習Ⅰ・Ⅱ(心理は除く) 時事問題研究(心理、救急救命は除く)
	2回生	英語ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB
キャリアデザイン・ キャリア開発	1回生	キャリア開発講座Ⅰ インターンシップA／インターンシップ
	2回生	キャリアデザイン入門 キャリアコミュニケーションⅠ・Ⅱ
業種別キャリア開発	2回生	キャリア開発演習Ⅰ キャリア開発演習Ⅲ (児童教育、救急救命は除く)
	3回生	キャリア開発研究Ⅰ、キャリア開発研究Ⅱ〈G〉 キャリア開発研究Ⅲ・Ⅳ〈G〉 キャリア開発研究Ⅵ
教養科目	1回生	公務員試験1次試験と重なる学びです。 教養入門(心理は除く)、日本国憲法、 法学概論Ⅰ・Ⅱ、政治学概論Ⅰ・Ⅱ、経営学概論、会計学概論、社会学概論Ⅰ・ Ⅱ、地理学概論、 物理学基礎、化学基礎、生物学基礎
	2回生	民法、行政法、国際関係入門、行政学、 経済学概論Ⅰ・Ⅱ
課外講座	1回生	たちばなアカデミー(単位認定あり)
	2回生 ～ 4回生	公務員試験対策講座 公務員試験支援センターが主催する「公務員試験対策プログラム」を受講します。公務員試験対策の専門予備校と本学が共同して実施する、合格対策プログラムです。

その他、自治体でのインターンシップへの参加を強く推奨。

- ・履修回生や科目名等は年度によって変更される場合がありますので、必ず毎年シラバスや注意事項で確認してください。
- ・教員志望者であっても、必修科目および履修指定科目は受講しなければなりません。
- ・また、あくまでも履修例であって、学部学科により必修科目および履修指定科目や区分等は異なります。

## ④警察官・消防官志望者

基礎力育成	1回生	日本語表現Ⅰ・Ⅱ／アカデミックライティング・教養ゼミ 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB English Communication I・Ⅱ (心理のみ) English Literacy I・Ⅱ (心理のみ) 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 数学演習Ⅰ・Ⅱ (心理は除く) 時事問題研究 (心理、救急救命は除く)
	2回生	英語ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB
キャリアデザイン・ キャリア開発	1回生	キャリア開発講座Ⅰ
	2回生	キャリアデザイン入門 キャリアコミュニケーションⅠ・Ⅱ
業種別キャリア開発	2回生	キャリア開発演習Ⅲ (児童教育、救急救命は除く)
教養科目	警官、消防官採用試験1次試験と重なる学びです。	
	1回生	教養入門、日本国憲法、法学概論Ⅰ・Ⅱ、 政治学概論Ⅰ・Ⅱ、経営学概論、地理学概論、 物理学基礎、化学基礎、生物学基礎、 スポーツコースⅠ～Ⅳ
	2回生	国際関係入門、経済学概論Ⅰ・Ⅱ
課外講座	1回生	たちばなアカデミー (単位認定あり)
	2回生 ～ 4回生	公務員試験対策講座 公務員試験支援センターが主催する「公務員試験対策プログラム」を受講します。公務員試験対策の専門予備校と本学が共同して実施する、合格対策プログラムです。

- 履修回生や科目名等は年度によって変更される場合がありますので、必ず毎年シラバスや注意事項で確認してください。
- 教員志望者であっても、必修科目および履修指定科目は受講しなければなりません。
- また、あくまでも履修例であって、学部学科により必修科目および履修指定科目や区分等は異なります。

## 【文学部独自のキャリア教育】

文学部の学びは、看護学部や健康科学部の学びのような、大学での学びと国家資格によって特定の職業を目指すものではありません。反面、日本語学や日本文学、日本文化、書道、歴史、歴史遺産の各専門分野における学びの過程を通じて、“人と社会へのまなざし”を身につけることができる「不易」の学問です。

社会に出て仕事に就くと、それがどのような仕事であっても「どうすればより人のためになるだろうか。どうすればより社会のためになるだろうか」ということを、様々な観点から考え、仕事を進めていくことになります。そのような時、まさに文学部の学びで培った“人と社会へのまなざし”が活きることになります。

本学文学部では、この“人と社会へのまなざし”を、よりみなさん自身の未来へ具体的につなげることができるよう、2017年度から文学部独自の3つのプログラムをスタートさせました。

## ・文学部キャリアゼミ

「キャリアゼミⅠ」「キャリアゼミⅡ」「キャリアゼミⅢ」「キャリアゼミⅣ」の4科目から構成され、必修科目として配置しています。

「キャリアゼミⅠ」では、みなさんが思い描くような学生生活を送ることができるよう、大学4年間そして卒業後を見据えた目標を描き、達成するためのプランを作成し、実践していきます。「キャリアゼミⅡ」では、みなさんが主体的に考え、一步前に踏み出すための課題解決型学修 (PBL ※Project Based Learningの略称) に挑戦し、企画立案・課題解決型の学びを通じて、みなさんの力を伸ばします。「キャリアゼミⅢ」では、インターンシップや海外体験、ボランティア活動等の学外体験を通じて、学問と実社会の接点を体験します。「キャリアゼミⅣ」では、社会人としての基礎を学び、みなさんの夢を実現させるための実践的スキルの獲得に取り組みます。

## ・京都プログラム

京都をテーマとした「京都産業文化論Ⅰ」「京都産業文化論Ⅱ」「京都観光論」「京都総合演習」の4科目から構成され、選択必修科目として配置しています。

これまで、本学には京都に関して学べる科目が多くあり、また日本文化や歴史、歴史遺産の専門分野においても、京都という歴史ある土地は深く関わってくるテーマでした。この京都プログラムでは、さらに新たな視点で京都に触れることができる科目を配置しています。

「京都産業文化論Ⅰ」では、京都の伝統文化・伝統産業について、各界の第一線で活躍するゲストスピーカーから講義を聴くことができます。「京都産業文化論Ⅱ」では、先端分野で活躍する京都企業のゲストスピーカーから講義を聴くことができます。「京都観光論」では、観光業界に携わる様々なゲストスピーカーから京都の観光産業について講義を聴くことができます。「京都総合演習」では、ここまで学んできた京都に関する知識を基に、自身の力を最大限に活用して、京都を舞台にした企画立案を行うPBLを実践します。

## ・多読百遍～文学部多読プログラム～

このプログラムでは、みなさんが所属する学科で抑えておいてほしい専門分野領域、そして大学生として抑えておいてほしい教養・キャリア分野領域において、3回生前半までで少なくとも100冊の本を読むことによって知を吸収し、視野を広げることを目的としています。

読んだ本について、専門分野は各担当教員による指導を受け、教養・キャリア分野はワークシートをこなし、LAの指導を受けます。“本を読み幅広い知識を得て、文章で表現する”ことは、大学生として基本的な学習スキルです。このプログラムを活用してしっかりと身につけてください。

これらのプログラムを含め、キャリア教育は各学科の専門教育課程との両輪によって深まっていくものです。それぞれの学びが互いに活きることになるでしょう。ぜひ主体的に取り組んでください。

## 5 日本語日本文学科 教養教育課程 カリキュラムマップ

### (1) 日本語日本文学科 基礎教育科目群・教養教育科目群 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
基礎教育科目	BA101	アカデミックライティング	2	必修	演習	1回生	①②④⑥⑦	10単位必修 外国人留学生用科目
	BA102	教養ゼミ	2	必修	演習	1回生	①②④⑥⑦	
	EN101	英語ⅠA	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN101	英語ⅠB	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN102	英語ⅡA	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN102	英語ⅡB	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	IN101	情報処理演習Ⅰ	1	必修	演習	1回生	①②⑥	
	IN102	情報処理演習Ⅱ	1	必修	演習	1回生	①②⑥	
	IS101	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	
	IS102	日本語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	
	IS201	日本語Ⅲ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	IS202	日本語Ⅳ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	IS101	日本事情Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦	
	IS102	日本事情Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦	
	IS201	日本事情Ⅲ	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦	
	IS202	日本事情Ⅳ	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦	
	GE101	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦	
	GE101	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦	
現代の思想	GE101	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥	4単位以上選択必修
	GE101	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥	
	GE101	日本人と宗教	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤	
	GE101	ジエンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦	
	GE201	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤	
	GE201	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤	
	GE101	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦	
	CA201	キャリアコミュニケーションⅠ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	CA202	キャリアコミュニケーションⅡ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	GE101	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤	
人間と知の伝達	GE101	情報社会論	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦	4単位以上選択必修
	GE101	数学演習Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②⑥	
	GE102	数学演習Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅲ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅳ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅴ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅵ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	GE101	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	
	GE101	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④	
	GE101	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	
教養教育科目	GE101	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤	4単位以上選択必修
	EN201	英語ⅢA	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN201	英語ⅢB	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN202	英語ⅣA	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN202	英語ⅣB	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	中国語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE102	中国語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE103	中国語Ⅲ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE104	中国語Ⅳ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	韓国語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
人間と文化	GE102	韓国語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	4単位以上選択必修
	GE103	韓国語Ⅲ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE104	韓国語Ⅳ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	フランス語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE102	フランス語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	ドイツ語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE102	ドイツ語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA101	外国語臨地演習	2	選択	演習	1回生	①②③④⑤⑦	
	GE101	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥	
	GE101	京都講座Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③	
歴史・文化	GE101	京都講座Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③	4単位以上選択必修
	GE101	京都の歴史・文化Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	
	GE101	京都の歴史・文化Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③	
	GE101	文学と京都	2	選択	講義	1回生	①②④	

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
教養教育科目	GE101	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	4単位以上選択必修 教養教育科目・キャリア教育科目のうち9単位必修、44単位以上選択必修
	GE101	法学概論Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	
	GE101	法学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	
	GE101	政治学概論Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③④	
	GE101	政治学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③④	
	GE201	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥	
	GE201	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥	
	GE201	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥	
	GE201	人権と教育	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤	
	GE201	国際関係入門	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤	
	GE101	くらしと経済	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥	
	GE101	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥	
	GE101	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥	
	GE101	福祉とボランティア	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	GE101	社会学概論Ⅰ	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤	
	GE101	社会学概論Ⅱ	2	選択	講義	2回生	①②③④⑥	
	GE201	時事問題研究	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE202	経済学概論Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②④	
	GE202	経済学概論Ⅱ	2					

## (2) 日本語日本文学科 キャリア教育科目 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
キャリア教育科目群	CA201	キャリアデザイン入門	2	必修	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	キャリア開発講座 I	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	キャリア開発講座 II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発講座 III	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発講座 IV	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 I	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 II	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 III	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 IV	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 I	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥	
	CA301	キャリア開発研究 II	2	選択	演習	3回生	①②③	
	CA301	キャリア開発研究 III	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 IV	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 V	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 VI	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ A (ビジネス)	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ B (図書館司書)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ C (行政)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ D (NGO・NPO)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④	
	CA201	産業心理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑥	
	CA301	広告と消費の心理学	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥	
	CA301	教職・保育職教養講義 I	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA302	教職・保育職教養講義 II	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA401	教職・保育職教養講義 III	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦	
	CA402	教職・保育職教養講義 IV	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	教職入門	2	選択	講義	1回生	①②③	
	CA101	教育心理学	2	選択	講義	1回生	①⑥⑦	
	CA101	教育原論	2	選択	講義	1回生	①④⑤	
	CA201	教育制度論	2	選択	講義	2回生	①⑤⑥	
	CA201	教育課程論	2	選択	講義	2回生	①④⑤	
	CA201	道徳教育の理論と方法	2	選択	講義	2回生	①③④⑥	
	CA201	特別活動論	2	選択	講義	2回生	①③⑤	
	CA201	教育方法論	2	選択	講義	2回生	①③⑥	
	CA301	国語科教育法 I	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	国語科教育法 II	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA303	国語科教育法 III	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA304	国語科教育法 IV	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA301	書道科教育法 I	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	書道科教育法 II	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA301	生徒・進路指導	2	選択	講義	3回生	①③④⑤	
	CA201	教育相談	2	選択	講義	2回生	①③⑤	
	CA401	教職実践演習 (中等)	2	選択	演習	4回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA401	教育実習 I	2	自由	実習・実習	4回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA301	教育実習 II (事前事後指導を含む)	3	自由	実習・実習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA101	生涯学習概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA101	図書館概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA201	図書館制度・経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	図書館情報技術論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	図書館サービス概論	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA201	情報サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	児童サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	情報サービス演習 I	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA202	情報サービス演習 II	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	図書館情報資源概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	情報資源組織論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	情報資源組織演習 I	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA202	情報資源組織演習 II	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	図書館情報資源特論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	図書館施設論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA301	図書館実習	1	自由	実習・実習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA201	学校経営と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	学校図書館とメディアの構成	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	学習指導と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
キャリア教育科目群	CA201	読書と豊かな人間性	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	情報メディアの活用	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA101	博物館学概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館資料論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館資料保存論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館展示論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA101	博物館教育論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA101	博物館情報・メディア論	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA301	博物館実習 I	1	選択	実習・実習	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	博物館実習 II	1	選択	実習・実習	3回生	①②③⑤⑦	
	CA401	博物館実習 III	1	自由	実習・実習	4回生	①②③④⑤⑦	
	CA101	生涯学習概論 II	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育計画 I	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA202	社会教育計画 II	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育演習	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育課題研究	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	日本語教授法 I	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA202	日本語教授法 II	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA301	日本語教授法 III	2	選択	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA302	日本語教授法 IV	2	選択	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA401	日本語教材研究	2	選択	演習	4回生	①②③④⑥	

## 6 歴史学科 教養教育課程 カリキュラムマップ

### (1) 歴史学科 基礎教育科目群・教養教育科目群 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
基礎教育科目群	BA101	アカデミックライティング	2	必修	演習	1回生	①②④⑥⑦	14単位必修
	BA102	教養ゼミ	2	必修	演習	1回生	①②④⑥⑦	
	EN101	英語Ⅰ A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN101	英語Ⅰ B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN102	英語Ⅱ A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN102	英語Ⅱ B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN201	英語Ⅲ A	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN201	英語Ⅲ B	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN202	英語Ⅳ A	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN202	英語Ⅳ B	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	IN101	情報処理演習Ⅰ	1	必修	演習	1回生	①②⑥	
	IN102	情報処理演習Ⅱ	1	必修	演習	1回生	①②⑥	
	IS101	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	
	IS102	日本語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	
	IS201	日本語Ⅲ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	IS202	日本語Ⅳ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	IS101	日本事情Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦	
	IS102	日本事情Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦	
	IS201	日本事情Ⅲ	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦	
	IS202	日本事情Ⅳ	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦	
現代の思想	GE101	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦	※「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」における日本人学生の履修は、履修許可者のみ履修可とし、修得した単位は【教養教育科目群】の単位に算入する。
	GE101	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦	
	GE101	日本人と宗教	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤	
	GE101	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦	
	GE201	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤	
	GE101	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦	
	CA201	キャリアコミュニケーションⅠ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	CA202	キャリアコミュニケーションⅡ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	GE101	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤	
	GE101	情報社会論	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦	
人間と知の伝達	GE101	数学演習Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②⑥	4単位以上選択必修
	GE102	数学演習Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅲ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅳ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅴ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅵ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	GE101	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	
	GE101	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④	
	GE101	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	
	GE101	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤	
教養教育科目群	GE101	中国語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	教養教育科目・キャリア教育科目から9単位必修、32単位以上選択必修
	GE102	中国語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE103	中国語Ⅲ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE104	中国語Ⅳ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	韓国語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE102	韓国語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE103	韓国語Ⅲ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE104	韓国語Ⅳ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	フランス語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE102	フランス語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
人間と文化	GE101	ドイツ語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	4単位以上選択必修
	GE102	ドイツ語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA101	外国語臨地演習	2	選択	演習	1回生	①②③④⑤⑦	
	GE101	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥	
	GE101	京都講座Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③	
	GE101	京都講座Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③	
歴史・文化	GE101	京都の歴史・文化Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	※履修許可者のみ履修可とし、修得した単位は【教養教育科目群】の単位に算入する。
	GE101	京都の歴史・文化Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③	
	GE101	文学と京都	2	選択	講義	1回生	①②④	
	GE101	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥	

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
人間と社会	GE101	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	4単位以上選択必修
	GE101	法学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	
	GE101	政治学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③④	
	GE201	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥	
	GE201	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥	
	GE201	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥	
	GE201	人権と教育	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤	
	GE201	国際関係入門	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤	
	GE101	くらしと経済	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥	
	GE101	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥	
教養教育科目群	GE101	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥	教養教育科目・キャリア教育科目から9単位必修、32単位以上選択必修
	GE101	福祉とボランティア	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	GE101	社会学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥	
	GE101	時事問題研究	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE202	経済学概論Ⅱ	2	選択	講義	2回生	①②④	
	GE101	健康に生きるⅠ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤	
	GE101	健康に生きるⅡ	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥	
	GE101	健康に生きるⅢ	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
	GE101	体育理論	2	選択	講義	1回生	①②⑤	
	GE101	スポーツコースⅠ	1	選				

## (2) 歴史学科 キャリア教育 カリキュラムマップ<sup>†</sup>

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
キャリア教育科目群	CA201	キャリアデザイン入門	2	必修	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	キャリア開発講座 I	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	キャリア開発講座 II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発講座 III	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発講座 IV	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 I	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 II	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 III	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 IV	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 I	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥	
	CA301	キャリア開発研究 II	2	選択	演習	3回生	①②③	
	CA301	キャリア開発研究 III	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 IV	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 V	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 VI	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ A (ビジネス)	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ B (図書館司書)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ C (行政)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ D (NGO・NPO)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	よそいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④	
	CA201	産業心理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑥	
	CA301	広告と消費の心理学	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥	
	CA301	教職・保育職教養講義 I	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA302	教職・保育職教養講義 II	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA401	教職・保育職教養講義 III	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦	
	CA402	教職・保育職教養講義 IV	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	教職入門	2	選択	講義	1回生	①②③	
	CA101	教育心理学	2	選択	講義	1回生	①⑥⑦	
	CA101	教育原論	2	選択	講義	1回生	①④⑤	
	CA201	教育制度論	2	選択	講義	2回生	①⑤⑥	
	CA201	教育課程論	2	選択	講義	2回生	①④⑤	
	CA201	道徳教育の理論と方法	2	選択	講義	2回生	①③④⑥	
	CA201	特別活動論	2	選択	講義	2回生	①③⑤	
	CA201	教育方法論	2	選択	講義	2回生	①③⑥	
	CA301	社会科教育法 I	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	社会科教育法 II	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA303	社会科教育法 III	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA304	社会科教育法 IV	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA301	地歴科教育法 I	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	地歴科教育法 II	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA301	生徒・進路指導	2	選択	講義	3回生	①③④⑤	
	CA201	教育相談	2	選択	講義	2回生	①③⑤	
	CA401	教職実践演習 (中等)	2	選択	演習	4回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA401	教育実習 I	2	自由	実習・実習	4回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA301	教育実習 II (事前事後指導を含む)	3	自由	実習・実習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
CA101	生涯学習概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦		
CA101	図書館概論	2	選抲	講義	1回生	①②③⑤⑦		
CA201	図書館制度・経営論	2	選抲	講義	2回生	①②③⑤⑦		
CA201	図書館情報技術論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦		
CA201	図書館サービス概論	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑦		
CA201	情報サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦		
CA201	児童サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
CA201	情報サービス演習 I	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦		
CA202	情報サービス演習 II	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦		
CA201	図書館情報資源概論	2	選抲	講義	2回生	①②③⑤⑦		
CA201	情報資源組織論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦		
CA201	情報資源組織演習 I	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦		
CA202	情報資源組織演習 II	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦		

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
キャリア教育科目群	CA201	図書館情報資源特論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	図書館施設論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA301	図書館実習	1	自由	実習・実習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA201	学校経営と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	学校図書館とメディアの構成	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	学習指導と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	読書と豊かな人間性	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	情報メディアの活用	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA101	博物館学概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館資料論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館資料保存論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館展示論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA101	博物館教育論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA101	博物館情報・メディア論	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA301	博物館実習 I	1	選択	実習・実習	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	博物館実習 II	1	選択	実習・実習	3回生	①②③⑤⑦	
	CA401	博物館実習 III	1	自由	実習・実習	4回生	①②③④⑤⑦	
	CA101	生涯学習概論 II	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育計画 I	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA202	社会教育計画 II	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育演習	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育課題研究	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	日本語教授法 I	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA202	日本語教授法 II	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA301	日本語教授法 III	2	選択	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA302	日本語教授法 IV	2	選択	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA401	日本語教材研究	2	選択	演習	4回生	①②③④⑥⑦	
	CA401	日本語教育実習	2	選択	実習・実習	4回生	①②③④⑤⑦	
	CA201	社会調査論	2	選択	講義	2回生	⑤⑥⑦	
	CA201	統計学基礎論	2	選択	講義	2回生	⑤⑥⑦	
	CA101	キャリアゼミ I	1	必修	演習	1回生	①②③⑦	
	CA102	キャリアゼミ II	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	キャリアゼミ III	1	必修	演習	2回生	①	

## 7 歴史遺産学科 教養教育課程 カリキュラムマップ

### (1) 歴史遺産学科 基礎教育科目群・教養教育科目群 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
基礎教育科目	BA101	アカデミックライティング	2	必修	演習	1回生	①②④⑥⑦	必修10単位 外国人留学生用科目
	BA102	教養ゼミ	2	必修	演習	1回生	①②④⑥⑦	
	EN101	英語ⅠA	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN101	英語ⅠB	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN102	英語ⅡA	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN102	英語ⅡB	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	IN101	情報処理演習Ⅰ	1	必修	演習	1回生	①②⑥	
	IN102	情報処理演習Ⅱ	1	必修	演習	1回生	①②⑥	
	IS101	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	
	IS102	日本語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	
	IS201	日本語Ⅲ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	IS202	日本語Ⅳ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	IS101	日本事情Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦	
	IS102	日本事情Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦	
	IS201	日本事情Ⅲ	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦	
	IS202	日本事情Ⅳ	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦	
	IS301	日本文化演習Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	※履修許可者のみ
	IS302	日本文化演習Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	※履修許可者のみ
人間と知の伝達	GE101	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦	4単位以上 選択必修
	GE101	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦	
	GE101	日本人と宗教	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤	
	GE101	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦	
	GE201	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤	
	GE101	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦	
	CA201	キャリアコミュニケーションⅠ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	CA202	キャリアコミュニケーションⅡ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
	GE101	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤	
	GE101	情報社会論	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦	
	GE101	数学演習Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②⑥	
	GE102	数学演習Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅲ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅳ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅴ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
	IN201	情報処理演習Ⅵ	1	選択	演習	2回生	①②⑥	
教養教育科目	GE101	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	4単位以上 選択必修
	GE101	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④	
	GE101	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	
	GE101	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤	
	EN201	英語ⅢA	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN201	英語ⅢB	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN202	英語ⅣA	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	EN202	英語ⅣB	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	中国語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE102	中国語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE103	中国語Ⅲ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE104	中国語Ⅳ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	韓国語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE102	韓国語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE103	韓国語Ⅲ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE104	韓国語Ⅳ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
人間と文化	GE101	フランス語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	教養教育科目群・キャリア教育科目群 合計で9単位必修、36単位以上選択必修
	GE102	フランス語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE101	ドイツ語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	GE102	ドイツ語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA101	外国語臨地演習	2	選択	演習	1回生	①②③④⑤⑦	
	GE101	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥	
	GE101	京都講座Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③	
	GE101	京都講座Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③	
	GE101	京都の歴史・文化Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	
	GE101	京都の歴史・文化Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③	
歴史・文化	GE101	文学と京都	2	選択	講義	1回生	①②④	4単位以上 選択必修

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
人間と社会	GE101	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	教養教育科目群・キャリア教育科目群 合計で9単位必修、36単位以上選択必修
	GE201	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥	
	GE201	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥	
	GE201	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥	
	GE201	人権と教育	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤	
	GE201	国際関係入門	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤	
	GE101	くらしと経済	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥	
	GE101	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥	
	GE101	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥	
	GE101	福祉とボランティア	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
教養教育科目	GE101	時事問題研究	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	4単位以上 選択必修
	GE101	健康に生きるⅠ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤	
	GE101	健康に生きるⅡ	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥	
	GE101	健康に生きるⅢ	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
	GE101	体育理論	2	選択	講義	1回生	①②⑤	
	GE101	スポーツコースⅠ	1	選択	実習・実習	1回生	①②③⑤⑦	
	GE101	スポーツコースⅡ	1	選択	実習・実習	1回生	①②③⑤⑦	
	GE101	スポーツコースⅢ	1	選択	実習・実習	1回生	①②③⑤⑦	
	GE101	スポーツコースⅣ	1	選択	実習・実習	1回生	①②③⑤⑦	

## (2) 歴史遺産学科 キャリア教育科目 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
キャリア教育科目群	CA201	キャリアデザイン入門	2	必修	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	キャリア開発講座 I	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	キャリア開発講座 II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発講座 III	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発講座 IV	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 I	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 II	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 III	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	キャリア開発演習 IV	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 I	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥	
	CA301	キャリア開発研究 II	2	選択	演習	3回生	①②③	
	CA301	キャリア開発研究 III	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 IV	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 V	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA301	キャリア開発研究 VI	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ A (ビジネス)	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ B (図書館司書)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ C (行政)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	インターンシップ D (NGO・NPO)	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	
	CA201	よそいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④	
	CA201	産業心理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑥	
	CA301	広告と消費の心理学	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥	
	CA301	教職・保育職教養講義 I	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA302	教職・保育職教養講義 II	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦	
	CA401	教職・保育職教養講義 III	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦	
	CA402	教職・保育職教養講義 IV	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦	
	CA101	教職入門	2	選択	講義	1回生	①②③	
	CA101	教育心理学	2	選択	講義	1回生	①⑥⑦	
	CA101	教育原論	2	選択	講義	1回生	①④⑤	
	CA201	教育制度論	2	選択	講義	2回生	①⑤⑥	
	CA201	教育課程論	2	選択	講義	2回生	①④⑤	
	CA201	道徳教育の理論と方法	2	選択	講義	2回生	①③④⑥	
	CA201	特別活動論	2	選択	講義	2回生	①③⑤	
	CA201	教育方法論	2	選択	講義	2回生	①③⑥	
	CA301	社会科教育法 I	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	社会科教育法 II	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA303	社会科教育法 III	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA304	社会科教育法 IV	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA301	地歴科教育法 I	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	地歴科教育法 II	2	自由	講義	3回生	①②③⑤⑦	
	CA301	生徒・進路指導	2	選択	講義	3回生	①③④⑤	
	CA201	教育相談	2	選択	講義	2回生	①③⑤	
	CA401	教職実践演習 (中等)	2	選択	演習	4回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA401	教育実習 I	2	自由	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA301	教育実習 II (事前事後指導を含む)	3	自由	実験・実習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA101	生涯学習概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA101	図書館概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA201	図書館制度・経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	図書館情報技術論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	図書館サービス概論	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA201	情報サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	児童サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	情報サービス演習 I	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA202	情報サービス演習 II	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	図書館情報資源概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	情報資源組織論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA201	情報資源組織演習 I	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
	CA202	情報資源組織演習 II	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
キャリア教育科目群	CA201	図書館情報資源特論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	図書館施設論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA301	図書館実習	1	自由	実験・実習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA201	学校経営と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	学校図書館とメディアの構成	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	学習指導と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	読書と豊かな人間性	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	情報メディアの活用	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA101	博物館学概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館資料論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館資料保存論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	博物館展示論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA101	博物館教育論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA101	博物館情報・メディア論	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA301	博物館実習 I	1	選択	実験・実習	3回生	①②③⑤⑦	
	CA302	博物館実習 II	1	選択	実験・実習	3回生	①②③⑤⑦	
	CA401	博物館実習 III	1	自由	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑦	
	CA101	生涯学習概論 II	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育計画 I	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA202	社会教育計画 II	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育演習	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	社会教育課題研究	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦	
	CA201	日本語教授法 I	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA202	日本語教授法 II	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦	
	CA301	日本語教授法 III	2	選択	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA302	日本語教授法 IV	2	選択	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦	
	CA401	日本語教材研究	2	選択	演習	4回生	①②③	

## 第10章 教育課程（日本語日本文学科）

### 1. 日本語日本文学コース

#### （1）コースの特徴

日本語日本文学コースの開講科目は、日本語や日本文学の専門的な理解を目指す「日本語日本文学領域」と、伝統文化からアニメ漫画まで国際的な視野から見た日本文化の理解をめざす「国際日本文化領域」の2つの専門領域の授業科目から成り立っています。2つの専門領域は、それぞれに独立した領域でありながら、密接な関係を持つものです。日本文学を学びたくて日本語を学んでいる外国人も多く、また日本文学の知見が世界的な視野から見た日本文化の研究に応用される場合もあります。「国際日本文化」の科目群は、日本文学や日本語学の学習を通じて習得した知識や感性を基盤として国際人として成長しキャリア形成に資するようカリキュラムが組み出されています。

密接な関係を持った本コースの3分野の授業科目は、学年が進むにしたがって、基礎的で総合的な科目から、各分野のより専門的で高度な知識や技術が獲得できるような科目へというように配列されています。自ら設定したテーマの解明に取り組む3・4回生での「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を有意義なものにするためには、低回生から、多様な分野の科目を履修し、それぞれの興味を深め、良質な知識や技術を、それぞれの興味に応じて自ら取り込んでいく、しなやかな感性が必要です。本コースでは、そのような感性を養うに充分に豊富な授業科目が開講されています。好奇心を持って、積極的に授業に臨んでください。

### （2）各回生の到達目標

表は、各学科・コース別に、専門教育科目的獲得目標を一覧化したものです。その後のページに続く、学科・コースのカリキュラム表と併せ、受講登録はもちろん、4年間でどのような学力を身につけ卒業に向かうのか、計画を立てる際に参考にしてください。

ディプロマ・ ポリシー(DP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日本語の特質を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>②各時代の文学を読解するための、基礎的な語彙力や表現力を身につけている。</li> <li>③作品や文章を通して、人間や社会に関する課題を発見し、考察する力を身につけている。</li> <li>④日本文化に関する総合的な理解を深めていくことで、国際化が進行する社会にふさわしい知性やコミュニケーション力を身につけている。</li> <li>⑤書の制作や書学研究を深めることにより、自身の感性を磨き、豊かな創造力と表現力を身につけている。</li> </ul>
--------------------	---



4回生	<p>いよいよ卒業研究に本格的に取り組むことになります。余裕のある人は、単位が揃っていても、テーマに関連する科目を受講して考えを深めてください。後期が始まるとまもなく卒業研究の中間発表を行うことになります。ですから、夏休み中にはおおよそのアウトラインを引いておく必要があります。早目の準備を心がけましょう。</p> <p>卒業論文への取り組みは、安易な結論を出さずに考え方を育てるとともに、創意工夫によって疑問を乗り越える能力を獲得することで、社会に乗り出す力を与えてくれます。</p>
3回生	<p>日本語学や日本文学に関わる講義科目の履修を進めることで、学問の幅と奥行きの広さを感じることができます。3回生では「日本語日本文学演習」によって、卒業研究への取り組みが始まります。</p> <p>卒業研究で問われるのは、問題発見能力とそれを解決する能力です。どんな問題が見つかるか、何に興味を惹かれるかは、それまでの学習によって培われた力がものを言うわけですから、主体的に授業に参加してください。</p>
2回生	<p>1回生の「研究入門ゼミ」に続く「基礎演習」を履修することで、日本文学と日本語学、メディア・表現分野の基礎力が身につくようになっています。「言語文化総合演習」では引き続き、活動の中で知を獲得することを目指します。その他に、2回生以降の回生では、さまざまな領域にわたる講義科目によって作品の解釈や言語調査などのアプローチも行います。</p> <p>2回生で3回生以降に所属するゼミを選択することになりますが、はじめから対象を狭く絞ってしまわず、2回生まではできるだけ広い知識と視野を獲得するように努力してください。はじめて出会う作品や領域の中に自分の成長を促す発見をすることもあるのです。</p>
1回生	<p>大学での勉強は、高校までの勉強とは違い、覚えることよりも、よく考えることが求められます。日本文学を取り上げるなら、なぜその時代にそのような作品が生まれたのか、その文章にはどのような読みが可能なのか、なぜそのような表現を用いたのか、などの考察が必要になります。</p> <p>日本語の場合にも、「は」と「が」ではどう違うのか、現在の方言分布はなぜ起因するのかなど、今まであまり考える機会がなかったことを学び、新しい視点を持ってもらうことになります。〈考える〉という行為を行うためには新しい知識や方法を吸収することが必要不可欠だからです。</p> <p>作品や言葉に向かいつつ学び方を勉強する「研究入門ゼミ」と、現場において知識を活用する方法を学ぶ「言語文化総合演習」、基礎的知識を学ぶ「日本文学史」、「日本語学概説」があります。</p>

## (3) 日本語日本文学科 日本語日本文学コース 専門教育科目群 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
必修科目	JL-L101	研究入門ゼミ I	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	38単位必修
	JL-L102	研究入門ゼミ II	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-L101	言語文化総合演習 I	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-L102	言語文化総合演習 II	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-L103	言語文化総合演習 III	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-L104	言語文化総合演習 IV	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-L201	基礎演習 I	2	必修	演習	2回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-L202	基礎演習 II	2	必修	演習	2回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-L201	言語文化総合演習 V	2	必修	演習	2回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-L202	言語文化総合演習 VI	2	必修	演習	2回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-L203	言語文化総合演習 VII	2	必修	演習	2回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-L204	言語文化総合演習 VIII	2	必修	演習	2回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-L301	日本語日本文学演習 I	2	必修	演習	3回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-L302	日本語日本文学演習 II	2	必修	演習	3回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-L401	日本語日本文学演習 III	2	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-L402	日本語日本文学演習 IV	2	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-L401	卒業研究	6	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
区分1	JL-L111	日本語学概説 I	2	選択	講義	1回生	①②⑥	①	区分1から4単位以上選択必修
	JL-L111	日本語学概説 II	2	選択	講義	1回生	①②⑥	①⑤	
	JL-L111	日本文学史 I	2	選択	講義	1回生	①②③	②③⑤	
	JL-L111	日本文学史 II	2	選択	講義	1回生	①②③	②③	
	JL-Z111	国際日本文化講義 I	2	選択	講義	1回生	①②④	③④	
	JL-Z112	国際日本文化講義 II	2	選択	講義	1回生	①②④	③④	
専門教育科目群	JL-L221	日本語学講義 I (日本語文法)	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①	区分2から16単位以上選択必修
	JL-L221	日本語学講義 II (日本語文法)	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①	
	JL-L221	日本語学講義 III (社会言語学)	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①	
	JL-L221	日本語学講義 IV (日本語史)	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①	
	JL-L221	古典文学講義 I (平安)	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-L221	古典文学講義 II (平安)	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-L221	古典文学講義 III (中近世)	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-L221	古典文学講義 IV (中近世)	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-L221	近現代文学講義 I	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-L221	近現代文学講義 II	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-L221	近現代文学講義 III	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-L221	近現代文学講義 IV	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-L221	映像文化演習	2	選択	演習	2回生	①②③	④	
	JL-L221	文芸創作演習	2	選択	演習	2回生	①②③	④	
	JL-L221	アナウンス技術演習 I	2	選択	演習	2回生	①②⑦	①④	
	JL-L221	アナウンス技術演習 II	2	選択	演習	2回生	①②⑦	①④⑤	
	JL-L131	日本文化演習 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑦		
	JL-L131	日本文化演習 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑦		
その他選択必修科目	JL-Z211	国際日本文化演習	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	①	※許可者のみ
	JL-Z131	京都産業文化論 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	JL-Z231	京都観光論	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL-Z231	京都産業文化論 II	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL-Z331	京都総合演習	2	選択	演習	3回生	②④⑤⑥⑦		
	JL-L131	中学書写 I	1	選択	演習	1回生	①②④	⑤	
	JL-L132	中学書写 II	1	選択	演習	1回生	①②④	⑤	
その他選択必修科目	JL-L131	漢文学 I	2	選択	講義	1回生	①②④	②③⑤	
	JL-L131	漢文学 II	2	選択	講義	1回生	①②④	②③	
	JL-L131	日本史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	JL-L131	日本史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④		
	JL-L131	民俗学	2	選択	講義	1回生	②③⑤		

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
専門教育科目群 その他選択必修科目	JL-L131	文化遺産学	2	選択	講義	1回生	②③⑤		区分1から4単位以上、区分2から16単位以上、それを含め選択科目全体から24単位以上選択必修
	JL-L131	日本美術史 I	2	選択	講義	1回生	①④⑦		
	JL-L131	日本美術史 II	2	選択	講義	1回生	①④⑦		
	JL-L131	東洋美術史	2	選択	講義	1回生	①②⑦		
	JL-L231	文化交流史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL-L231	文化交流史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL-L231	日本女性史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL-L231	日本女性史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL-L331	古都学 I	2	選択	講義	3回生	①③④⑥		
	JL-L331	古都学 II	2	選択	講義	3回生	①③④⑥		

全学共通の到達目標	① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
	② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
	③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
	④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
	⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
	⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
	⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得
学科・コース別のディプロマ・ポリシー	① 日本語の特質を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけている。
	② 各時代の文学を読解するための、基礎的な語彙力や表現力を身につけている。
	③ 作品や文章を通して、人間や社会に関する課題を発見し、考察する力を身につけている。
	④ 日本文化に関する総合的な理解を深めていくことで、国際化が進行する社会にふさわしい知性やコミュニケーション力を身につけている。
	⑤ 書の制作や書学研究を深めることにより、自身の感性を磨き、豊かな創造力と表現力を身につけている。

## ◆「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって

# 文学部 日本語日本文学科 日本語日本文学コース カリキュラム表

## 基礎教育科目群

アカデミックライティング	単位	回生	英語 I A	単位	回生	情報処理演習 I	単位	回生
教養ゼミ	2	1~	英語 I B	1	1~	情報処理演習 II	1	1~
	2	1~	英語 II A	1	1~			
			英語 II B	1	1~			

必修10単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 必修

教養入門	単位	回生	+	地域課題研究	単位	回生	+	キャリアデザイン入門	単位	回生
キャリアゼミ I	1	1~	+	キャリアゼミ II	1	2~	+	キャリアゼミ III	1	2~

= 必修  
9単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 選択必修

選択必修44単位以上

人間と知の伝達(領域)	人間と文化(領域)	人間と社会(領域)	人間と自然(領域)
●現代の思想(分野)	●外国語と文化理解(分野)	●法律・行政・政治(分野)	●健康・こころ・からだ(分野)
単位	回生	単位	回生
哲学概論	2 1~	比較文化論	2 1~
倫理学概論	2 1~	數化コミュニケーション論(人文)	2 1~
日本人と宗教	2 1~	文化人類学	2 1~
ジェンダー研究	2 1~	芸術と文化	2 1~
宗教学概論	2 2~	英語 III A	1 2~
心理学概論	2 2~	英語 III B	1 2~
●メディアと情報(分野)	英語 IV A	英語 IV B	英語 IV A
単位	回生	中国語 I	2 1~
言語コミュニケーション論	2 1~	中国語 II	2 1~
キャリアコミュニケーション I	2 2~	中国語 III	2 1~
キャリアコミュニケーション II	2 2~	中国語 IV	2 1~
現代のメディアと表現	2 1~	韓国語 I	2 1~
情報社会論	2 1~	韓国語 II	2 1~
情報処理演習 III	1 2~	韓国語 III	2 1~
情報処理演習 IV	1 2~	韓国語 IV	2 1~
情報処理演習 V	1 2~	フランス語 I	2 1~
情報処理演習 VI	1 2~	フランス語 II	2 1~
数学演習 I	2 1~	ドイツ語 I	2 1~
数学演習 II	2 1~	ドイツ語 II	2 1~
●歴史・文化(分野)	外国语臨地演習	くらしと経済	地球生命論
単位	回生	単位	回生
歴史学入門	2 1~	経済学概論 I	2 2~
京都講座 I	2 1~	経済学概論 II	2 2~
京都講座 II	2 1~	経営学概論	2 1~
京都の歴史・文化 I	2 1~	会計学概論	2 1~
京都の歴史・文化 II	2 1~	福祉とボランティア	2 1~
文学と京都	2 1~	社会学概論 I	2 1~

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

キャリア開発講座 I	単位	回生	よそおいの心理学	単位	回生	教育方法論	単位	回生	日本語教授法 I	単位	回生
キャリア開発講座 II	2	1~	産業心理学	2	2~	生徒・進路指導	2	3~	日本語教授法 II	2	2~
キャリア開発講座 III	2	2~	広告と消費の心理学	2	3~	教育相談	2	2~	日本語教授法 III	2	3~
キャリア開発講座 IV	2	2~	教職・保育職教養講義 I	2	3~	教職実践演習(中等)	2	4	日本語教授法 IV	2	3~
キャリア開発演習 I	2	2~	教職・保育職教養講義 II	2	3~	生涯学習概論	2	1~	日本語教材研究	2	4
キャリア開発演習 II	2	2~	教職・保育職教養講義 III	2	4	図書館概論	2	1~	日本語教育実習	2	4
キャリア開発演習 III	2	2~	教職・保育職教養講義 IV	2	4	図書館制度・経営論	2	2~	社会調査論	2	2~
キャリア開発演習 IV	2	2~	教職入門	2	1~	図書館情報資源概論	2	2~	統計学基礎論	2	2~
キャリア開発研究 I	2	3~	教育心理学	2	1~	博物館学概論	2	1~			
キャリア開発研究 II	2	3~	教育原論	2	1~	博物館経営論	2	2~			
キャリア開発研究 III	2	3~	教育制度論	2	2~	博物館資料論	2	2~			
キャリア開発研究 IV	2	3~	教育課程論	2	2~	博物館資料保存論	2	2~			
キャリア開発研究 V	2	3~	道徳教育の理論と方法	2	2~	博物館展示論	2	2~			
キャリア開発研究 VI	2	3~	特別活動論	2	2~	博物館教育論	2	1~			
インターンシップA(ビジネス)	2	1~				博物館実習 I	1	3~			
インターンシップB(図書館司書)	2	2~				博物館実習 II	1	3~			
インターンシップC(行政)	2	2~									
インターンシップD(NGO・NPO)	2	2~									

## 専門教育科目群 必修

1回生	+	2回生	+	3回生	+	4回生	=	
研究入門ゼミ I	単位	回生	基礎演習 I	単位	回生	日本語日本文学演習 I	単位	回生
研究入門ゼミ II	2	1~	基礎演習 II	2	2~	日本語日本文学演習 II	2	3~
言語文化総合演習 I	2	1~	言語文化総合演習 V	2	2~	日本語日本文学演習 III	2	4~
言語文化総合演習 II	2	1~	言語文化総合演習 VI	2	2~	日本語日本文学演習 IV	2	4~
言語文化総合演習 III	2	1~	言語文化総合演習 VII	2	2~	卒業研究	6	4
言語文化総合演習 IV	2	1~						

= 必修  
38単位

## 専門教育科目群 選択必修

〔区分1〕	〔区分2〕	〔区分3〕	〔区分4〕
日本語学概説 I	日本語学講義 I (日本語文法)	映像文化演習	2 2~
日本語学概説 II	日本語学講義 II (日本語文法)	文芸創作演習	2 2~
日本文学史 I	日本語学講義 III (社会言語学)	アナウンス技術演習 I	2 2~
日本文学史 II	日本語学講義 IV (日本語史)	アナウンス技術演習 II	2 2~
国際日本文化講義 I	古典文学講義 I (平安)	国際日本文化演習	2 2~
国際日本文化講義 II	古典文学講義 II (平安)	日本文化演習 I	2 1~
	古典文学講義 III (中近世)	日本文化演習 II	2 1~
	古典文学講義 IV (中近世)	京都産業文化論 I	2 1~
	近現代文学講義 I	京都産業文化論 II	2 2~
	近現代文学講義 II	京都観光論	2 2~
	近現代文学講義 III	京都総合演習	2 3~
	近現代文学講義 IV		
中学書写 I	文化交流史特講 I		
中学書写 II	文化交流史特講 II		
漢文学 I	日本女性史特講 I		
漢文学 II	日本女性史特講 II		
日本史概説 I	古都学 I		
日本史概説 II	古都学 II		
民俗学			
文化遺産学			
日本美術史 I			
日本美術史 II			
東洋美術史			

16単位以上

基礎教育科目群 + 教養教育科目群 + キャリア教育科目群	+	専門教育科目群 必修	+	専門教育科目群 選択必修	=	125単位以上
63単位以上		38単位以上		24単位以上		

※他学部・他学科・他コースの学生の履修については、『第3章受講登録』を参照してください。

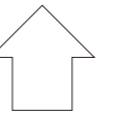
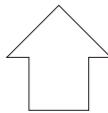
## 2. 書道コース

### (1) コースの特徴

書道コースは、1回生時では「研究入門ゼミ」をはじめとする基礎力アップのための科目を中心に据え、その基盤の上に自由な展開を図るべく、充実したカリキュラムが組まれているのが特徴です。2回生からは、多様な漢字・かな古典を研究するとともに書道史等を通して幅広く書の魅力を探ります。3・4回生では、実習と書論の両面から基礎を固め、応用力を修得し、卒業研究につなげます。また、日本語日本文学科としての専門科目の履修によって、心豊かな人間としての総合的な力が身につくように配慮されています。

### (2) 各回生の到達目標

ディプロマ・ ポリシー(DP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日本語の特質を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身に附けている。</li> <li>②各時代の文学を読解するための、基礎的な語彙力や表現力を身に附けている。</li> <li>③作品や文章を通して、人間や社会に関する課題を発見し、考察する力を身に附けている。</li> <li>④日本文化に関する総合的な理解を深めていくことで、国際化が進行する社会にふさわしい知性やコミュニケーション力を身に附けている。</li> <li>⑤書の制作や書学研究を深めることにより、自身の感性を磨き、豊かな創造力と表現力を身に附けている。</li> </ul>
--------------------	---



4回生	4年間の集大成としての卒業制作展が京都文化博物館（予定）で一般公開され、卒業制作集としても発行されます。論文で制作に替えることもできます。いずれにしても全力投球してください。書の活動を総合的に行うことで、書を社会に活かすための実践力を身に附けていきます。
3回生	2回生までの成果をふまえ、実習と書論の両面を深めて卒業制作・卒業研究につなげます。書のあらゆる表現分野に関心を持ち、それぞれの表現力を身につけ、さらに社会と書の関係についても考えを深めていきます。
2回生	2回生からは、多様な漢字・かな古典を研究するとともに、書道史を学ぶことを通して幅広く書の魅力を探ります。古典を学ぶことで、書に関する表現技術を学ぶとともに、過去と現代、中国と日本を同時に収める視野を獲得していきます。
1回生	基礎力アップのために、「研究入門ゼミ」を中心とする科目を置き、それをふまえて自由な展開を図るべくカリキュラム編成をしています。しっかり基盤を固めてください。

## (3) 日本語日本文学科 書道コース 専門教育科目群 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
必修科目	JL-C101	研究入門ゼミ I	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	34単位必修
	JL-C102	研究入門ゼミ II	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
	JL-C101	言語文化総合演習 III	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-C102	言語文化総合演習 IV	2	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
	JL-C101	書法 I	1	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C102	書法 II	1	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C103	書法 III	1	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C104	書法 IV	1	必修	演習	1回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C201	漢字古典研究 I	2	必修	演習	2回生	①②④	⑤	
	JL-C202	漢字古典研究 II	2	必修	演習	2回生	①②④	⑤	
	JL-C201	かな古典研究 I	2	必修	演習	2回生	①②④	⑤	
	JL-C202	かな古典研究 II	2	必修	演習	2回生	①②④	⑤	
	JL-C301	書法 V	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C302	書法 VI	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C303	書法 VII	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C304	書法 VIII	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C401	作品研究 I	1	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C402	作品研究 II	1	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C403	作品研究 III	1	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C404	作品研究 IV	1	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	⑤	
	JL-C401	卒業研究	6	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①②③④⑤	
専門教育科目群	JL-C111	篆刻 I	2	選択	演習	1回生	①②④	⑤	区分 1 から 4 単位以上 選択必修
	JL-C112	篆刻 II	2	選択	演習	1回生	①②④	⑤	
	JL-C111	日本語学概説 I	2	選択	講義	1回生	①②⑥	①	
	JL-C111	日本語学概説 II	2	選択	講義	1回生	①②⑥	①	
	JL-C111	日本文学史 I	2	選択	講義	1回生	①②③	②③	
	JL-C111	日本文学史 II	2	選択	講義	1回生	①②③	②③	
	JL-Z111	国際日本文化講義 I	2	選択	講義	1回生	①②④	③④	
	JL-Z112	国際日本文化講義 II	2	選択	講義	1回生	①②④	③④	
区分 2	JL-C221	書論・鑑賞 I	2	選択	講義	2回生	①②④	⑤	区分 1 から 4 単位以上、区分 2、区分 3 から 20 単位以上、それを含め選択科目全体から 28 単位以上 選択必修
	JL-C222	書論・鑑賞 II	2	選択	講義	2回生	①②④	⑤	
	JL-C221	中国書道史	2	選択	講義	2回生	①②④	⑤	
	JL-C221	日本書道史	2	選択	講義	2回生	①②④	⑤	
	JL-C221	日本語学講義 I (日本語文法)	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①	
	JL-C221	日本語学講義 II (日本語文法)	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①	
	JL-C221	日本語学講義 III (社会言語学)	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①	
	JL-C221	日本語学講義 IV (日本語史)	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①	
	JL-C221	古典文学講義 I (平安)	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-C221	古典文学講義 II (平安)	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-C221	古典文学講義 III (中世)	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-C221	古典文学講義 IV (中世)	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-C221	近現代文学講義 I	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-C221	近現代文学講義 II	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-C221	近現代文学講義 III	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-C221	近現代文学講義 IV	2	選択	講義	2回生	①②③	②③	
	JL-C221	映像文化演習	2	選択	演習	2回生	①②③	④	
	JL-C221	文芸創作演習	2	選択	演習	2回生	①②③	④	
	JL-C221	アナウンス技術演習 I	2	選択	演習	2回生	①②⑦	①④	
	JL-C221	アナウンス技術演習 II	2	選択	演習	2回生	①②⑦	①④	
	JL-L131	日本文化演習 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	①③④	

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
区分 2	JL-L131	日本文化演習 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	①③④	区分 2・3 から 20 単位以上選択必修
	JL-Z211	国際日本文化演習	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	①④	
	JL-Z131	京都産業文化論 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	JL-Z231	京都観光論	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL-Z231	京都産業文化論 II	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL-Z331	京都総合演習	2	選択	演習	3回生	②④⑤⑥⑦		
	JL-C331	書論特講 a	2	選択	講義	3回生	①②④	⑤	
	JL-C332	書論特講 b	2	選択	講義	3回生	①②④	⑤	
	JL-C333	書論特講 c	2	選択	講義	3回生	①②④	⑤	
	JL-C334	書論特講 d	2	選択	講義	3回生	①②④	⑤	
区分 3	JL-C331	現代書研究 I	2	選択	演習	3回生	①②④	⑤	区分 1 から 4 単位以上、区分 2、区分 3 から 20 単位以上、それを含め選択科目全体から 28 単位以上選択必修
	JL-C332	現代書研究 II	2	選択	演習	3回生	①②④	⑤	
	JL-L131	中学書写 I	1	選択	演習	1回生	①②④	⑤	
	JL-L132	中学書写 II	1	選択	演習	1回生	①②④	⑤	
	JL-L131	漢文学 I	2	選択	講義	1回生	①②④	②③	
	JL-L131	漢文学 II	2	選択	講義	1回生	①②④	②③	
	JL-L131	日本史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	JL-L131	日本史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④		
	JL-L131	民俗学	2	選択	講義	1回生	②③⑤		
	JL-L131	文化遺産学	2	選択	講義	1回生	②③⑤		
専門教育科目群	JL-L131	日本美術史 I	2	選択	講義	1回生	①④⑦		区分 1 から 4 単位以上、区分 2、区分 3 から 20 単位以上、それを含め選択科目全体から 28 単位以上選択必修
	JL-L131	日本美術史 II	2	選択	講義	1回生	①④⑦		
	JL-L131	東洋美術史	2	選択	講義	1回生	①②⑦		
	JL-C241	文化交流史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④		
	JL								

# 文学部 日本語日本文学科 書道コース カリキュラム表

## 基礎教育科目群

アカデミックライティング	単位	回生	英語 I A	単位	回生	情報処理演習 I	単位	回生
教養ゼミ	2	1~	英語 I B	1	1~	情報処理演習 II	1	1~
	2	1~	英語 II A	1	1~			
			英語 II B	1	1~			

必修10単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 必修

教養入門	単位	回生	+	地域課題研究	単位	回生	+	キャリアデザイン入門	単位	回生
キャリアゼミ I	1	1~	+	キャリアゼミ II	1	2~	+	キャリアゼミ III	1	2~

= 必修  
9単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 選択必修

選択必修44単位以上																	
<b>人間と知の伝達(領域)</b>																	
<b>●現代の思想(分野)</b>																	
哲学概論	2	1~	単位	回生	比較文化論	2	1~	単位	回生	●法律・行政・政治(分野)							
倫理学概論	2	1~			日本国憲法	2	1~			●健康・こころ・からだ(分野)							
日本人と宗教	2	1~			法学概論 I	2	1~			健康に生きる I							
ジェンダー研究	2	1~			法学概論 II	2	1~			健康に生きる II							
宗教学概論	2	2~			民法	2	2~			健康に生きる III							
心理学概論	2	2~			行政法	2	2~			体育理論							
●メディアと情報(分野)					人権と教育	2	2~			スポーツコース I							
言語コミュニケーション論	2	1~			政治学概論 I	2	1~			スポーツコース II							
キャリアコミュニケーション I	2	2~			政治学概論 II	2	1~			スポーツコース III							
キャリアコミュニケーション II	2	2~			国際関係入門	2	2~			スポーツコース IV							
現代のメディアと表現	2	1~			行政学	2	2~										
情報社会論	2	1~			<b>●経済・経営・社会(分野)</b>												
情報処理演習 III	1	2~			地球生命論	2	1~			●自然と環境(分野)							
情報処理演習 IV	1	2~			地球環境論	2	1~			地球の探求							
情報処理演習 V	1	2~			工コロジー研究	2	1~			地理学概論							
情報処理演習 VI	1	2~			経済学概論 I	2	2~			生活の中の数学							
数学演習 I	2	1~			経済学概論 II	2	2~			物理学基礎							
数学演習 II	2	1~			会計学概論	2	1~			化学基礎							
<b>●歴史・文化(分野)</b>											生物学基礎						
歴史学入門	2	1~			くらしと経済	2	1~			時事問題研究	2	1~					
京都講座 I	2	1~			韓国語 I	2	1~										
京都講座 II	2	1~			韓国語 II	2	1~										
京都の歴史・文化 I	2	1~			韓国語 III	2	1~										
京都の歴史・文化 II	2	1~			韓国語 IV	2	1~										
文学と京都	2	1~			フランス語 I	2	1~										
<b>上記領域より4単位以上</b>																	
<b>上記領域より4単位以上</b>																	
<b>上記領域より4単位以上</b>																	
<b>上記領域より4単位以上</b>																	

キャリア開発講座 I	単位	回生	よそおいの心理学	単位	回生	教育方法論	単位	回生	日本語教授法 I	単位	回生
キャリア開発講座 II	2	1~	産業心理学	2	2~	生徒・進路指導	2	3~	日本語教授法 II	2	2~
キャリア開発講座 III	2	2~	広告と消費の心理学	2	3~	教育相談	2	2~	日本語教授法 III	2	3~
キャリア開発講座 IV	2	2~	教職・保育職教養講義 I	2	3~	教職実践演習(中等)	2	4	日本語教授法 IV	2	3~
キャリア開発演習 I	2	2~	教職・保育職教養講義 II	2	3~	生涯学習概論 I	2	1~	日本語教材研究	2	4
キャリア開発演習 II	2	2~	教職・保育職教養講義 III	2	4	図書館概論	2	1~	日本語教育実習	2	4
キャリア開発演習 III	2	2~	教職・保育職教養講義 IV	2	4	図書館制度・経営論	2	2~	社会調査論	2	2~
キャリア開発演習 IV	2	2~	教職入門	2	1~	図書館情報資源概論	2	2~	統計学基礎論	2	2~
キャリア開発研究 I	2	3~	教育心理学	2	1~	博物館学概論	2	1~			
キャリア開発研究 II	2	3~	教育原論	2	1~	博物館経営論	2	2~			
キャリア開発研究 III	2	3~	教育制度論	2	2~	博物館資料論	2	2~			
キャリア開発研究 IV	2	3~	教育課程論	2	2~	博物館資料保存論	2	2~			
キャリア開発研究 V	2	3~	道徳教育の理論と方法	2	2~	博物館展示論	2	2~			
キャリア開発研究 VI	2	3~	特別活動論	2	2~	博物館教育論	2	1~			
インターンシップA(ビジネス)	2	1~				博物館実習 I	1	3~			
インターンシップB(図書館司書)	2	2~				博物館実習 II	1	3~			
インターンシップC(行政)	2	2~									
インターンシップD(NGO・NPO)	2	2~									

## 専門教育科目群 必修

1回生	+	2回生	+	3回生	+	4回生	=	必修 34単位
研究入門ゼミ I	2	1~	漢字古典研究 I	2	2~	書法 V	1	3~
研究入門ゼミ II	2	1~	漢字古典研究 II	2	2~	書法 VI	1	3~
書法 I	1	1~	かな古典研究 I	2	2~	書法 VII	1	3~
書法 II	1	1~	かな古典研究 II	2	2~	書法 VIII	1	3~
書法 III	1	1~	書法 IV	1	1~			
書法 IV	1	1~	言語文化総合演習 III	2	1~			
			言語文化総合演習 IV	2	1~			

## 専門教育科目群 選択必修

選択必修28単位以上										



<tbl\_r cells="

## 第11章 教育課程 (歴史学科)

## 1. 日本史コース

## (1) コースの特徴

『日本史』と一言でいっても、古代から近現代まで、また各時代毎の政治・経済・社会・文化などあらゆる分野での研究があります。もちろん、既に興味関心のある時代や分野がはっきりしている人も、そうでない人もいるでしょう。どちらの人も、まず、「日本史基礎ゼミ」を履修する中で、日本史研究についての基礎的な方法論を学ぶと同時に、高校とは異なる、大学での勉強の方法について、レポート作成や、研究成果の発表方法、そのために必要なレジュメや原稿の作成などについても、担当教員の指導の下で修得することを目指します。そうして身につけた基礎力に「古文書学」などで史料を歴史研究の素材として充分に活用できる能力や、「日本史特講」系科目で各時代の専門的知識を加え、3・4回生時の「日本史演習」での、また4回生時の「卒業研究」の基礎力を磨きましょう。「卒業研究」においては、それまでの学修の中で皆さんが培った情報収集・分析力や論理的思考力を最大限活かし、ひとつの《論文》としてまとめることが求められます。卒業後の進路としては、歴史学の知識を活かす仕事として、資格を取得し、博物館学芸員や中学校・高等学校での社会・地理歴史・公民の教員といった進路や、史料編纂スタッフ、出版関連の職業などがイメージとして強くあります。しかし一般企業でも、幅広い教養と、歴史学での研究理論を応用した、情報収集に基づいた正確な推理・判断能力を活かして活躍することを期待しています。

## 3. 履修条件

日本語日本文学コースでは、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、一部の科目に履修条件(履修制限)を設定しています。

(対象科目) 3回生配当科目「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」

(履修条件) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

## 4. 卒業研究

卒業論文、卒業研究および卒業制作は4年間の学修の集大成をなすものとして重視されています。

卒業論文、卒業研究または卒業制作を提出し、合格することが卒業するための必要条件となっています。なお、提出後には、口頭試問も行われます。

論文の表紙等は指定されているものがあります。ゼミの教員の指示に従ってください。

## 【受付期間および時間】

受付期間および時間については別途掲示をします。かならずそちらを確認してください。

本人以外の提出、郵送による提出は受け付けません。

提出時には、かならずコピーを1部とり、正本は学務各課へ提出し、コピーはゼミ担当教員へ提出してください。

様式や分量等については、学科ごとに次のように決められています。

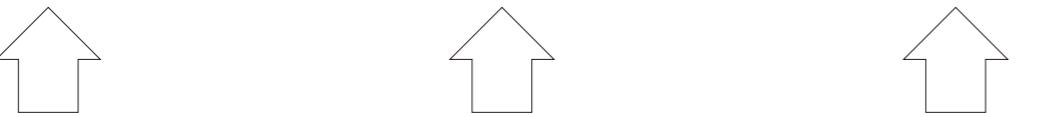
## 【日本語日本文学科】

12,000字程度とします。パソコンの使用を原則とします。その際の用紙・書式等の詳細については、各ゼミで適宜指導します。

書道コースの卒業制作は、提出期限を厳守して担当教員へ提出してください。

## (2) 各回生の到達目標

ディプロマ・ ポリシー(DP)	①歴史に関する知的好奇心を高め、学問を主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
	②多彩な学問分野の成果を吸収し、歴史研究に役立てる重要性を理解する能力を身につけている。
	③史料（資料）等を読むことを通して、ことば（文章）と文化について深く理解し、かつ、必要なデータを蒐集・整理し、理論的に思考する能力を身につけている。
	④総合的かつ探求的な学修を通じて、人類の作り上げてきた社会・経済・政治・文化に対する深い関心と理解力を身につけている。
	⑤学修ならびに研究の成果を明確に表現する能力を身につけている。



4回生	4回生の「日本史演習Ⅲ・Ⅳ」は卒業論文演習です。3・4回生時には学生は基本的に同一教員のゼミに所属し、研究能力の向上に努力するとともに、個人の研究関心に応じて卒業論文を完成させることを目指します。
3回生	3回生では、「日本史演習」と「日本史講読」が始まります。演習は2回生までの学習で蓄えた力を総合的に活用するとともに、4回生時の卒業研究に取り組むための十分な力を養成する科目として位置づけられています。また、各時代別の「日本史講読」の履修により、史料をより専門的に読み込む力を修得します。
2回生	2回生では、日本史研究についての基礎的な方法論を学ぶ「日本史基礎ゼミ」を履修します。このゼミは、自分の専攻したい時代を含む2時代のゼミを受講することになります。また、各時代にわたる専門的な講義である「日本史特講（日本女性史特講を含む）」が開講されますので、できるだけ広く複数の時代にわたって履修することで、日本史に関する幅広い知識を身につけていきます。同時に、史料を歴史研究の素材として十分に活用する能力を身につけるため「古文書学」を受講します。この段階で身につけた知識が専門的な研究に向かう第一歩といえます。また、論理的な思考の展開や、その伝達方法なども、より学術的に磨いていくことをを目指します。
1回生	1回生では、まず「研究入門ゼミ」を履修し、半期ずつ日本史・世界史の両分野の教員の指導の下で、大学での学びの基本となる、情報収集の方法、レポートのまとめかた、プレゼンテーションの基礎などを身につけます。

次ページからの表は、各学科・コース別に、専門教育科目の獲得目標を一覧化したものです。その後のページに続く、学科・コースのカリキュラム表と併せ、受講登録はもちろん、4年間でどのような学力を身につけ卒業に向かうのか、計画を立てる際に参考にしてください。
--

## (3) 歴史学科 日本史コース 専門教育科目群 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
必修科目	HI-Z101	研究入門ゼミ I	2	必修	演習	1回生	①②⑤⑦	①③④	28単位必修
	HI-Z102	研究入門ゼミ II	2	必修	演習	1回生	①②⑤⑦	①③④	
	HI-Z111	歴史学入門講義	2	必修	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-J203	日本史基礎ゼミ I	2	必修	演習	2回生	②⑥⑦	①②③	
	HI-J204	日本史基礎ゼミ II	2	必修	演習	2回生	②⑥⑦	①②③	
	HI-J305	日本史演習 I	2	必修	演習	3回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-J306	日本史演習 II	2	必修	演習	3回生	②⑥⑦	②④	
	HI-J315	日本史講読 I	2	必修	演習	3回生	②⑥⑦	③④⑤	
	HI-J316	日本史講読 II	2	必修	演習	3回生	②⑥⑦	③④⑤	
	HI-J407	日本史演習 III	2	必修	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-J408	日本史演習 IV	2	必修	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-J409	卒業研究	6	必修	演習	4回生	①②⑦	①③④⑤	
選択科目区分1	HI-Z121	日本史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	区分1から6単位以上選択必修
	HI-Z122	日本史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z121	東洋史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z122	東洋史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z121	西洋史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z122	西洋史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z121	考古学概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z122	考古学概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
選択科目区分2	HI-J233	古文書学 A I (古代・中世)	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	区分2から4単位以上選択必修
	HI-J234	古文書学 A II (古代・中世)	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	
	HI-J233	古文書学 B I (近世)	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	
	HI-J234	古文書学 B II (近世)	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	
選択科目区分3	HI-J243	出土文字資料論	2	選択	演習	2回生	①②⑦	②④	区分1から6単位以上、区分2から4単位以上、区分4から4単位以上を含み、区分3から22単位以上を修得し、加えて選択科目全体から42単位以上を選択必修
	HI-J245	古文書学 C (近世)	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	
	HI-J243	日本史特講 a (古代史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J244	日本史特講 b (古代史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J243	日本史特講 c (中世史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J244	日本史特講 d (中世史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J243	日本史特講 e (近世史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J244	日本史特講 f (近世史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J243	日本女性史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J244	日本女性史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J243	近現代史特講 a (日本)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J244	近現代史特講 b (日本)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W243	近現代史特講 c (世界)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W244	近現代史特講 d (世界)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-Z243	文化交流史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-Z244	文化交流史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-Z141	京都の歴史と文化遺産	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z241	20世紀の日本と世界	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
選択科目区分3	HI-Z241	歴史地理学	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	区分4から4単位以上を含み区分3から22単位以上を修得
	HI-S346	現代史研究 I	2	選択	演習	3回生	②⑥⑦	①⑤	
	HI-S447	現代史研究 II	2	選択	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-S346	女性史研究 I	2	選択	演習	3回生	②⑥⑦	①⑤	
	HI-S447	女性史研究 II	2	選択	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-S346	文化交流史研究 I	2	選択	演習	3回生	②⑥⑦	①⑤	
	HI-S447	文化交流史研究 II	2	選択	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
選択科目区分4	HI-W253	世界史特講 a (東アジア史 I)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	区分4から4単位以上を含み区分3から22単位以上を修得
	HI-W254	世界史特講 b (東アジア史 II)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W253	世界史特講 c (東アジア史 III)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W254	世界史特講 d (東アジア史 IV)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W253	世界史特講 e (中央・西アジア史 I)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W254	世界史特講 f (中央・西アジア史 II)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W253	世界史特講 g (中央・西アジア史 III)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W254	世界史特講 h (中央・西アジア史 IV)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W253	世界史特講 i (ヨーロッパ・アメリカ史 I)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W254	世界史特講 j (ヨーロッパ・アメリカ史 II)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W253	世界女性史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W254	世界女性史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
専門教育科目	HI-Z161	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥		区分1から6単位以上、区分2から4単位以上、区分4から4単位以上を含み、区分3から22単位以上を修得し、加えて選択科目全体から42単位以上を選択必修
	HI-Z161	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④		
	HI-Z161	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤		
	HI-Z261	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HI-Z161	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥		
	HI-Z161	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥		
	HI-Z261	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤		
	HI-Z161	地理学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥		
	HI-Z261	自然地理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HI-Z261	地誌	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HI-Z261	人文地理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HI-Z161	民俗学	2	選択	講義	1回生	②③⑤		
	HI-Z161	文化遺産学	2	選択	講義	1回生	②③⑤		
	HI-Z161	日本美術史 I	2	選択	講義	1回生	①④⑦		
	HI-Z161	日本美術史 II	2	選択	講義	1回生	①④⑦		
選択科目専門関連科目群	HI-Z161	東洋美術史	2	選択	講義	1回生	①②⑦		区分1から6単位以上、区分2から4単位以上、区分4から4単位以上を含み、区分3から22単位以上を修得し、加えて選択科目全体から42単位以上を選択必修
	HI-Z161	西洋美術史	2	選択	講義	1回生	③④⑥		
	HI-Z161	世界遺産論	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HI-Z161	文化財行政論	2	選択	講義	1回生	①②⑤		
	HI-Z261	考古学研究 I	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HI-Z361	考古学研究 II	2	選択	講義	3回生	①②④⑥		
	HI-Z261	文献史料学 I	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦		
	HI-Z261	文献史料学 II	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦		
	HI-Z261	美術工芸史研究 I	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	美術工芸史研究 II	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	建築遺産研究 I	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	建築遺産研究 II	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	歴史遺産研究 I	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑥		

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
	HI-Z261	歴史遺産研究 II	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑥		
	HI-Z361	古都学 I	2	選択	講義	3回生	①③④⑥		
	HI-Z361	古都学 II	2	選択	講義	3回生	①③④⑥		
	HI-Z361	地域文化論	2	選択	講義	3回生	①②⑥		
	HI-Z361	木簡・金石文学	2	選択	講義	3回生	①④⑥		
	HI-Z161	日本語学概説 I	2	選択	講義	1回生	①②⑥		
	HI-Z161	日本語学概説 II	2	選択	講義	1回生	①②⑥		
	HI-Z161	日本文学史 I	2	選択	講義	1回生	①②③		
	HI-Z161	日本文学史 II	2	選択	講義	1回生	①②③		
	HI-Z261	日本語学講義 I (日本語文法)	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	日本語学講義 II (日本語文法)	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	日本語学講義 III (社会言語学)	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	日本語学講義 IV (日本語史)	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	古典文学講義 I (平安)	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	古典文学講義 II (平安)	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	古典文学講義 III (中世)	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	古典文学講義 IV (中世)	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	近現代文学講義 I	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	近現代文学講義 II	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	近現代文学講義 III	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	近現代文学講義 IV	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z161	漢文学 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HI-Z161	漢文学 II	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HI-Z161	京都産業文化論 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HI-Z261	京都観光論	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HI-Z261	京都産業文化論 II	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HI-Z361	京都総合演習	2	選択	演習	3回生	②④⑤⑥⑦		

区分1から6単位以上、区分2から4単位以上、区分4から4単位以上を含み、区分3から22単位以上を修得し、加えて選択科目全体から42単位以上を選択必修

※許可者のみ

全学共通の到達目標	①	市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得

# 文学部 歴史学科 日本史コース カリキュラム表

## 基礎教育科目群

アカデミックライティング	単位	回生	英語 II A	単位	回生	英語 IV A	単位	回生	英語 IV B
教養ゼミ	2	1~	英語 II B	1	1~	英語 IV B	1	2~	
英語 I A	1	1~	英語 III A	1	2~	情報処理演習 I	1	1~	
英語 I B	1	1~	英語 III B	1	2~	情報処理演習 II	1	1~	

必修14単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 必修

教養入門	単位	回生	2	1~	+	地域課題研究	単位	回生	1	1~	+	キャリアデザイン入門	単位	回生	2	2~	=	必修				
キャリアゼミ I	単位	回生	1	1~	+	キャリアゼミ II	単位	回生	1	2~	+	キャリアゼミ III	単位	回生	1	2~	+	キャリアゼミ IV	単位	回生	1	3~

必修 9 単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 選択必修

選択必修32単位以上									
<b>人間と知の伝達(領域)</b>									
●現代の思想(分野)									
日本人と宗教	単位	回生	2	1~					
ジェンダー研究	2	1~							
心理学概論	2	2~							
●メディアと情報(分野)									
言語コミュニケーション論	2	1~							
キャリアコミュニケーション I	2	2~							
キャリアコミュニケーション II	2	2~							
現代のメディアと表現	2	1~							
情報社会論	2	1~							
情報処理演習 III	1	2~							
情報処理演習 IV	1	2~							
情報処理演習 V	1	2~							
情報処理演習 VI	1	2~							
数学演習 I	2	1~							
数学演習 II	2	1~							
●歴史・文化(分野)									
京都講座 I	2	1~							
京都講座 II	2	1~							
京都の歴史・文化 I	2	1~							
京都の歴史・文化 II	2	1~							
文学と京都	2	1~							
上記領域より4単位以上									
上記領域より4単位以上									
上記領域より4単位以上									
上記領域より4単位以上									
<b>人間と文化(領域)</b>									
●外国語と文化理解(分野)									
比較文化論	2	1~							
歴文化コミュニケーション論(人文)	2	1~							
文化人類学	2	1~							
芸術と文化	2	1~							
中国語 I	2	1~							
中国語 II	2	1~							
中国語 III	2	1~							
中国語 IV	2	1~							
韓国語 I	2	1~							
韓国語 II	2	1~							
韓国語 III	2	1~							
韓国語 IV	2	1~							
●法律・行政・政治(分野)									
日本国憲法	2	1~							
法学概論 II	2	1~							
民法	2	2~							
行政法	2	2~							
人権と教育	2	2~							
政治学概論 II	2	1~							
国際関係入門	2	2~							
行政学	2	2~							
●経済・経営・社会(分野)									
くらしと経済	2	1~							
経済学概論 II	2	2~							
経済学概論 III	2	1~							
経済学概論 IV	2	1~							
フランス語 I	2	1~							
フランス語 II	2	1~							
フランス語 III	2	1~							
フランス語 IV	2	1~							
●健康・こころ・からだ(分野)									
健康に生きる I	2	1~							
健康に生きる II	2	1~							
健康に生きる III	2	1~							
体育理論	2	1~							
スポーツコース I	1	1~							
スポーツコース II	1	1~							
スポーツコース III	1	1~							
スポーツコース IV	1	1~							
●自然と環境(分野)									
地球生命論	2	1~							
地球環境論	2	1~							
エコロジー研究	2	1~							
自然の探求	2	1~							
生活の中の数学	2	1~							
物理学基礎	2	1~							
化学基礎	2	1~							
生物学基礎	2	1~							
22単位以上									

単位	回生	日本語教授法 I	単位	回生	日本語教授法 II	単位	回生	日本語教授法 III	単位	回生	日本語教授法 IV
2	2~		2	2~		2	2~		2	2~	
2	2~		2	2~		2	2~		2	2~	
2	3~		2	2~		2	3~		2	3~	
2	2~		2	2~		2	2~		2	2~	
2	2~		2	2~		2	2~		2	2~	
2	2~		2	2~		2	2~		2	2~	
2	2~		2	2~		2	2~		2	2~	
2	2~	</td									

## 2. 世界史コース

### (1) コースの特徴

『世界史』となると、『日本史』でも述べたように、古代から近現代、また時代毎の政治・経済・社会・生活・文化などあらゆる分野に加えて、どの地域を研究対象とするか、という選択も必要となります。他のコースと同様に「世界史基礎ゼミ」で、世界史研究の基礎的な方法論を学ぶと同時に、レポート作成や、研究成果の発表方法、そのため必要なレジュメや原稿の作成などについても、担当教員の指導の下で修得していきます。また、専門的に世界史を学ぶためには、外国語文献の読解力が不可欠となります。

【世界史コース】では、「外書研究」科目を多数開講していますので、その履修を通して外国語の文献を正確に読む力を身につけます。ですので、皆さんのが興味があり、研究対象の候補として考えている地域の言語を、教養科目の中から選択し、積極的に語学力を磨くことも求められます。そして、3・4回生で履修する「世界史演習」では、それまでに身につけてきた研究のための基礎的素養を応用し、論理的思考や情報収集・分析といった能力を高め、「卒業研究」にその成果を集約します。

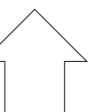
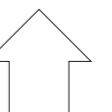
卒業後の進路としては、歴史学の知識を活かす仕事として、資格を取得し、博物館学芸員や中学校・高等学校での社会・地理歴史・公民の教員といった進路や、史料編纂スタッフ、出版関連の職業などがイメージとして強くあります。しかし、一般企業でも、幅広い教養と、歴史学での研究理論を応用した、情報収集に基づいた正確な推理・判断能力を活かして活躍することを期待しています。

### (2) 各回生の到達目標

ディプロマ・ ポリシー(DP)	①歴史に関する知的好奇心を高め、学問を主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 ②多彩な学問分野の成果を吸収し、歴史研究に役立てる重要性を理解する能力を身につけている。 ③史料(資料)等を読むことを通して、ことば(文章)と文化について深く理解し、かつ、必要なデータを蒐集・整理し、理論的に思考する能力を身につけている。 ④総合的かつ探求的な学修を通じて、人類の作り上げてきた社会・経済・政治・文化に対する深い関心と理解力を身につけている。 ⑤学修ならびに研究の成果を明確に表現する能力を身につけている。
--------------------	--

4回生	4回生の「演習Ⅲ・Ⅳ」は卒業論文演習です(3・4回生時には学生は基本的に同一教員のゼミに所属します)。これにより4年間の修学の集大成となる卒業論文に取り組むことになります。
3回生	3回生では、「世界史演習」と「世界史講読」が始まります。学生は、原則的に各分野の研究を深めるために各自の関心に沿った分野の「演習(ゼミ)」に所属することになります。「演習」は討論形式で進めるのを原則としますので、自身の意見をはっきりと持つ一方で、考えたことを他人に伝える能力や、様々な視点からの疑問や指摘に対して的確な議論を重ねることでコミュニケーション能力の上達も期待されています。また、「講読」の履修により、文献史料を読み込む力および高いレベルの専門的研究論文を理解する力を修得します。
2回生	2回生では、各自が専攻を希望する分野に近い「世界史基礎ゼミ」(ヨーロッパ・アメリカ、西・中央アジア、東アジアについてバランスよく履修)を履修し、世界史研究の基礎的な方法論を学びます。また、歴史学に関する外国語文献を正確に読む力を養うため、各分野の「外書研究」を受講します。「世界史特講(世界女性史特講を含む)」は世界の各地域・時代にわたる専門的な講義ですので、興味関心の深い科目だけでなく、様々な科目を履修し、幅広い世界史に対する知識を身につけることが望されます。この中で、卒業研究のテーマの方向性を探すのもよいでしょう。
1回生	1回生では、まず「研究入門ゼミ」を履修し、半期ずつ日本史・世界史の両分野の教員の指導の下で、大学での学びの基本となる、情報収集の方法、レポートのまとめ方、プレゼンテーションの基礎などを身につけます。

次ページからの表は、各学科・コース別に、専門教育科目の獲得目標を一覧化したものです。その後のページに続く、学科・コースのカリキュラム表と併せ、受講登録はもちろん、4年間でどのような学力を身につけ卒業に向かうのか、計画を立てる際に参考にしてください。



## (3) 歴史学科 世界史コース 専門教育科目群 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
必修科目	HI-Z101	研究入門ゼミ I	2	必修	演習	1回生	①②⑤⑦	①③④	28単位必修
	HI-Z102	研究入門ゼミ II	2	必修	演習	1回生	①②⑤⑦	①③④	
	HI-Z111	歴史学入門講義	2	必修	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-W203	世界史基礎ゼミ I	2	必修	演習	2回生	②⑥⑦	①②③	
	HI-W204	世界史基礎ゼミ II	2	必修	演習	2回生	②⑥⑦	①②③	
	HI-W305	世界史演習 I	2	必修	演習	3回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-W306	世界史演習 II	2	必修	演習	3回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-W315	世界史講読 I	2	必修	演習	3回生	②⑥⑦	③④⑤	
	HI-W316	世界史講読 II	2	必修	演習	3回生	②⑥⑦	③④⑤	
	HI-W407	世界史演習 III	2	必修	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-W408	世界史演習 IV	2	必修	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-W409	卒業研究	6	必修	演習	4回生	①②⑦	①③④⑤	
選択科目区分1	HI-Z121	日本史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	区分1から6単位以上選択必修
	HI-Z122	日本史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z121	東洋史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z122	東洋史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z121	西洋史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z122	西洋史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z121	考古学概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
	HI-Z122	考古学概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	
選択科目区分2	HI-W233	外書研究 a	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	区分2から4単位以上選択必修
	HI-W234	外書研究 b	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	
	HI-W233	外書研究 c	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	
	HI-W234	外書研究 d	2	選択	演習	2回生	①②⑦	③	
選択科目区分3	HI-W243	世界史特講 a (東アジア史 I)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	区分4から4単位以上を含み区分3から22単位以上を修得し、加えて選択科目全体から42単位以上を選択必修
	HI-W244	世界史特講 b (東アジア史 II)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W243	世界史特講 c (東アジア史 III)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W244	世界史特講 d (東アジア史 IV)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W243	世界史特講 e (中央・西アジア史 I)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W244	世界史特講 f (中央・西アジア史 II)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W243	世界史特講 g (中央・西アジア史 III)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W244	世界史特講 h (中央・西アジア史 IV)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W243	世界史特講 i (ヨーロッパ・アメリカ史 I)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W244	世界史特講 j (ヨーロッパ・アメリカ史 II)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W243	世界女性史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W244	世界女性史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J243	近現代史特講 a (日本)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J244	近現代史特講 b (日本)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W243	近現代史特講 c (世界)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-W244	近現代史特講 d (世界)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-Z243	文化交流史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-Z244	文化交流史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
選択科目区分3	HI-Z141	京都の歴史と文化遺産	2	選択	講義	1回生	①②④	①②④	区分4から4単位以上を含み区分3から22単位以上を修得
	HI-Z241	20世紀の日本と世界	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-Z241	歴史地理学	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-S346	現代史研究 I	2	選択	演習	3回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-S447	現代史研究 II	2	選択	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-S446	女性史研究 I	2	選択	演習	3回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-S447	女性史研究 II	2	選択	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-S346	文化交流史研究 I	2	選択	演習	3回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-S447	文化交流史研究 II	2	選択	演習	4回生	②⑥⑦	①④⑤	
	HI-J253	日本史特講 a (古代史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J254	日本史特講 b (古代史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J253	日本史特講 c (中世史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
選択科目区分4	HI-J254	日本史特講 d (中世史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	区分4から4単位以上を含み区分3から22単位以上を修得
	HI-J253	日本史特講 e (近世史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J254	日本史特講 f (近世史)	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J253	日本女性史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-J254	日本女性史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④	①②④	
	HI-Z161	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥		
	HI-Z161	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④		
	HI-Z161	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤		
専門教育科目群	HI-Z261	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④		区分1から6単位以上、区分2から4単位以上、区分4から4単位以上を含み、区分3から22単位以上を修得し、加えて選択科目全体から42単位以上を選択必修
	HI-Z161	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥		
	HI-Z161	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥		
	HI-Z261	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤		
	HI-Z161	地理学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥		
	HI-Z261	自然地理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HI-Z261	地誌	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HI-Z261	人文地理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HI-Z161	民俗学	2	選択	講義	1回生	②③⑤		
	HI-Z161	文化遺産学</td							

科目区分	科目NO	授業科目的名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
専門教育科目群 選択科目	HI-Z261	建築遺産研究 I	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	建築遺産研究 II	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	歴史遺産研究 I	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑥		
	HI-Z261	歴史遺産研究 II	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑥		
	HI-Z361	古都学 I	2	選択	講義	3回生	①③④⑥		
	HI-Z361	古都学 II	2	選択	講義	3回生	①③④⑥		
	HI-Z361	地域文化論	2	選択	講義	3回生	①②⑥		
	HI-Z361	木簡・金石文学	2	選択	講義	3回生	①④⑥		
	HI-Z161	日本語学概説 I	2	選択	講義	1回生	①②⑥		
	HI-Z161	日本語学概説 II	2	選択	講義	1回生	①②⑥		
	HI-Z161	日本文学史 I	2	選択	講義	1回生	①②③		
	HI-Z161	日本文学史 II	2	選択	講義	1回生	①②③		
	HI-Z261	日本語学講義 I (日本語文法)	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	日本語学講義 II (日本語文法)	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	日本語学講義 III (社会言語学)	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	日本語学講義 IV (日本語史)	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	HI-Z261	古典文学講義 I (平安)	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	古典文学講義 II (平安)	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	古典文学講義 III (中世)	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	古典文学講義 IV (中世)	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	近現代文学講義 I	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	近現代文学講義 II	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	近現代文学講義 III	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z261	近現代文学講義 IV	2	選択	講義	2回生	①②③		
	HI-Z161	漢文学 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HI-Z161	漢文学 II	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HI-Z161	京都産業文化論 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HI-Z261	京都観光論	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HI-Z261	京都産業文化論 II	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HI-Z361	京都総合演習	2	選択	演習	3回生	②④⑤⑥⑦	※許可者のみ	

全学共通の到達目標	①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
	②知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
	③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
	④異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
	⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
	⑥物事を論理的に分析する能力の獲得
	⑦読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得
学科・コース別のディプロマ・ポリシー	①歴史に関する知的好奇心を高め、学問を主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
	②多彩な学問分野の成果を吸収し、歴史研究に役立てる重要性を理解する能力を身につけている。
	③史料（資料）等を読むことを通して、ことば（文章）と文化について深く理解し、かつ、必要なデータを蒐集・整理し、理論的に思考する能力を身につけている。
	④総合的かつ探求的な学修を通じて、人類の作り上げてきた社会・経済・政治・文化に対する深い関心と理解力を身につけている。
	⑤学修ならびに研究の成果を明確に表現する能力を身につけている。

#### ◆「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。  
ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

〈科目ナンバーの見方〉									
〔例〕 HI - ○ 1 1 1									
①学科	HI	-	○	1	1	1			

②コース	Z : 学科共通	J : 日本史	W : 世界史	S : 特別専攻
③回生	1 : 1回生	2 : 2回生	3 : 3回生	4 : 4回生
④選必の別	0 : 必修（ゼミ）	1 : 必修（歴史学入門講義・講読）	2 : 選択必修（区分1）	3 : 選択必修（区分2）
	4 : 選択必修（区分3）	5 : 選択必修（区分4）	6 : 選択必修（その他）	同系科目中の履修順序（指定なしは0）
⑤履修順序				

区分1から6単位以上、区分2から4単位以上、区分4から4単位以上を含み、区分3から22単位以上を修得し、加えて選択科目全体から42単位以上を選択必修

# 文学部 歴史学科 世界史コース カリキュラム表

## 基礎教育科目群

アカデミックライティング	単位 2	回生 1~	英語 II A	単位 1	回生 1~	英語 IV A	単位 1	回生 2~
教養ゼミ	2	1~	英語 II B	1	1~	英語 IV B	1	2~
英語 IA	1	1~	英語 III A	1	2~	情報処理演習 I	1	1~
英語 IB	1	1~	英語 III B	1	2~	情報処理演習 II	1	1~

必修14単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 必修

教養入門	単位 2	回生 1~	+	地域課題研究	単位 1	回生 1~	+	キャリアデザイン入門	単位 2	回生 2~	= 必修		
キャリアゼミ I	1	1~	+	キャリアゼミ II	1	2~	+	キャリアゼミ III	1	2~	+ キャリアゼミ IV	1	3~

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 選択必修

選択必修32単位以上											
人間と知の伝達(領域)				人間と文化(領域)				人間と社会(領域)			
●現代の思想(分野)				●外国語と文化理解(分野)				●法律・行政・政治(分野)			
日本人と宗教	単位 2	回生 1~	比較文化論	単位 2	回生 1~	日本国憲法	単位 2	回生 1~	健康に生きる I	単位 2	回生 1~
ジェンダー研究	2	1~	文化コミュニケーション論(人文)	2	1~	法学概論 II	2	1~	健康に生きる II	2	1~
心理学概論	2	2~	文化人類学	2	1~	民法	2	2~	健康に生きる III	2	1~
●メディアと情報(分野)	単位	回生	芸術と文化	2	1~	行政法	2	2~	体育理論	2	1~
言語コミュニケーション論	2	1~	中国語 I	2	1~	人権と教育	2	2~	スポーツコース I	1	1~
キャリアコミュニケーション I	2	2~	中国語 II	2	1~	政治学概論 II	2	1~	スポーツコース II	1	1~
キャリアコミュニケーション II	2	2~	中国語 III	2	1~	国際関係入門	2	2~	スポーツコース III	1	1~
現代のメディアと表現	2	1~	中国語 IV	2	1~	行政学	2	2~	スポーツコース IV	1	1~
情報社会論	2	1~	韓国語 I	2	1~	●経済・経営・社会(分野)	22単位以上				
情報処理演習 III	1	2~	韓国語 II	2	1~	くらしと経済	2	1~	地球生命論	2	1~
情報処理演習 IV	1	2~	韓国語 III	2	1~	経済学概論 II	2	2~	地球環境論	2	1~
情報処理演習 V	1	2~	韓国語 IV	2	1~	経営学概論	2	1~	工コロジー研究	2	1~
情報処理演習 VI	1	2~	フランス語 I	2	1~	会計学概論	2	1~	自然の探求	2	1~
数学演習 I	2	1~	フランス語 II	2	1~	福祉とボランティア	2	1~	生活の中の数学	2	1~
数学演習 II	2	1~	ドイツ語 I	2	1~	社会学概論 II	2	1~	物理学基礎	2	1~
			外国語臨地演習	2	1~	時事問題研究	2	1~	化学基礎	2	1~
			●歴史・文化(分野)	22単位以上					生物学基礎	2	1~
			京都講座 I	2	1~						
			京都講座 II	2	1~						
			京都の歴史・文化 I	2	1~						
			京都の歴史・文化 II	2	1~						
			文学と京都	2	1~						

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

キャリア開発講座 I	単位 2	回生 1~	よそおいの心理学	2	2~	教育方法論	2	2~	日本語教授法 I	2	2~
キャリア開発講座 II	2	1~	産業心理学	2	2~	生徒・進路指導	2	3~	日本語教授法 II	2	2~
キャリア開発講座 III	2	2~	広告と消費の心理学	2	3~	教育相談	2	2~	日本語教授法 III	2	3~
キャリア開発講座 IV	2	2~	教職・保育職教養講義 I	2	3~	教職・実践演習(中等)	2	4	日本語教授法 IV	2	3~
キャリア開発演習 I	2	2~	教職・保育職教養講義 II	2	3~	生涯学習概論 I	2	1~	日本語教材研究	2	4
キャリア開発演習 II	2	2~	教職・保育職教養講義 III	2	4	図書館概論	2	1~	日本語教育実習	2	4
キャリア開発演習 III	2	2~	教職・保育職教養講義 IV	2	4	図書館制度・経営論	2	2~	社会調査論	2	2~
キャリア開発演習 IV	2	2~	教職入門	2	1~	図書館情報資源概論	2	2~	統計学基礎論	2	2~
キャリア開発研究 I	2	3~	教育心理学	2	1~	博物館学概論	2	1~			
キャリア開発研究 II	2	3~	教育原論	2	1~	博物館学経営論	2	2~			
キャリア開発研究 III	2	3~	教育制度論	2	2~	博物館資料論	2	2~			
キャリア開発研究 IV	2	3~	教育課程論	2	2~	博物館資料保存論	2	2~			
キャリア開発研究 V	2	3~	道徳教育の理論と方法	2	2~	博物館展示論	2	2~			
キャリア開発研究 VI	2	3~	特別活動論	2	2~	博物館教育論	2	1~			
インターンシップA(ビジネス)	2	1~				博物館実習 I	1	3~			
インターンシップB(図書館司書)	2	2~				博物館実習 II	1	3~			
インターンシップC(行政)	2	2~									
インターンシップD(NGO・NPO)	2	2~									

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

上記領域より4単位以上

## 専門教育科目群 必修

1回生	+	2回生	+	3回生	+	4回生	= 必修	
研究入門ゼミ I	単位 2	回生 1~	世界史基礎ゼミ I	2	2~	世界史演習 I	2	3~
研究入門ゼミ II	2	1~	世界史基礎ゼミ II	2	2~	世界史演習 II	2	3~
歴史学入門講義	2	1~	世界史基礎ゼミ III	2	2~	世界史講読 I	2	3~
			世界史基礎ゼミ IV	2	2~	世界史講読 II	2	3~
						卒業研究	6	4

28単位

## 専門教育科目群 選択必修

〔区分1〕	〔区分2〕	〔区分3〕	〔区分4〕	選択必修42単位以上	
日本史概説 I	単位 2	回生 1~	世界史特講 a (東アジア史 I)	2	2~
日本史概説 II	2	1~	世界史特講 b (東アジア史 II)	2	2~
東洋史概説 I	2	1~	世界史特講 c (東アジア史 III)	2	2~
東洋史概説 II	2	1~	世界史特講 d (東アジア史 IV)	2	2~
西洋史概説 I	2	1~	世界史特講 e (中央・西アジア史 I)	2	2~
西洋史概説 II	2	1~	世界史特講 f (中央・西アジア史 II)	2	2~
考古学概説 I	2	1~	世界史特講 g (中央・西アジア史 III)	2	2~
考古学概説 II	2				

### 3. 履修条件

本学では、系統的で継続性のある効果的な学習を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

（対象科目）3回生配当科目 「日本史演習Ⅰ・Ⅱ」（日本史コース）、  
「世界史演習Ⅰ・Ⅱ」（世界史コース）、  
特別専攻「現代史研究」「女性史研究」「文化交流史研究」

（履修条件）次の①と②の条件を両方満たしていること。

- ①必修科目（「研究入門ゼミⅠ・Ⅱ」、「日本史基礎ゼミⅠ・Ⅱ」と「世界史基礎ゼミⅠ・Ⅱ」のいずれか、「歴史学入門講義」全10単位のうち6単位を修得済みであること（加えて「研究入門ゼミⅠ」または「研究入門ゼミⅡ」のいずれか1科目2単位を修得済みであること）。
- ②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

### 4. 卒業研究

卒業論文、卒業研究および卒業制作は4年間の学修の集大成をなすものとして重視されています。

卒業論文、卒業研究または卒業制作を提出し、合格することが卒業するための必要条件となっています。なお、提出後には、口頭試問も行われます。

論文の表紙等は指定されているものがあります。ゼミの教員の指示に従ってください。

#### 【受付期間および時間】

受付期間および時間については別途掲示をします。必ずそちらを確認してください。

本人以外の提出、郵送による提出は受け付けません。

提出時には、必ずコピーを1部とり、正本は学務各課へ提出し、コピーはゼミ担当教員へ提出してください。

様式や分量等については、学科ごとに次のように決められています。

#### 【歴史学科】

20,000字程度とします。パソコンの使用を原則とします。その際の用紙・字数等の詳細については、各ゼミで適宜指導します。

### 5. 特別専攻（オプショナル・コース）

#### （1）コースの特徴

##### 【現代史特別専攻の特徴】

21世紀グローバリゼーションがますます進展する中で、特に複雑化する現代の日本と世界に関する知識を修得することの重要性が高まっています。現代史特別専攻ではそうしたニーズに応えるため、日本史／世界史コースでの学修にさらに上乗せした日本と世界の現代史に関する学びを提供します。「現代史研究Ⅰ・Ⅱ」や「20世紀の日本と世界」、「近現代史特講（日本／世界）」、「日本史／世界史講読」の現代史向けクラスなどを受講して、現代史についてのより深い知識の修得をめざしてください。

##### 【女性史特別専攻の特徴】

日本及び世界の歴史において女性は重要な役割を演じています。京都橘大学の歴史学科や女性歴史文化研究所は、こうした歴史上の女性の活躍を研究する日本の女性史研究においてパイオニア的役割を果たしてきました。そうした蓄積の上に立って、この女性史特別専攻では、日本史／世界史コースでの学びにさらに加えて、歴史上の女性に関するより深い知識を得ることをめざしています。「女性史研究Ⅰ・Ⅱ」、「日本／世界女性史特講」、「日本史／世界史講読」の女性史向けクラスなどを受講して、女性史をより深く学んでください。

##### 【文化交流史特別専攻の特徴】

人類の歴史において異なる文化間の交流は、社会や文化のみならず政治や経済にも大きな影響を及ぼしてきました。日本史／世界史をより深くそして広く理解するためには、こうした文化交流の歴史を学習することが重要です。文化交流史特別専攻では、「文化交流史研究Ⅰ・Ⅱ」や「文化交流史特講Ⅰ・Ⅱ」、「日本史／世界史講読」の文化交流史向けクラスなどを受講することを通じて、文化交流の歴史に関する知識を広げていってください。

#### （2）各回生の到達目標

<b>4回生</b>	卒業論文演習である「演習Ⅲ・Ⅳ」に加えて、各特別専攻（オプショナルコース）の「研究Ⅱ」を履修し、4回生時には学生は基本的に3回生時と同一教員のゼミに所属し、研究能力の向上に努力するとともに、個人の研究関心に応じて卒業論文を完成させることを目指します。
<b>3回生</b>	各コースの「演習」と「講読」が始まるのに加えて、各特別専攻（オプショナル・コース）の「研究Ⅰ」が始まります。「現代史特別専攻」ではグローバル化していく20世紀以降の日本と世界への理解を深めます。また、「女性史特別専攻」では、過去の女性を主役にして歴史への理解を深めます。そして、「文化交流史特別専攻」では、東から西までユーラシア大陸を舞台とした異文化交流の歴史を考察します。

## 第12章 教育課程（歴史遺産学科）

### （1）コースの特徴

#### 【考古学コース】

人類が残した活動の痕跡から過去を考えるのが考古学である。このコースでは遺跡に残った建物などの遺構、土器・石器・木器などの遺物を主な対象とする。これらは地球上全体に残っていることから、文字資料だけでは知ることができない過去を語ることができる。そのためにまずは客観的な調査記録を作成し、報告書を発行し、将来の人々に残す保存処置を講ずることになる。考古学は様々なものを取りあつかうことから発掘調査や出土遺物の整理のための技術は日々進歩する。今ある学説も新しい知見で判断環境が変わり、仮説が修正される。そのつどの新しい観察や分析方法をとりいれ、過去を再構築して研究していく。総合的な性格を持つことからいろいろな分野とのチームワークも必要とされる。このようなことを下地に、総合的な学問体験を通して、連携、分析、解釈、洞察力を養う。

#### 【美術工芸史コース】

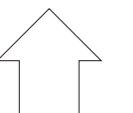
美術工芸史コースは、時代や地域をこえて、人間の生活と精神の営みによってつくり出されてきた絵画・彫刻・工芸などの美術工芸品や、古文書・典籍および民俗伝承資料などの歴史資料を研究対象とする。美術工芸品に対しては、緻密な観察に基づいてその特徴や制作技法・制作背景を分析することが必要であり、歴史資料に対しては、資料を読み解くことで当時の人々の暮らしや社会のあり方を明らかにしていくことが求められる。そのため、作品や資料の扱いに習熟し、整理・分析・読み解き・記述の方法を体得する実習を重視し、博物館・美術館・寺院などでの豊富な学外授業を通して実際の作品・資料に触れ、現物に即した調査・研究を行っていく。それらの学びを通じて、専門家としての知見を備えるとともに、社会人に求められる的確な分析力、論理的な思考力を身につける。

#### 【歴史遺産コース】

建造物、都市・近代化遺産、文化的景観、記念物、史跡について、その歴史的な価値を分析・評価し、現在における活用法、未来への保存方法を学んでいく。そのための基本的な学びとして、文化遺産情報を管理するための実習を基礎的な科目として位置づける。すなわち、現地保存される文化資産（資源）を訪れて調査し、集めた情報を整理・管理する方法を修得した上で、対象を体系たてる歴史遺産への枠組へと高め、さらに社会で活用するために加工する方策を創出、検討していく。以上のような教育実践を通じて、歴史遺産に対する理解と洞察力を修得し、多様な情報が氾濫する現代社会で広く深い文化的思慮をもって価値判断あるいは企画立案できる人材を育成する。

### （2）各回生の到達目標

ディプロマ・ ポリシー(DP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①文化遺産を活用できる能力を持つことで社会での文化創造に寄与しようとする意欲を身につけている。</li> <li>②文化遺産の調査・記録方法、そのプレゼンテーション能力を身につけている。</li> <li>③文化遺産の取扱や保存管理の知識をもち、研究に高めるための技術と方法を身につけている。</li> <li>④課題を設定し、資料を集め、観察、分析、考察を行う手順を修得する能力を身につけている。</li> <li>⑤現代社会に関する基本的な認識と対応能力を身につけている。</li> </ul>
--------------------	--



4回生

全コース共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題を設定し、資料を集め、観察、分析、考察を行う手順を修得する。</li> <li>②歴史遺産学について自らの考えを持つことが出来るようになる。</li> <li>③歴史遺産学の学修を通して得た学びの成果を、実践で応用できるようになる。</li> </ul>
考古学コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>④専門研究を深化させ、自己の意見を表現できる力を付ける。研究の方法論を自ら見つけ、理論的に分析・検討することを通じて、着実な卒業研究に結びつける。</li> </ul>
美術工芸史コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>④研究史をふまえて学説の分析やその批判を行い、自分の研究テーマへと再構築する。そのことからを人と議論して、さらに検討することができる力を身につける。美術工芸史の歴史的展開や文書史料の歴史的背景を把握するとともに、個別研究の論点と課題を発見する。</li> </ul>
歴史遺産コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>④専門研究を深化させ、自己の意見を表現できる力を付ける。研究の方法論を自ら見つけ、理論的に分析・検討することを通じて、着実な卒業研究に結びつける。</li> </ul>

3回生

全コース共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小地域から東アジア、世界における地域文化について、より踏み込んだ専門研究の内容を理解する。</li> <li>②探求心を持ち、調査に必要な技術を応用・実践した内容を分析し、まとめる力を付ける。</li> </ul>
考古学コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>③学説の分析やその批判、先学を含めてそれらを自分の研究テーマへと再構築する。そのことからを人と議論して、さらに検討することができる力を身につける。収集・分類したモノの内容を分析し、論理的展開を考える。</li> </ul>
美術工芸史コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>③研究史をふまえて学説の分析やその批判を行い、自分の研究テーマへと再構築する。そのことからを人と議論して、さらに検討することができる力を身につける。美術工芸史の歴史的展開や文書史料の歴史的背景を把握するとともに、個別研究の論点と課題を発見する。</li> </ul>
歴史遺産コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>③学説の分析やその批判、先学を含めてそれらを自分の研究テーマへと再構築する。そのことからを人と議論して、さらに検討することができる力を身につける。調査、記録した情報を分類・整理し、分析する。</li> </ul>

2回生

全コース共通

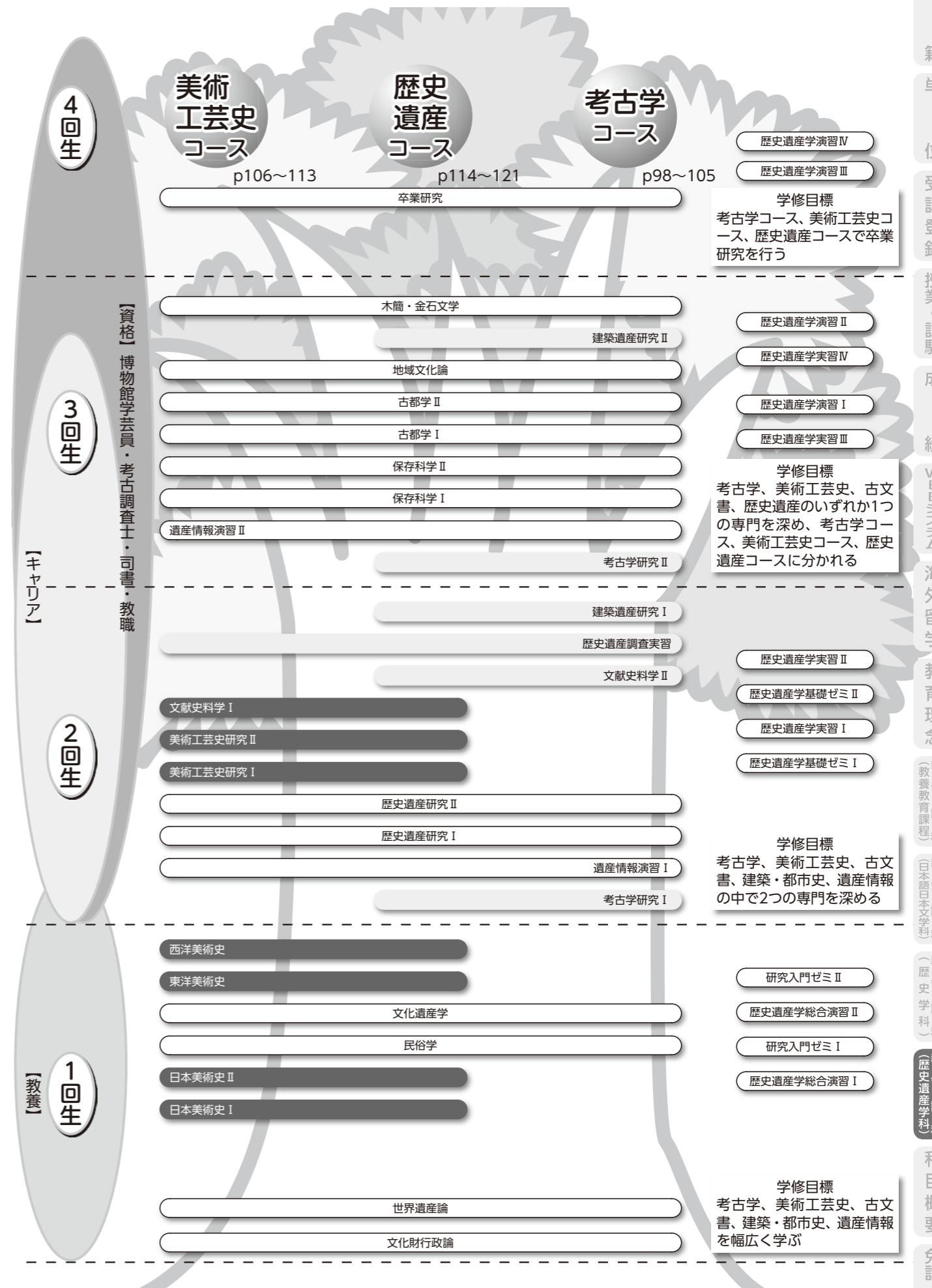
- ①まず身近にある考古資料、絵画、彫刻、工芸、歴史資料などの動産遺産や、建造物、近代化遺産、都市・文化的景観、史跡、埋蔵文化財といった不動産遺産についての専門研究に必要な技術や方法論を学ぶ。考古学や建築・都市史関係はモノを比較し、調査記録を作成する能力を養い、収集したものを分類、説明できるようにする。美術工芸史関係は美術工芸作品や文書史料についての調査・資料収集の方法を学び、作品や史料から情報を獲得した上で、それらを分析する力を持つ。
- ②実際の調査や実習を通じ、取扱い方法や保存管理技術や知識を体得する。
- ③文献史料の読み解力、そしてその思想や社会のしくみを見通す能力を高める。
- 自主的に調査した内容を分析し、まとめる力を持つ。

1回生

全コース共通

- ①文化遺産に接する姿勢をまず身につけ、それらに関する基礎的知識を身につける。
- ②考古資料、絵画、彫刻、工芸、歴史資料などのモノを中心とした動産遺産と、建造物、近代化遺産、都市・文化的景観、史跡、埋蔵文化財といった土地に定着した不動産遺産など、専門領域の基礎的知識を幅広く身につける。考古学や建築・都市史関係は現地を訪れ、現物に接することで、対象物に興味をもってその過去・現在を時間的に比較する。美術工芸史関係は美術工芸作品や文書史料などを実見することで、その美的価値や歴史的意味を深く考える。
- ③調べたことを発表する、報告する、文章にするといったプレゼンテーション能力を身につける。
- ④各領域にわたるモノやフィールドごとの観察や鑑賞、調査の仕方、研究史を学び、研究方法の違いも知る。

次ページからの表は、各学科・コース別に、専門教育科目の獲得目標を一覧化したものです。その後のページに続く、学科・コースのカリキュラム表と併せ、受講登録はもちろん、4年間でどのような学力を身につけ卒業に向かうのか、計画を立てる際に参考にしてください。



## (3) 歴史遺産学科 専門教育科目群 カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
必修科目	HE-Z101	研究入門ゼミ I	2	必修	演習	1回生	①②⑤⑦	①②	30単位必修
	HE-Z103	研究入門ゼミ II	2	必修	演習	1回生	①②⑤⑦	①②	
	HE-Z102	歴史遺産総合演習 I	2	必修	演習	1回生	①②④	①②	
	HE-Z104	歴史遺産総合演習 II	2	必修	演習	1回生	①②⑦	①②	
	HE-Z201	歴史遺産学基礎ゼミ I	2	必修	演習	2回生	①②④⑥⑦	②③④	
	HE-Z202	歴史遺産学基礎ゼミ II	2	必修	演習	2回生	②⑤⑦	②③④	
	HE-A301	歴史遺産学演習 I	2	必修	演習	3回生	①②④⑤⑥⑦	②④⑤	
	HE-A302	歴史遺産学演習 II	2	必修	演習	3回生	①②④⑤⑥⑦	②④⑤	
	HE-A401	歴史遺産学演習 III	2	必修	演習	4回生	①②④⑤⑥⑦	②④⑤	
	HE-A402	歴史遺産学演習 IV	2	必修	演習	4回生	①②④⑤⑥⑦	②④⑤	
	HE-Z201	歴史遺産学実習 I	1	必修	実習	2回生	②⑤⑦	②③	
	HE-Z202	歴史遺産学実習 II	1	必修	実習	2回生	②⑤⑦	②③	
	HE-A301	歴史遺産学実習 III	1	必修	実習	3回生	②④⑤⑥⑦	③④	
	HE-A302	歴史遺産学実習 IV	1	必修	実習	3回生	④⑤⑥⑦	③④	
	HE-A403	卒業研究	6	必修	演習	4回生	①②⑦	①④⑤	
選択科目区分1	HE-Z111	日本美術史 I	2	選択	講義	1回生	①④⑦	①③⑤	区分1から8単位以上、区分2から14単位以上、区分3から8単位以上、加えて選択科目全体から40単位以上を選択必修
	HE-Z112	日本美術史 II	2	選択	講義	1回生	①④⑦	①③⑤	
	HE-Z111	東洋美術史	2	選択	講義	1回生	①②⑦	①⑤	
	HE-Z112	西洋美術史	2	選択	講義	1回生	③④⑥	①⑤	
	HE-Z111	民俗学	2	選択	講義	1回生	②③⑤	①②	
	HE-Z112	文化遺産学	2	選択	講義	1回生	②③⑤	①②⑤	
	HE-Z111	世界遺産論	2	選択	講義	1回生	①②④	①⑤	
	HE-Z112	文化財行政論	2	選択	講義	1回生	①②⑤	①③	
選択科目区分2	HE-Z221	考古学研究 I	2	選択	講義	2回生	①②④⑥	①③④	区分2から14単位以上選択必修
	HE-Z221	文献史料学 I	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦	①④	
	HE-Z222	文献史料学 II	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦	①④	
	HE-Z221	美術工芸史研究 I	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①⑤	
	HE-Z222	美術工芸史研究 II	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①⑤	
	HE-Z221	遺産情報演習 I	2	選択	演習	2回生	②⑤⑥	②④	
	HE-Z221	建築遺産研究 I	2	選択	講義	2回生	①②⑥	①③	
	HE-Z221	歴史遺産研究 I	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑥	①③④	
選択科目区分3	HE-Z222	歴史遺産研究 II	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑥	①③④	区分3から8単位以上、加えて選択科目全体から40単位以上を選択必修
	HE-Z221	歴史遺産調査実習	2	選択	実習	2回生	①②③⑤⑥	②③④	
	HE-A331	古都学 I	2	選択	講義	3回生	①③④⑥	①③	
	HE-A332	古都学 II	2	選択	講義	3回生	①③④⑥	①③	
	HE-A331	地域文化論	2	選択	講義	3回生	①②⑥	①⑤	
	HE-A332	木簡・金石文学	2	選択	講義	3回生	①④⑥	①	
	HE-Z331	考古学研究 II	2	選択	講義	3回生	①②④⑥	①③④	
	HE-Z331	建築遺産研究 II	2	選択	講義	3回生	①②⑥	①③	
選択科目専門関連科目群	HE-Z332	遺産情報演習 II	2	選択	演習	3回生	②⑤⑥	②④	区分1から8単位以上、区分2から14単位以上、区分3から8単位以上、加えて選択科目全体から40単位以上を選択必修
	HE-A331	保存科学 I	2	選択	演習	3回生	①②⑤	①③④	
	HE-A332	保存科学 II	2	選択	演習	3回生	①②⑤	①③④	
	HE-Z241	文化交流史特講 I	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HE-Z241	文化交流史特講 II	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HE-Z141	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥		
	HE-Z141	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥		
	HE-Z141	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④		
選択科目専門関連科目群	HE-Z141	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④		区分1から8単位以上、区分2から14単位以上、区分3から8単位以上、加えて選択科目全体から40単位以上を選択必修
	HE-Z141	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤		
	HE-Z141	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥		
	HE-Z241	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HE-Z241	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HE-Z141	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥		
	HE-Z141	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥		
	HE-Z241	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤		
	HE-Z141	地理学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥		
	HE-Z241	自然地理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HE-Z241	地誌	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HE-Z241	人文地理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑥		
	HE-Z141	日本史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HE-Z141	日本史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HE-Z141	東洋史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④		

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
専門教育科目群	HE-Z141	東洋史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④	区分1から8単位以上、区分2から14単位以上、区分3から8単位以上、加えて選択科目全体から40単位以上を選択必修	
	HE-Z141	西洋史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HE-Z141	西洋史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④		
	HE-Z241	古文書学 A I (古代・中世)	2	選択	講義	2回生	①②⑦		
	HE-Z241	古文書学 A II (古代・中世)	2	選択	講義	2回生	①②⑦		
	HE-Z241	出土文字資料論	2	選択	演習	2回生	①②⑦		
	HE-Z241	日本史特講 a (古代史)	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HE-Z241	日本史特講 b (古代史)	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HE-Z241	日本史特講 c (中世史)	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HE-Z241	日本史特講 d (中世史)	2	選択	講義	2回生	①②④		
	HE-Z241	日本史特講 e (近世史)	2						

# 文学部 歴史遺産学科 カリキュラム表 ※全コース共通

## 基礎教育科目群

アカデミックライティング	単位	回生	英語 I A	単位	回生	情報処理演習 I	単位	回生
教養ゼミ	2	1~	英語 I B	1	1~	情報処理演習 II	1	1~
	2	1~	英語 II A	1	1~			
			英語 II B	1	1~			

必修10単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 必修

教養入門	単位	回生	+	地域課題研究	単位	回生	+	キャリアデザイン入門	単位	回生
キャリアゼミ I	1	1~	+	キャリアゼミ II	1	2~	+	キャリアゼミ III	1	2~

= 必修  
9単位

## 教養教育科目群・キャリア教育科目群 選択必修

選択必修36単位以上											
<b>人間と知の伝達(領域)</b>				<b>人間と文化(領域)</b>				<b>人間と社会(領域)</b>			
●現代の思想(分野)				●外国語と文化理解(分野)				●法律・行政・政治(分野)			
日本人と宗教 2 1~				比較文化論 2 1~				日本国憲法 2 1~			
ジェンダー研究 2 1~				文化人類学 2 1~				民法 2 2~			
心理学概論 2 2~				芸術と文化 2 1~				行政法 2 2~			
●メディアと情報(分野)				英語III A 1 2~				人権と教育 2 2~			
言語コミュニケーション論 2 1~				英語III B 1 2~				国際関係入門 2 2~			
キャリアコミュニケーション I 2 2~				英語IV A 1 2~				行政学 2 2~			
キャリアコミュニケーション II 2 2~				英語IV B 1 2~				人権と教育 2 2~			
現代のメディアと表現 2 1~				中国語 I 2 1~				健康に生きる I 2 1~			
情報社会論 2 1~				中国語 II 2 1~				健康に生きる II 2 1~			
情報処理演習 III 1 2~				中国語 III 2 1~				健康に生きる III 2 1~			
情報処理演習 IV 1 2~				中国語 IV 2 1~				体育理論 2 1~			
情報処理演習 V 1 2~				会計学概論 2 1~				スポーツコース I 1 1~			
情報処理演習 VI 1 2~				会計学概論 2 1~				スポーツコース II 1 1~			
情報処理演習 VII 1 2~				福祉とボランティア 2 1~				スポーツコース III 1 1~			
数学演習 I 2 1~				時事問題研究 2 1~				スポーツコース IV 1 1~			
数学演習 II 2 1~				●経済・経営・社会(分野)				●健康・こころ・からだ(分野)			
●歴史・文化(分野)				●法律・行政・政治(分野)				●健康・こころ・からだ(分野)			
歴史学入門 2 1~				日本美術史 I 2 1~				健康に生きる I 2 1~			
京都講座 I 2 1~				日本美術史 II 2 1~				健康に生きる II 2 1~			
京都講座 II 2 1~				東洋美術史 2 1~				健康に生きる III 2 1~			
京都の歴史・文化 I 2 1~				西洋美術史 2 1~				体育理論 2 1~			
京都の歴史・文化 II 2 1~				日本史入門 2 1~				スポーツコース I 1 1~			
文学と京都 2 1~				京都講座 I 2 1~				スポーツコース II 1 1~			
上記領域より4単位以上				上記領域より4単位以上				上記領域より4単位以上			
上記領域より4単位以上				上記領域より4単位以上				上記領域より4単位以上			

キャリア開発講座 I	単位	回生	よそおいの心理学	単位	回生	特別活動論	単位	回生	日本語教授法 I	単位	回生
キャリア開発講座 II	2	1~	産業心理学	2	2~	教育方法論	2	2~	日本語教授法 II	2	2~
キャリア開発講座 III	2	2~	広告と消費の心理学	2	3~	生徒・進路指導	2	3~	日本語教授法 III	2	3~
キャリア開発講座 IV	2	2~	教職・保育職教養講義 I	2	3~	教育相談	2	2~	日本語教授法 IV	2	3~
キャリア開発演習 I	2	2~	教職・保育職教養講義 II	2	3~	教職実践演習(中等)	2	4	日本語教材研究	2	4
キャリア開発演習 II	2	2~	教職・保育職教養講義 III	2	4	生涯学習概論 I	2	1~	日本語教育実習	2	4
キャリア開発演習 III	2	2~	教職・保育職教養講義 IV	2	4	図書館概論	2	1~	社会調査論	2	2~
キャリア開発演習 IV	2	2~	教職入門	2	1~	図書館制度・経営論	2	2~	統計学基礎論	2	2~
キャリア開発研究 I	2	3~	教育心理学	2	1~	図書館情報資源概論	2	2~			
キャリア開発研究 II	2	3~	教育原論	2	1~	博物館学概論	2	1~			
キャリア開発研究 III	2	3~	教育制度論	2	2~	博物館経営論	2	2~			
キャリア開発研究 IV	2	3~	教育課程論	2	2~	博物館資料論	2	2~			
キャリア開発研究 V	2	3~	道徳教育の理論と方法	2	2~	博物館展示論	2	2~			
キャリア開発研究 VI	2	3~	インターンシップA(ビジネス)	2	1~	博物館教育論	2	1~			
キャリア開発研究 VII	2	2~	インターンシップB(図書館司書)	2	2~	博物館実習 I	1	3~			
キャリア開発研究 VIII	2	2~	インターンシップC(行政)	2	2~	博物館実習 II	1	3~			
キャリア開発研究 IX	2	2~	インターンシップD(NGO・NPO)	2	2~						

## 専門教育科目群 必修

**1回生**</td

## 第13章 科目概要

### (4) 履修条件

#### 【考古学コース・美術工芸史コース・歴史遺産コース】全コース共通

本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

（対象科目） 3回生配当科目「歴史遺産学演習Ⅰ・Ⅱ」

（履修条件） 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

### (5) 卒業研究

卒業論文、卒業研究および卒業制作は4年間の学修の集大成をなすものとして重視されています。

卒業論文、卒業研究または卒業制作を提出し、合格することが卒業するための必要条件となっています。なお、提出後には、口頭試問も行われます。

論文の表紙等は指定されているものがあります。ゼミの教員の指示に従ってください。

#### 【受付期間および時間】

受付期間および時間については別途掲示をします。必ずそちらを確認してください。

本人以外の提出、郵送による提出は受け付けません。

提出時には、必ずコピーを1部とり、正本は学務各課へ提出し、コピーはゼミ担当教員へ提出してください。

様式や分量等については、学科ごとに次のように決められています。

#### 【歴史遺産学科】

本文12,000字～20,000字程度とします。なお、詳細は各ゼミで指導します。

#### 【基礎教育科目群】

##### アカデミックライティング

大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。まずは、「話す」ことを中心にコミュニケーションの基礎を学ぶとともに、原稿用紙の使い方や履歴書の作成など、大学生活で役立つ実用的な「書く」能力も身につける。

##### 教養ゼミ

スタディ・スキルとして、最低限必要とされる読解力や文章作成能力の修得をめざす。高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

##### 英語ⅠA

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

##### 英語ⅠB

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

##### 英語ⅡA

スキミング、スキャニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通じて、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

##### 英語ⅡB

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通じて、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

##### 情報処理演習Ⅰ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

##### 情報処理演習Ⅱ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

#### 日本語Ⅰ

留学生にとって汎用的な日本語能力の向上を図る。日本語4技能を中級後半レベルへと移行させること、日本人とコミュニケーションがされること、日本社会・文化への理解を深めること、大学の講義を受講する能力を養うことを目指す。

#### 日本語Ⅱ

留学生にとって汎用的な日本語能力の向上を図る。日本語4技能を中級後半レベルへと移行させること、日本人とコミュニケーションがされること、日本社会・文化への理解を深めること、大学の講義を受講する能力を養うことを目指す。

#### 日本語Ⅲ

アカデミックな日本語能力の向上を目指す。日本語4技能を上級レベルへと移行させること、特に、大学・大学院の講義やビジネスの場面で必要となる硬い書きことばの「読み」「書き」に慣れること、まとまった内容のレポートを書くことを目標とする。

#### 日本語Ⅳ

日本語の上級レベルのコミュニケーション能力と批判能力の向上を目指す。まとまったスピーチや発表、互いを尊重した意見表明が日本語でできること、自身や他者の意見を分析・検討したり批判できることを目指す。

#### 日本事情Ⅰ

さまざまな読みものを読むを中心、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本と日本人についての知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、日本と日本人の今について考える。

#### 日本事情Ⅱ

さまざまな読みものを読むを中心、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本と日本人について、より豊富な知識を身につけていく。また、発表やディスカッションを通じて、日本と日本人の今について考える。

#### 日本事情Ⅲ

さまざまな読みものを読むを中心、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本の社会と経済についての知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、日本の社会や経済への理解を深める。

#### 日本事情Ⅳ

さまざまな読みものを読むを中心、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本の社会と経済について、さらに豊富な知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、その理解を一層深いものにしていく。

#### 日本文化演習Ⅰ

日本の文化への理解を深めるため、まず授業で伝統文化、歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣、料理などに関する文章を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学したり、料理をつくってみたりする。

#### 日本文化演習Ⅱ

日本の文化への理解を深めるため、まず授業で歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣に関する文章（Iよりやや高度な文献）を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学する。

#### 【教養教育科目群】

##### 教養入門

初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

## 地域課題研究

地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、地域で実践的に学び、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

## 哲学概論

哲学はさまざまな学問の基礎だと言われている。それは、例えは数学が数を扱い、生物学が生命現象を扱うのに対して、哲学の対象が思考そのものにあるからである。哲学は言わば、物事を根本的に突き詰めて考えようとする一つの態度・スタイルを意味している。本講義の目的は、問題に取り組む際の態度としての哲学的な思考のスタイルを身につけてもらうことにある。講義のなかでは、さまざまな哲学者の思考の筋道をたどることを通して、実際に哲学することの意義を学ぶ。

## 倫理学概論

家族関係や市民社会、国家のそれぞれのレベルで人権の状況を確認しながら、あるべき家族関係や市民関係、国家像を考察すると同時に、生命倫理や環境倫理など新しい倫理を考える。

## 日本人と宗教

日本社会が伝統として培ってきた宗教の文化的土壤を理解し、そこから宗教的な見方、考え方を通して人間関係のあり方やその形成について豊かな意味を獲得していくことを理解し、実践していく態度を身につける。具体的には、日本社会に広く展開した宗教（神道、仏教、キリスト教、儒教、民俗行事など）について、その実践や文化的視点から、資料等を用いながら学ぶ。

## ジェンダー研究

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

## 宗教学概論

宗教を正しく理解するための必要な基礎知識を習得しながら、人間社会にとって宗教が果たす重要な役割とその意義について考える。具体的には、客観的で科学的な立場にたって、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

## 心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、社会においても「こころ」を抜きにして考えることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心をもつ人は多いが、誤解されることや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を正確に学ぶことを目的とする。生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基本的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

## 言語コミュニケーション論

日本語と英語によるコミュニケーションの比較を通して、その違いや特徴を学ぶ。コミュニケーションとは何かという問題から始めて、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題を扱う。さらに、言語コミュニケーションの比較を翻訳や通訳という観点からも検討する。なお、言語によるコミュニケーションとの関わりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れ、日英語それぞれの言語コミュニケーションの特質とどう関わるかも検討する。

## キャリアコミュニケーションⅠ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションのための話しことばの修得を目的とする。話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術、人間関係を円滑にするための敬語表現のスキル、パブリックスピーチングに必要な筋道の立った話しから、正しい日本語の運用についての知識等の修得を、講義とワーク、トレーニングにより身につける。

## キャリアコミュニケーションⅡ

社会人基礎力（コミュニケーション能力）を体得し、社会人としての準備を行う。適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキル、問題発見解決型人材を念頭においた社会が求めるヒューマンスキルなどの獲得をめざす。授業では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得する。

## 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツが世界的な文化として高く評価されつつあることは言うまでもない。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現していることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、現代の文学や映像メディアは今や担っている。このような観点に立って、日本の映像文化を分析、評価するのがこの講義の目標である。

## 情報社会論

授業では、情報の特性、現代社会における情報の機能等について概説的な説明を行う。とくに学生諸君にも密接な関連を持つ、個人情報の保護に関わる問題、インターネットの発達とネットリテラシー、スマスマの発信する情報の受け取り方に関するメディアアリテラシーなどについて解説する。

## 数学演習Ⅰ

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初步から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

## 数学演習Ⅱ

数学的思考、数理的思考を身につける。1次関数、2次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

## 情報処理演習Ⅲ

企業の実務において、PCを使用したデータの集計処理能力、業務データのグラフ分析やデータベース分析能力、またネットワークの利活用による情報収集や情報発信の実務能力を養成するため、表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の習得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身に付ける。

## 情報処理演習Ⅳ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に、使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 情報処理演習Ⅴ

企業の実務において、PCを使用したビジネス文書作成能力やネットワークの利活用による事務能力や情報収集、発信能力が大変重要な能力として求められており、この授業では、現在、ワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の習得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身に付ける。

## 情報処理演習Ⅵ

ホームページは情報を発信するための1つの手段となっているが、インターネットのホームページは、HTMLという言語により作成されている。講義ではHTMLによりホームページを記述する基礎技術とWebメディアのマルチメディア表現の技術を修得する。HTMLによる「表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業を進めていく。

## 比較文化論

文化を比較研究のアプローチから理解し、世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、自分がそれにどう関わるのかを考えることがこのクラスの目標である。世界には、われわれの想像や理解を超えた「謎」が頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないものとして簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解するために、主として英語圏の文化を日本文化と比較しながら講義をすすめていく。

## 異文化コミュニケーション論

異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接觸場面において生じる誤解や衝突、相互理解の困難さといったことをイメージしやすいが、異文化という概念の射程はそこにはとどまるものではない。男女の考え方のずれ、世代間の意見の対立といったもの、広い意味では、お互いの文化背景の無理解によって生じるものである。他者を、自分とは異なる文化背景をもつ存在として認め、積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、他者との間に関係性（つながり）を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

## 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説する。その上で、アジアのなかでも、ブータンを中心とし、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていく。

## 芸術と文化

芸術（アーツ）と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまに試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

## 英語ⅢA

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

## 英語ⅢB

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行なながら英

語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

## 英語ⅣA

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

## 英語ⅣB

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につくようにしたい。

## 中国語Ⅰ

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

## 中国語Ⅱ

さまざまな基本短文作成ができるように、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

## 中国語Ⅲ

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることがめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

## 中国語Ⅳ

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができるることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

## 韓国語Ⅰ

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

## 韓国語Ⅱ

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国文化に親しむ。

## 韓国語Ⅲ

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

## 韓国語Ⅳ

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

## フランス語Ⅰ

フランス語の発音と、文法の重要な規則のうち、もっとも基礎

的な部分を学び、それを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を修得する。

#### フランス語Ⅱ

フランス語の発音、文法などの基礎知識を踏まえて、やや高度な文法事項を学び、それらを用いた文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

#### ドイツ語Ⅰ

ドイツ語のもっとも基本的な規則（発音の仕方と文法）を一つずつ学ぶ。できるだけ多く反復練習（リーダーの講読、教科書の練習問題、その規則を含む短い作文など）を取り入れ、一つひとつの規則を確実に身につける。

#### ドイツ語Ⅱ

ドイツ語Ⅰで学んだ規則をもとに、新たな規則修得の段階に進む。ドイツ語Ⅰと同様に、リーダーの講読、練習問題、作文ができるだけ多く取り入れ、規則を一つひとつ確実に身につけることを主眼とする。

#### 外国語臨地演習

外国语を、実際に使われている土地で学び、運用能力を高めるための科目である。中国、韓国などの協定大学で寮生活を送りながら、およそ1カ月のプログラムを学修する。授業は午前中で、午後にときどき見学などが配置されている。プログラム終了直前には、文化遺産見学ツアーも予定される。

#### 歴史学入門

歴史学の考え方を理解する科目である。前半は、日本史分野の教員が、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

#### 京都講座Ⅰ

テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にある京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解して、京都での学びをより深める視点を養う。条坊制に基づく平安京、平安宮の遺跡と遺物、東寺・西寺跡、羅城門と朱雀大路、平安京左京の変遷、近世以降の平安京の様子を説明し、市街地での観察方法を伝授する。

#### 京都講座Ⅱ

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣传によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

#### 京都の歴史・文化Ⅰ

京の都は、中国・唐の都城にならって建設されたが、都への軍団の駐屯は視野に入らずに計画された都市であった。文字通り、「平安京」の名が相応しい都—京都で繰り広げられた歴史と、その歴史の展開のなかで残された歴史遺産はどのようなものであったのか、古代から幕末までの都の様相の変遷とその要因を、主として政治史・経済史・都市史・民衆史・女性史の観点から捉え直してみる。

#### 京都の歴史・文化Ⅱ

この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学術交流協定に基づく授業である。京都の文化財について、現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。また、醍醐寺に残る文化財、信仰行事

に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。

#### 文学と京都

京都を舞台とした近代文学の小説作品を読む。小説の読解力・鑑賞力を養うとともに、京都の歴史・風土にも触れて行きたい。京都の大学で学ぶ学生として興味・知的関心を深めることを目標とする。

#### 日本国憲法

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をするために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とする。授業では、日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄ができる限り分かりやすく解説していく。

#### 法学概論Ⅰ

法学概論Ⅰでは、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていく、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要な事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

#### 法学概論Ⅱ

法学概論Ⅱでは、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約・住まい・家族生活・事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初步的な応用力を身につける。

#### 政治学概論Ⅰ

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャル・メディア利用法などにも言及する。

#### 政治学概論Ⅱ

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はいかに描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

#### 民法

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法の

分野の解説に重点を置くが、家族法の分野についても一通り概観しておく。

#### 行政法

憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特殊性を学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいいかを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

#### 行政学

行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編・政策評価の導入や地方分権改革などにも触れる。

#### 人権と教育

今日、子どもや女性、障害者問題、部落問題、など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

#### 国際関係入門

グローバル化の進む現代世界はどのように形成されたのか。日本はどのような影響を受けてきたのか。国際関係論の基礎を、ニュースなどで最近話題になっていることを題材にしながら様々な側面から考察する。受講生が、基礎知識を習得するとともに、自分のこととして国際関係に关心を持ち、考える習慣を身につけることを目的とする。

#### くらしと経済

わたしたちのくらしの物質的な基盤となるのが経済である。この経済のくらしへの影響は時とともにますます大きくなっている。したがって、経済を理解することは現代社会に暮らすすべての人間にとって必要なことである。この科目では、市場と価格メカニズム、政府の役割、経済成長、経済発展、金融システム、雇用システム、国際収支、為替相場などの、経済を理解するための基本概念を、身近な事例を用いて説明することによって、わたしたちの日常のくらしをとりまく経済現象について学ばせる。

#### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まずは会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

#### 会計学概論

目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼得利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

#### 福祉とボランティア

社会学の一分野としての社会福祉について、その歴史を確認し、「福祉」「ボランティア」について基本的な考え方と知識を学ぶ。また、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を学ぶ。教職の基本である〈人間の尊厳〉への気づきと理解を深める。福祉制度への理解を深める中で、ひとりひとりがどのように共生社会づくりに関われるかを考える。教職免許取得に必要な「介護等体験」の事前必修科目としても位置づけられている。

#### 社会学概論Ⅰ

社会学概論Ⅰでは、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会学的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

#### 社会学概論Ⅱ

社会学概論Ⅱでは、社会学概論Ⅰでの基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着をめざす。

#### 時事問題研究

受講生が問題意識をもち、リサーチし、発表し、討議するという方式で行う。担当教員による講義、説明もあるが、基本は受講生の問題意識に基づく集団的討議により授業が進められる。時事問題への深い理解が得られることが授業の主たる目標だが、同時にリサーチの方法、プレゼンテーションの方法を身につけることもまた大切な目標とする。

#### 経済学概論Ⅰ

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

#### 経済学概論Ⅱ

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまで、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

#### 健康に生きるⅠ

健康とは何かを学び、大学生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

#### 健康に生きるⅡ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解するとともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。

#### 健康に生きるⅢ

個人の「健康」について精神的な側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざま

まなメンタルヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法について概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

#### 体育理論

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考えるために、体育科教育の概要を理解するとともに、体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身につけることを目標とする。

#### スポーツコースⅠ

ソフトバレー、ボールと6人制バレーを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通じ、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコースⅡ

Iに引き続き、ソフトバレー、ボールと6人制バレーを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通じ、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコースⅢ

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バレー、バスケットボール両種目の基本的な技術や知識を学習するとともに、全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。

#### スポーツコースⅣ

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術練習とルールの理解から始め、シングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

#### 地球生命論

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ばれる現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壤層位・遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

#### 地球環境論

環境問題は、今や誰にとっても避けて通ることのできない重要な課題である。この授業は、環境問題を、自然科学的アプローチ、社会科学的アプローチ、哲学的アプローチを総合的に駆使しつつ考察する。環境問題の複雑さ、議論の道筋、論点などをわかりやすく講義する。

#### エコロジー研究

環境問題は、戦争と平和の問題とともに現代に生きるものにとって避けて通ることのできない問題である。この授業では、「エコロジー」をキーワードとして、環境問題を考える。とくに、学生一人一人の経験に即して、環境問題を考える視点を吟味し、政策的な課題と「草の根」でできる取り組みとを統合的に理解できる力を育てる。先人たちの環境を守る取り組みについて学ぶとともに、学生としてできることをも考える機会としたい。

#### 自然の探求

この授業では、①身の回りの自然を丁寧に観察し、それらを具体的に認識すること、②自然界を構成する地図・水図・気図・生物図の基本的な仕組みを理解することを通じて、③「わたしたちにとって自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指す。

#### 地理学概論

地理学は大きく地誌学と系統地理学に分類されるが、ここでは系統地理学を扱う。系統地理学は、地球表面における自然現象を地域的な観点から究明する「自然地理学」と、地表上の人文現象（人口・集落・産業・交通・文化など）を地域特性の構成要素として考察する「人文地理学」に大別されており、その両方について概観する。

#### 生活の中の数学

日常生活や仕事でさまざまな問題、さらに環境などの社会的課題を考える上で、数学は欠かせない。この授業では、将来、市民として的確な判断を下すために役に立つ数学的考え方や概念を、現実の課題を考えるなかで学習する。扱うのは、経済や環境を考える上で重要な指数・対数、刻々と変化する様子から全体を知るための差分や微積分、社会の集団現象を分析するための統計や確率などである。授業では、これらの数学の必要性を理解・学修することを目標とする。

#### 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本講では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につける。また、物理学が身近なものに応用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに応用されている電磁気現象の原理などを理解する。

#### 化学基礎

生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正しい理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に応用されていることを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、応用されている原理とその意義を理解する。

#### 生物学基礎

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

#### 【キャリア教育科目群】

##### キャリアデザイン入門

受講者が自分のキャリアを、自ら方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとする。「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。授業では、過去の自分を振り返り、自分の強み、価値観などをワークシートを使って自己分析を行うと共に、「働くことの意味」を考える。

##### キャリア開発講座Ⅰ

21世紀の企業と経営に求められる人材をテーマに、人材開発や流通業、サービス業、製造業などの業界および具体的な企業とその経営に関する実態認識を深めるとともに、受講生各自のキャリア形成について考えるきっかけを得る。

##### キャリア開発講座Ⅱ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力を養成を目指す。国語や数学に関する基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

##### キャリア開発講座Ⅲ

Ⅱを発展させ、大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる知識を身につける。言語分野、非言語分野に関する内容についてわかりやすい講義を実施し、基礎力を身につけさせるとともに、身につけた知識を応用できる力を養成する。

##### キャリア開発講座Ⅳ

キャリア開発講座Ⅰから継続して、21世紀の企業と経営に求められる人材をテーマに、Ⅰで取り上げなかった業界および企業とその経営に関する実態認識を深めるとともに、受講生各自のキャリア形成について考える。

##### キャリア開発演習Ⅰ

公務員の仕事や現状を知り、職業観を育成する。授業では、地域政策を担う地方公共団体の仕組みと現状を学び、地方公務員が担う地方行政の特質と機能を自らが働くことを想定しつつ、具体的に理解する。また、警察官・消防官など公安職の公務員の仕事と求められる専門知識を理解するため、各職種に関する講義やゲストスピーカーによる講演を通して学ぶ。

##### キャリア開発演習Ⅱ

キャリア開発講座Ⅲをさらに発展させ、大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる知識を身につける。特に非言語分野に関する応用力を確実に身につけることを目的に、演習形式で学ぶ。

##### キャリア開発演習Ⅲ

企業組織についての知識を広めより深く理解し、働くことに興味関心を持つことを最終目標とする。授業では、企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

##### キャリア開発演習Ⅳ

国際社会の中の日本や企業のグローバル化をテーマにキャリア開発を行う。授業では、国際化・グローバル化の中で日本が抱える政治的経済的課題や、グローバル企業や東証一部上場企業などの現状とグローバル化しつつある企業や経済社会について理解を深める。グループ学習やワークショップ型の方法で行い、必要に応じ、ゲスト講師による講演なども実施する。

##### キャリア開発研究Ⅰ

業界の現状と将来について事例を交えながら学ぶ。また、職種について、民間企業と公務員の仕事の違いや企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。さらに、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をするために求められる「基礎能力」とその仕事を通じて得られる「専門能力」や「楽しみ」を具体的に理解する。

##### キャリア開発研究Ⅱ

経済のグローバル化、グローバルビジネスの動向について講義で概観したあと、いくつかのグループによる調査研究チームを編成して、グループごとにテーマを決めて調査研究を行い、それぞれの調査研究の成果の発表と討論を行う。またその後、個人による調査研究および発表と討論を実施する。実際にグローバル企業で活躍するビジネスマン等に、その豊かな経験を聴く機会も設ける。

##### キャリア開発研究Ⅲ

キャリア開発の自主トレーニング方法を学び、実践する。民間企業と公務員試験（地方上級、市役所、警察）の勉強に対応し、自己分析シートの作成や筆記試験対策、企業社会を理解するための経済紙の正しい活用法などについて演習形式で学ぶ。

##### キャリア開発研究Ⅳ

民間企業と公務員試験突破をめざした学習を通じて、20年後の自分のキャリアイメージを確立することを目標とする。グループ討論、数学的思考、企業・業種分析、文章理解、マクロ経済学、スケジュール管理とストレス管理など、さまざまなテーマを組み合わせた演習形式の授業を実施する。

##### キャリア開発研究Ⅴ

「起業すること」を想定して、それに必要な知識、考え方を習得する。受講生ごとに、現実の、または想定上の起業案件に、アイデアから起業に至る諸問題について、学習と演習を通して理解・習得するとともに、実践的なビジネス・プランを策定・提出する。

##### キャリア開発研究Ⅵ

世の中の動きに关心を持ち、時事問題の理解を深めることをテーマとして、時事問題を理解するために必要な基礎知識を身につけ、主体的に世の中の現状を考える力を育成する。公務員採用試験に出題されそうな時事問題を中心に、その問題の背景を解説する。また、各自で時事問題についての事前学習をし、その時事問題を題材に集団討論・小論文・面接の演習を行う。

##### インターンシップA（ビジネス）

企業における就業体験や学習を通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する关心や学習する意欲を高める。また将来、就職した際に必要となるビジネスマナーや職業意識を身につける。このような経験を通して、職業人として必要な基礎能力や働く意識を培う。この授業では主に企業を対象とする。

##### インターンシップB（図書館司書）

主に図書館における就業体験や学習を通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する关心や学習する意欲を高める。また将来、就職した際に必要となるビジネスマナーや職業意識を身につける。このような経験を通して、職業人として必要な基礎能力や働く意識を培う。

##### インターンシップC（行政）

主に自治体などの行政機関における就業体験や学習を通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する关心や学習する意欲を高める。また将来、就職した際に必要となるビジネスマナーや職業意識を身につける。このような経験を通して、職業人として必要な基礎能力や働く意識を培う。

##### インターンシップD（NGO・NPO）

主にNGO、NPOなどの非営利組織における就業体験や学習を

通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する関心や学習する意欲を高める。また将来、就職した際に必要となるビジネスマナーや職業意識を身につける。このような経験を通して、職業人として必要な基礎能力や働く意識を培う。

#### よそおいの心理学

人間の外見と心の関係を探究することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感・高揚感をもたらし、積極的な対他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いたしました。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みられている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床的実践活動について紹介する。

#### 産業心理学

高度に発達し複雑化・巨大化した現代の産業社会を構成している基本単位はいうまでもなく「個々の人間」であり、産業活動の効率化や、そこで生じるさまざまな問題の解決をはかるためには、人間の行動や心理についての中立的で客観的な理解が欠かせない。心理学の応用分野である産業心理学はこのような課題を達成するための研究分野である。産業場面に関わる人間の行動を「生産者としての行動」と「消費者としての行動」という2つの側面からとらえたうえで考察を行う。

#### 広告と消費の心理学

私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講義では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間（消費者）理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。

#### 教職・保育職教養講義I

これらの教職を志す者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身につける必要がある。そのために、この授業では、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につける。

#### 教職・保育職教養講義II

学習指導要領における「生きる力」という概念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これらの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく、改訂の趣旨及び背景（例えは、教育基本法の改正、学校教育法の改正など）も含めて理解し、教師としての実践力として身につけることが大切である。また、将来教師として採用された後も、学習指導要領をはじめ、国レベルで出される答申や通知、報告等を歴史的視点で継続的に理解し、時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることを目標とする。

#### 教職・保育職教養講義III

中央教育審議会答申は、教育の専門家としての確かな力量を具体的に「子ども理解力」「児童・生徒指導力」「集団指導の力」「学級づくりの力」「学習指導・授業づくりの力」「教材解釈の力」などを掲げている。この授業では、これらの知識や技能を身につけることはもちろんのこと、これらに加えて客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された具体的な教育実践について、発信できる資質や能力を身につけることを目標とする。

#### 教職・保育職教養講義IV

学校の教育活動は、PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら、生徒のよりよい成長を願った指導が展開され

る。授業は、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また、各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

#### 教職入門

子どもの生活と教師の関わり、教師の仕事、教師に求められる資質・能力、教員の地位・身分、大学の教職課程で学ぶべきことなどについて講義する。具体的な実践例を提示し、子どもと教師の関わりや教師のあり方、教師としての生きがいなどについて学ぶ。

#### 教育心理学

子どもの指導、援助に関わる上で必要な発達や学習、パーソナリティなどの教育心理学の知識について学び、具体的な指導場面に即した教育心理学の知識や考え方、技術の習得を目指して授業を行う。対象である子どもの発達的特徴を絶えず念頭において、指導や援助の問題を考える。

#### 教育原論

現代教育の課題、生涯学習・生涯教育、教育方法などの考察を通して、今日の学校教育や幼児教育の課題を明らかにし、また諸外国の教育制度や内外の教育実践から教育学的な思考や態度を習得させる。

#### 教育制度論

近代教育制度の創設と戦後改革、教育制度と教育法規、教育行政組織、学校体系・学校制度、教育内容・教科書検定に関する制度など内外の教育制度について、歴史的・行政的に広く考察する。

#### 教育課程論

まず、「なぜ学校が必要なのか」という本質的な問い合わせをふまえつつ教育課程の構造と意味を歴史的に解説する。次に、教育課程の現代的課題を特に子どもの成長と発達を支援する教育課程という観点から、その内容構成におけるスコープとシーケンスの構造を典型例を元に解説する。さらに、目標・内容・方法・評価など、現代日本の教育課題を教育課程論の文脈において考察する。事例としては、地域に根ざす教育課程の開発に取り組む学校の例や中等教育学校や小中一貫教育校の教育課程開発を取り上げ、教育課程の果たすべき重要な機能について解説する。

#### 道徳教育の理論と方法

学習指導要領で定められている道徳の指導法について、哲学倫理学の蓄積と道徳教育実践の到達点を踏まえつつ学ぶ。学校教育においてどのような道徳教育が可能かを具体的に考えていく。実践的な能力を養うことを重視するため模擬授業の形態を取り入れる。

#### 特別活動論

特別活動の意義や役割を理解し、その内容の具体的な活動事例を通して生徒の自主的、自律的な態度を育成する指導のあり方を学ぶ。講義のほかレポート作成、小集団討議を取り入れ、将来学校現場において役立つような具体的・実践的な内容とする。

#### 教育方法論

教授=学習過程としての授業を把握するための基礎概念と基礎技法を習得させるとともに受講者が学習指導要領に示される内容を正確に理解できるようにする。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、授業と指導の改善のための処方的知見を得ることができるようになることを目指す。日本の教育実践史の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらしながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリー

システムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

#### 生徒・進路指導

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題、クラス経営や生徒会づくりの具体的な指導事例、生徒の学校参加の事例、進路指導の在り方を学ぶ。

#### 教育相談

小学校における教育相談の意義と役割を理解し、教育相談をどのように展開するかをカウンセリングの基礎知識などを踏まえて検討する。学校における様々な事例を取り上げて、子どもと周囲の関係や係わり方などについてディスカッションする。

#### 教職実践演習（中等）

4年間の教職科目を通じた学びと教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力の実践との統合を図る。(1)使命感や責任感、教育的愛情（①学校教育を取り巻く社会と環境、②教員の責務）、(2)教科内容等の指導力、(3)生徒理解や学級経営（①学級経営、②生徒指導）、(4)社会性や対人関係能力（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）の4つの視点に基づいて、4年間の学びと到達状況を振り返り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質を構築する。

#### 教育実習I

学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教員の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教員としての人間性を高めることをめざす。そのために、以下の点を目標とする。①実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと、②大学で学んでいることから、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること、③教員として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。

#### 教育実習II（事前事後指導を含む）

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする教育実習直前指導で実習での心構えと授業観察の要点指導、学習指導案の添削等、個別指導を行う。また、実習後の事後指導として教育実習報告会を行い、3年次へのアドバイスや質問に答える交流会を行う。

#### 生涯学習概論I

生涯学習および社会教育の本質について理解をはかる。生涯学習という考え方方が現代社会に生まれるにいたった経過を理解し、法制や施設などその具体的な内容を知ることを目標とする。

#### 図書館概論

図書課程の導入科目として、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図る。

#### 図書館制度・経営論

図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

#### 図書館情報技術論

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。

#### 図書館サービス概論

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。

#### 情報サービス論

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて

解説する。

#### 児童サービス論

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説する。

#### 情報サービス演習I

積極的な発信型情報サービス（パスファインダーの作成）などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

#### 情報サービス演習II

情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

#### 図書館情報資源概論

図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

#### 情報資源組織論

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

#### 情報資源組織演習I

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

#### 情報資源組織演習II

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

#### 図書館情報資源特論

児童サービス論の概要を学んだ者に、一人ひとりの発達の違いや好奇心に対応した様々な内容や分野が児童資料にあることを知らせるとともに、実際に数多くの資料を紹介し、受講生にも読むことを課題とする。

#### 図書館施設論

図書課程の必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。

#### 図書館実習

事前・事後学習の指導を受けつつ、公立図書館業務を経験する。実習は公立図書館で5日間（40時間）を基礎とする。

#### 学校経営と学校図書館

学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。

#### 学校図書館とメディアの構成

高度情報社会における学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種別と特性について説明し、理解を図る。

#### 学習指導と学校図書館

学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館

メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。

#### 読書と豊かな人間性

子どもの読書の意義について理解を深め、読書資料をジャンルごとに解説し、子供を本好きにするためのさまざまな技術や方法についても学ぶ。

#### 情報メディアの活用

現代社会におけるさまざまなメディアの特色を理解し、実際に学校教育に活用することができるような知識の習得をめざす。

#### 博物館学概論

博物館の歴史および種類、学芸員の仕事、文化財の保護、関係法規などについて概説し、博物館の課題と展望について考えを深めてゆく。

#### 博物館経営論

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。

#### 博物館資料論

博物館における調査研究と資料公開の方法、すなわち、博物館資料の収集・調査研究・展示の方法を理解する。

#### 博物館資料保存論

博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ。

#### 博物館展示論

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養う。

#### 博物館教育論

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践的な諸事例や方法を知り、それを展開する博物館がいかなる社会的存在となり得るかを探り、博物館機能の中に教育が参画できる基礎的な方策を立てることの能力を養う。

#### 博物館情報・メディア論

視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

#### 博物館実習 I

考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。

#### 博物館実習 II

資料台帳カード作成と展示・体験学習のプランニングを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。

#### 博物館実習 III

前半は、博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。また、後半は博物館の現場における実務を経験すること（館園実習）によって、博物館への理解をより一層深める。

#### 生涯学習概論 II

生涯学習を世界史的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。

#### 社会教育計画 I

社会教育計画策定の前提として、地域に暮らす多様な学習者を理解し、生活課題と学習課題を探る。講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。

#### 社会教育計画 II

地域社会における学校教育と社会教育の協力を考える。また、学級・講座の企画力を養う。講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。

#### 社会教育演習

専門的な知識を踏まえた実践的な能力の向上および学習者とのコミュニケーション能力の向上をはかる。受講生の関心にもとづいたテーマを設定し、グループワークやアクティビティによる学習プログラムを共同で構築する訓練を行う。

#### 社会教育課題研究

京都市を中心とした身近な市町村の社会教育関連施設について、グループに分かれて訪問調査を行う。小集団による学習に習熟し、コミュニケーション能力を高め、プレゼンテーションの経験を積む。

#### 日本語教授法 I

日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得に関する内容を主に扱う。授業は、基本的に講義形式で行うが、扱う内容によっては、課題を与え、発表もしくは提出することを課す。

#### 日本語教授法 II

コースデザイン、ニーズ分析、カリキュラムデザイン、教材の種類、特徴及び構成、日本語指導の方法、指導内容、評価法、異文化理解と日本事情などを主に扱う。授業は、基本的に講義形式で行うが、内容によっては、課題を与え、発表もしくは提出することを課す。

#### 日本語教授法 III

「日本語教授法 I、II」で学んだ基礎知識を活かし、実際の授業の教案づくりと、指導法等の具体的な授業での技術を模擬授業を通じて学ぶ。とくに教案の作り方、模擬授業の視聴を中心に授業を進める。

#### 日本語教授法 IV

「日本語教授法 I、II」で学んだ基礎知識を活かし、実際の授業の教案づくりと、指導法等の具体的な授業での技術を模擬授業を通じて学ぶ。とくに初級後半から中級の文法項目を中心に授業を進める。

#### 日本語教材研究

日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ。初級教材、中上級教材を分析し、初級と中上級との相違点や扱われる内容の違いを理解する。年代の異なる教材を分析し、年代による変化をつかむ。

#### 日本語教育実習

日本語教育の学習には、実際に生徒を教える経験が必要となる。留学生を相手にした日本国内での実習のほかに、台湾の淡江大学における1週間の体験が可能。実習の前後には、くわしい準備と評価が課される。

#### 社会調査論

社会調査の意義と方法、種類など、量的調査と質的調査の両方にわたって社会調査の基本的事項を学ぶとともに、フィールドワークにおけるデータの収集から分析に至るまでのプロセスについて学習する。これらの学習を踏まえて、特定の調査目的に沿って調査方法を決めて資料やデータを収集し、分析するかたちにまでまとめ上げていく社会調査の具体的な方法を学習する。また、社

会調査の具体的な事例を類型ごとに紹介して、その意義を講述するとともに、解説、検討を加える。

#### 統計学基礎論

人間集団の健康および疾病異常の状況などを把握する手段である統計学の基本的な考え方を身につけるため、データの持つ意味、初等確率論・統計的分析方法の基礎について学ぶ。また、人口統計や国勢調査、国民生活基礎統計、医療施設統計など主な保健統計調査についても学ぶ。

#### キャリアゼミ I

この科目では、大学入学前までを振り返りつつ、これからの大學生をどのように過ごしていくか、目標立てを行う。また、1週間ごとの行動と振り返りをKT-Noteに書き込み、学習記録・行動記録をポートフォリオ化する。これら一連の活動によって、意識的に学習・行動し、主体的な学生生活を送ることができるようになることを目的とする。

#### キャリアゼミ II

この科目では、PBL（Project Based Learning）と呼ばれる課題解決型学習の初級編ともいえる授業を行う。あるテーマ（課題）に対して、グループでディスカッションを行い、ひとつの答え（解決策等）を導き出していく。極力、前提知識は不要なテーマを用いるが、答えを導き出すためには、コミュニケーション力、情報分析力、論理的思考力等が必要となるので、自分なりに学習しながら、柔軟な発想をもって進めていくことが必要である。

#### キャリアゼミ III

この科目では、インターンシップやボランティア活動、海外体験等の学外活動を経験し、これまでの学びと実社会の接点を肌で体感する。

#### キャリアゼミ IV

この科目では、社会人としての基礎を学び、自身のキャリアを実現するための実践的なスキルを学ぶことを目的とする。

#### 【専門科目群】

##### 研究入門ゼミ I・II（日文）

日本語日本文学コースは主に、日本語学・古典文学・近代文学の3つの領域をあつかっている。本コースでは、研究入門 I・II および基礎演習 I・II を通じて、これら3つの領域について、1回以上、ゼミ形式で学修活動に参加するよう組み立てられている。単に講義に参加するだけでなく、日本語学、古典文学、近代文学について、「自分でテーマを見出し、調べ、考え、論を組み立て、発表し、議論する」という一連の流れを体験することで、専門領域に関する理解をより深めていくというのが、研究入門 I・II、基礎演習 I・II のねらいである。

##### 言語文化総合演習 I～VII

1回の授業につき、90分授業2コマを当てているのがこの授業である。いわゆるクオーター制がこの授業には導入されている。180分の授業時間を確保することによって、充分な時間的余裕を持って、ワークショップやグループワークを行うことができ、また学外での研修を実施することも容易になった。このような本講義の特長を最大限生かす形で各授業は組み立てられており、古典文学や歴史小説に関する講義を学内で実施した上で、舞台となつた場所を実際にたずねる、あるいは、伝統的な日本文化を直接体験してみるなど、体験型の学修活動が、各講義で提供されている。

##### 基礎演習 I・II（日文）

日本語日本文学コースは主に、日本語学・古典文学・近代文学の3つの領域をあつかっている。本コースでは、研究入門 I・II および基礎演習 I・II を通じて、これら3つの領域について、1回以上、ゼミ形式で学修活動に参加するよう組み立てられている。単に講義に参加するだけでなく、日本語学、古典文学、近代文学

について、「自分でテーマを見出し、調べ、考え、論を組み立て、発表し、議論する」という一連の流れを体験することで、専門領域に関する理解をより深めていくというのが、研究入門 I・II、基礎演習 I・II のねらいである。

##### 日本語日本文学演習 I・II

3回生配当のこの授業では、4回生から本格的に始まる卒業研究の準備段階としての位置づけがなされている。ほとんどの受講生にとっては初めて本格的な論文を書くことになるわけだが、それを念頭に置きつつ、課題の発見、調査、分析、発表、質疑応答、論文作成という、学術論文作成のための一連の流れをスキルとして体得していくことを目標としている。

##### 日本語日本文学演習 III・IV

4回生配当のこの授業では、卒業研究の進捗状況の報告、あるいは、研究活動を実施していく上で必要とされる基本的な知識やスキルの修得が、授業の中心を占めている。各受講者は授業内において求められた報告を行い、担当教員による指導を受けることになる。質疑応答は高い水準の研究を実現する上で必ず必要となるものであり、受講生は積極的に議論に参加して欲しい。

##### 卒業研究（日文）

自ら設定したテーマについて、自ら解決方法を見だし、それを、説得力ある方法で他人に伝達するという、大学で学ぶべき最も重要な能力をつけるのが目標である。専門演習 I～III と連携しつつ、卒業研究の完成を目指し、各自の執筆の手助けを行う。なお、学科卒業研究発表会において、成果を発表することが求められるので、そのための指導も行う。また、すぐれた卒業研究の成果は、学生会誌に掲載される。

##### 卒業研究（書道）

書に関わる様々な基礎知識や歴史、美学的観点を学び、また多様な書法やその技法などを理論と実技の双方からの修学の集大成として、漢字と仮名（調和体を含む）の卒業制作（論文も可）を行い発表する。本学で学んだ全てを反映し、古典古筆を基盤とした作品（論文）を完成させることにより、これから生涯続けられるであろう書の研究を学術的で確かなものにする礎となる研究を行う。

##### 日本語学概説 I

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「音声・音韻」・「文字・表記」について、それぞれの研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

##### 日本語学概説 II

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語（待遇表現、位相語、文章と文体、他）」について、その研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

##### 日本文学史 I

日本語による文化の豊かさを享受できるように、古典文学に対する幅広い教養を身につける。

##### 日本文学史 II

明治時代に書かれた日本近代文学について、知識と理解を深めること、合わせて主な作品を読み味わうことを目標に授業を行う。また、近代文学の影響下に成立した現代小説についても、解説的に言及する。主として講義形式で進めるが、随時、グループでの意見交換とその発表の機会を設ける。

##### 国際日本文化講義 I

日本文化について国際的な視点から学ぶ科目である。日本人の日本文化に関するイメージと外国人の日本文化に関するイメー

ジは、重複する部分もあるが、かといって、まったく重なっているわけでもない。近年の、インバウンドやコト消費に関する報道からも分かるように、外国人にとっては、アニメやマンガ、ゲーム、さらにはラーメンや餃子までも日本文化の範疇に入ってしまうことになる。サブカルチャーや大衆文化、生活文化も、海外から見れば、日本文化なのである。この講義では、国際的な視点から日本文化を考えていくことで、日本人が今まで気づくことができなかつた日本文化の姿について、理解を深めていく。

#### 国際日本文化講義Ⅱ

日本文化について国際的な視点から学ぶ科目である。日本人の日本文化に関するイメージと外国人の日本文化に関するイメージは、重複する部分もあるが、かといって、まったく重なっているわけでもない。近年の、インバウンドやコト消費に関する報道からも分かるように、外国人にとっては、アニメやマンガ、ゲーム、さらにはラーメンや餃子までも日本文化の範疇に入ってしまうことになる。サブカルチャーや大衆文化、生活文化も、海外から見れば、日本文化なのである。この講義では、国際的な視点から日本文化を考えていくことで、日本人が今まで気づくことができなかつた日本文化の姿について、理解を深めていく。

#### 日本語学講義Ⅰ（日本語文法）

日本語の様々なルールについて概説し、日本語学という学問で考察の対象となっているトピックについて考えます。色々問題を出しますので、授業中に参加者で相談しながら日本語の法則性を考えたり、例文を作ったりします。

#### 日本語学講義Ⅱ（日本語文法）

「本当の日本語の姿」を知るために、コーパスと呼ばれる電子的な言語資料を用いて、数的調査を行うという方法が考えられる。この授業ではコーパスを用いて、表記・語形・コロケーション・よく使われる形などについて研究を行い、それを発表する。

#### 日本語学講義Ⅲ（社会言語学）

日本語の変化の中でもとりわけ、文法の変化について詳細に確認する。また、日本各地の諸方言の実態や分布要因についても確認する。

#### 日本語学講義Ⅳ（日本語史）

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

#### 古典文学講義Ⅰ（平安）

平安時代文学の代表作品である源氏物語を取り上げ、原文を丁寧に読み解きながら、舞台となった各所の意味を考える。京都にある大学の授業として、現地見学の案内もきめ細かく行いたい。必要に応じて学外授業を実施する。

#### 古典文学講義Ⅱ（平安）

平安時代の古典を中心に取り上げ、それぞれの必要な場所を十分読み解きながら、「文学とは何か」「女性の関わり」という問題を考えて行く。

#### 古典文学講義Ⅲ（中近世）

中世以降の晴明伝承の中核にある『ホキ抄』に基づいた『安倍晴明物語』と、晴明伝説のバリエーションを読み、伝説の流布と人気の秘密について考える。時間が合えば、授業の一回分をゆかりの地で行う。

#### 古典文学講義Ⅳ（中近世）

浄瑠璃と歌舞伎の特色を知り、日本を代表する伝統芸能について語れるようになる。

#### 近現代文学講義Ⅰ

明治以降の代表的な文学作品を鑑賞し、日本の近代化が進行しつつある中で、文学がいかに成立し、展開したかあきらかにしていく。

#### 近現代文学講義Ⅱ

明治以後の日本文学は、現代に生きる私たちにも多くの問題を投げかけている。さまざまな作品の読解を通じて、彼が現代文明のどこに矛盾を感じていたか確認するとともに、その矛盾を解決していく方法を考えていきたい。

#### 近現代文学講義Ⅲ

大正から昭和前期にかけて発表された文学作品を教材として、現代の日本人の心性が形成されていくにいたる道筋を確認するという観点から文学作品を読解していく。

#### 近現代文学講義Ⅳ

近現代の文学作品の読解と鑑賞を通じて、明治以降、殊に第二次世界大戦後の日本と日本人について考える。主として講義形式で進めるが、随時、グループ活動や個人での発表を導入していく。

#### 映像文化演習

アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク（プレゼンテーション・ディスカッション）を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等で変更することがある。

#### 文芸創作演習

現代の小説作品を鑑賞し、その小説作法に学びつつ、創作実習を行う。グループでの実習作品批評とその発表も取り入れる。

#### アナウンス技術演習Ⅰ

社会で求められる表現力やコミュニケーション力を学ぶ。また、考える、書く、ディスカッション、発表を繰り返し行うので、表現することに慣れる。アナウンス技術（（プレゼン））の向上はもちろんのこと、就職活動の際にも意識すべき点がわかるようになる。印象・聞き方・話し方などの基礎を体得することを目的としている。

#### アナウンス技術演習Ⅱ

伝えるではなく、伝わる話にするために必要な要素を学ぶと共に、自分の意見を効果的に伝えることの重要性を体感する。また、他者の発表をフィードバックすることで、プレゼンに必要なポイントを客観的に学ぶことができる。さらに、語彙や表現力を豊かにするための様々なトレーニング方法を学ぶなど、アナウンス力（プレゼン力）を総合的に向上させる事を目的とする。

#### 国際日本文化演習

日本文化について、演習形式で、国際的な視点から学ぶ科目である。日本文化というと、一般的にはお茶やお花を思い浮かべるが、外国人にとって、日本文化とはアニメであり、マンガであり、ゲームである。日本のサブカルチャーは海外から見れば、立派な文化なのだ。このような観点から、留学生とのグループワーク、学外実習、海外研修などの機会を設けつつ、国際的な視点から日本文化を分析していきたい。

#### 中学書写Ⅰ

漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。

#### 中学書写Ⅱ

漢字と仮名の調和した書き方を理解し、その実技の習得を目的とする。授業研究によって現場における効果的な指導法を模索する。

#### 漢文学Ⅰ

漢文学は中国の古典文学だが、前近代にあっては日本でもこれを懸命に学んでおり、日本人にとっても古典だった。この漢文学Ⅰでは、中国最古の詩集である『詩經』から唐の直前の六朝時代までを概説する。『詩經』に統いて、紀元前のあいだにすでに本格的な歴史書が書かれ、また諸子百家と呼ばれる人たちがさまざまな思想書を残した。紀元後に入ると、後漢ごろに五言詩が現れる。『詩經』が四言で構成されていたのにたいして、五言で組み立てられるこの詩は、そのうち中国文学の本流のひとつとなる。三国時代を経てつぎの六朝時代には、小説らしいものがたくさん編集された。その内容の大きな特徴は、幽靈譚や不思議な話が多いことである。当時の人はそのようなものに興味を持ったのだった。もうひとつ流行したのが、仕事を辞めて田舎で暮らしたいと願う隠逸思想である。その田舎暮らしを文章や詩でみごとに表現したのが、六朝時代の陶淵明だった。漢文学Ⅰはここまでで終了する。

#### 漢文学Ⅱ

漢文学Ⅰを引き継いで、唐代から近代の入り口までを扱う。唐といえば唐詩であり、このとき中国の古典的な詩がひとまず完成了。ただし授業では、たんに唐詩を紹介するのではなく、詩人の多くが暮らした長安の町に焦点をあてつつ詩を見ていくことになる。つづく宋以降の時代には、新しい要素として庶民的なものがいよいよ登場する。たとえば町の繁華街には演芸場のようなものが現れ、劇や講談が上演されていた。元の時代になるとそのような劇が非常に発展し、脚本も多く残されている。さらに明になると、かつて人々が演芸場で楽しんだような物語が書物の形にまとめられた。たとえば『三国志演義』がそのような本のひとつである。明のあとの清を経て、中国では一九一年の辛亥革命によって、皇帝のいた古い時代が終わる。ただし、文学が大きく変化するのはもう数年のちのこととなる。そのときどのような経緯をたどって新しい近代的な文学が生まれたのかを、授業の最後に解説する。

#### 日本史概説Ⅰ

1回生から配当される講義科目です。日本史の基本的な問題を取りあげて通史的に概観します。あわせて社会科・地理歴史科教員免許のための概説的知識を提供します。前期Ⅰは古代・中世を、後期Ⅱは近世・近現代を主に扱います。

#### 日本史概説Ⅱ

1回生から配当される講義科目です。日本史の基本的な問題を取りあげて通史的に概観します。あわせて社会科・地理歴史科教員免許のための概説的知識を提供します。前期Ⅰは古代・中世を、後期Ⅱは近世・近現代を主に扱います。

#### 民俗学

従来民俗学は農山漁村、伝統的な民俗事象を対象とすることが多かったが、ここでは今ある里山や水田、あるいは社や民家の構造・空間などから、日常、行事、儀礼、祭り、祈りなどのすがたを考えることで、これまで培われてきた日本の暮らしや文化、ひいては現代社会の根底にある意識の深層にせまる。

#### 文化遺産学

文化遺産の一部は文化財に指定され保護されてきたが、近年様々な文化の多様性のなかに文化遺産としてのモノが位置づけられるようになってきた。従来、一定の環境の中からは価値を見いだしにくかった歴史エピソード資料や文化的景観なども含めて、本来それらがもつ価値を可視化していく方法論を探る。

#### 日本美術史Ⅰ

縄文時代から鎌倉時代までの絵画・彫刻・工芸・建築の作例から、古来日本人が中国や朝鮮半島から受容した技術や表現技法をいかに吸収し、自国の文化として昇華させていったのかについて理解を深める。

#### 日本美術史Ⅱ

室町時代から現代までの美術に関する諸分野の作例から、日本人がどのような文化を形成してきたのかについて理解を深める。

#### 東洋美術史

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。

#### 文化交流史特講Ⅰ

異なる歴史世界の文化がどのように行き来したか、その実態を大きな視点から把握します。世界史的観点から諸問題を扱いますが、もちろん日本史も視野に含めます。

#### 文化交流史特講Ⅱ

異なる歴史世界の文化がどのように行き来したか、その実態を大きな視点から把握します。世界史的観点から諸問題を扱いますが、もちろん日本史も視野に含めます。

#### 日本女性史特講Ⅰ

各時代ごとの女性史研究では、論点が様々に分かれています。それぞれの論点がどのように研究されてきたのかをこの科目で詳しく学びます。

#### 日本女性史特講Ⅱ

各時代ごとの女性史研究では、論点が様々に分かれています。それぞれの論点がどのように研究されてきたのかをこの科目で詳しく学びます。

#### 古都学Ⅰ

日本古代都城の変遷と各都城の特質を考える。

#### 古都学Ⅱ

平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から考古学的方法により遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる。

#### 日本文化演習Ⅰ

日本の文化への理解を深めるため、まず授業で伝統文化、歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣、料理などに関する文章を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学したり、料理をつくってみたりする。

#### 日本文化演習Ⅱ

日本の文化への理解を深めるため、まず授業で伝統文化、歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣に関する文章（Iよりやや高度な文献）を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学する。

#### 京都産業文化論Ⅰ

京都には日本文化の神髄ともいえる伝統産業や伝統文化が多く息づいている。この授業では、各界の第一線で活躍する人や物、企業や技術にスポットを当て、ゲストスピーカーによるリレー形式で講義を行う。

#### 京都観光論

京都は観光都市として世界観光都市ランキングでも常に上位に位置し、国内外から多くの観光客が訪れる。名所や旧跡、四季折々の風景、工芸品や美術品等、その魅力は多様である。この授業では、京都の観光に携わる業界のゲストスピーカーから、観光業界の最前線を学ぶことができる。

#### 京都産業文化論Ⅱ

京都は先端の産業も非常に発達している。これは、伝統産業が長い歴史の中で紡ぎあげてきた高い技術や、“大学のまち”として栄えてきた研究開発基盤等を背景に、成長してきた成果である。

この授業では、各界の第一線で活躍する企業や技術にスポットを当て、ゲストスピーカーによるリレー形式で講義を行う。

#### 京都総合演習

この科目では、京都が抱える現実的な問題をテーマとして、グループディスカッションを交えながら解決策を導き、プレゼンテーションを行う。本科目は京都に関する幅広い知識を必要とするため、原則「京都産業文化論Ⅰ」「京都観光論」「京都産業文化論Ⅱ」をすべて修得済の学生のみ、受講登録が可能である。

#### 書法Ⅰ

隋・唐代の楷書を中心に、その書美を習得する。隋代から中国初唐にかけて、美しく整った楷書が完成する。そのそれぞれが、個性豊かなものである。楷法の美を追求・表現した書人とその書かれた文字に触れ、書の美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら楷書の本質的な魅力を探る。

#### 書法Ⅱ

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。特に北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を中心として半紙・半切に臨書、厳格な楷法のルールの中においても強い個性を發揮したその魅力に迫る。

#### 書法Ⅲ

高野切第三種を中心として、典型的な平安仮名の魅力に触れ、その技法を研究する。特に平明を爽やかな筆法を学ぶことで、基礎的な力の習得を目指す。

#### 書法Ⅳ

高野切第一種や寸松庵色紙を中心として、自由に展開していく仮名の多様性を学ぶ。特に様々な形式による魅力の変化を知り、その技法を手に入れる。

#### 漢字古典研究Ⅰ

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と時代背景等に関して講述する。漢字古典研究Ⅰでは文字の発生から書体の完成までを取り上げる。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書にとどめる。また古典の研究レポートや臨書に対するコメントなどを課しその書美の理解を深める。

#### 漢字古典研究Ⅱ

書道史上、重要な書人の臨書を中心に授業を展開する。特に作品と書人、時代背景に關しても研究する。漢字古典研究Ⅱでは、書風の変遷を中心として今日の書までを取り上げる。制作と共に古典の鑑賞論などを課し、その美の理解に努める。

#### かな古典研究Ⅰ

歴代のかな古筆の臨書を中心とするかな古典研究Ⅰでは奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深めるために原寸臨書を中心に実習し、時代背景他に關して講述する。

#### かな古典研究Ⅱ

数多くの華やかなかな名筆の臨書を中心とする。かな古典研究Ⅱでは、多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解を深めるため原寸臨書を中心に実習し、時代背景他に關して講述する。

#### 書法Ⅴ

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美的の典型として後生の書の歴史の中心となった。その書の魅力を探り、深め、王羲之書法解析を目指す。

#### 書法Ⅵ

自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美

の典型として後の書人たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を深め、王羲之の影響下で花咲いた多くの個性的な書人たちを研究していく。

#### 書法Ⅶ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。仮名書法の多様な技術を手に入れ、深く研究する。その研究対象の古筆を分析し、その魅力を明らかにしていく。

#### 書法Ⅷ

仮名書法の魅力を探り、その技法を発展的に表現できるための力を養う。特に主要な仮名臨書を通して普遍的な日本の書美の理解を目指す。

#### 作品研究Ⅰ

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。特に自らの研究テーマに応じて、研究し、制作に発展させるため様々な技法を手に入れる。

#### 作品研究Ⅱ

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。特に自らの研究によって手に入れた力を駆使し、アカデミックな書のアプローチで、本格的な自分の書を目指す。

#### 作品研究Ⅲ

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

#### 作品研究Ⅳ

各自の研究テーマに応じて研究対象古典に応じて、多様な表現技法で制作を進める。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、古典を碑とした制作力を身につける。

#### 篆刻Ⅰ

篆刻の歴史を通覧し、その後、印の種類・印式などを順を追つて解説、篆刻に対する理解を深めるとともに、印のあり方を実作を通して習得する。

#### 篆刻Ⅱ

「篆刻Ⅰ」で習得した印の理解の上に立ち、それらを実際に制作し、その技術の習得を目的とする。篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。それ故、普段から篆書に慣れ親しんでおくことが、技術習得の上に重要になってくる。「篆刻Ⅰ」を履修していることが望ましい。

#### 書論・鑑賞Ⅰ

中国書道の代表的な作品群の内容を訓読し、それに関して論じられている書論を読むための基礎的な力をつける。また、多くの書作品を鑑賞し、その力をつける。

#### 書論・鑑賞Ⅱ

中国・日本作品の内容と制作の背勢を研究する。また、それに関する書論を読み、作品を鑑賞し、鑑賞に関するメカニズムを考える。

#### 中国書道史

中国における漢字各書体の生成を概観した後、王羲之とその時代、書法の特質、後代への影響について検討する。続いて隋唐における楷書の典型的確立や代表的能書から、民国期までの能書や作品について考察する。

#### 日本書道史

漢字渡来から、日本人が中国書法を自身のものとする流れを確認するとともに、日本語の表記が成熟する過程、いわゆる上代様

の仮名（女手）の成立について考察する。さらに寛永の三筆や唐様の書を例に取り、近世の京都における独自の書的展開にも言及する。

#### 書論特講a

中国・日本の重要な書論を読み、また、書が時代によってどのように変化してきたかを考える。その作品等関連資料を紹介する。

#### 書論特講b

中国・日本の代表的な書論の読解を通して、書の魅力に対する分析を深め、学術的立場から書を考える。

#### 書論特講c

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文に慣れるとともに、現代の我々にとって「書の本質」とはどのようなものかを考える力を養う。

#### 書論特講d

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文の内容を深く理解することによって、現代の我々にとって「書はどういう芸術か」を考える力を養う。

#### 現代書研究Ⅰ

近百年的日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠を探る。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的技法に習熟する。

#### 現代書研究Ⅱ

調和体と漢字の書を取りあげ、鑑賞・分析・実技を通して作品制作を行う。又、多様で自由な制作にも取り組み、現代的な発想で書をとらえたい。

#### 研究入門ゼミⅠ・Ⅱ（歴史）

I・IIのいずれかが日本史・世界史であり、1回生では各クラスとも必ず日本史・世界史の双方を半期ごとに修めることになっています。最初の学年の間は、日本史・世界史のどちらかだけ、あるいは特定の分野のみに偏ることを避け、幅広く歴史を学んでおくことが望ましいからです。発表とそれに伴うレジュメの作成に習熟する、あるいは文献をしっかりと読み込む姿勢を養う、といった歴史を学ぶ上で必要な基礎訓練を行う場として位置づけられています。

#### 歴史学入門講義

1回生から配当される講義科目です。共通テーマに沿って、歴史学科の教員がそれぞれの時代や地域からふさわしい内容を選び、講義を行います。歴史学のさまざまな分野や研究の動向などを紹介しつつ、幅広く歴史学への門戸を解説します。

#### 日本史基礎ゼミⅠ

日本史コース2回生で履修する基礎ゼミは、IとIIそれぞれにつき古代・中世・近世・近現代と時代別に4つ開講されています。前期でI・後期でIIを履修しますが、IとIIで同一時代の基礎ゼミを連続して履修することはできず、2つの時代にわたるよう選択しなければなりません。2回生になり日本史コースに所属したからといって、ただちに特定の時代・分野に視野を限ってしまうのは望ましくないとの考えに基づく措置です。従ってIとIIの関係は、Iの学習を踏まえていなければIIへは進めない、といった積み上げ式ではありません。いずれの基礎ゼミにおいても基本的な史料の読解が中心であり、そこから歴史学上の問題点を読みとっていくことに主眼を置いています。

#### 日本史基礎ゼミⅡ

日本史コース2回生で履修する基礎ゼミは、IとIIそれぞれにつき古代・中世・近世・近現代と時代別に4つ開講されています。

前期でI・後期でIIを履修しますが、IとIIで同一時代の基礎ゼミを連続して履修することはできず、2つの時代にわたるよう選択しなければなりません。2回生になり日本史コースに所属したからといって、ただちに特定の時代・分野に視野を限ってしまうのは望ましくないとの考えに基づく措置です。従ってIとIIの関係は、Iの学習を踏まえていなければIIへは進めない、といった積み上げ式ではありません。いずれの基礎ゼミにおいても基本的な史料の読解が中心であり、そこから歴史学上の問題点を読みとっていくことに主眼を置いています。

#### 日本史演習Ⅰ

時代ごとに古代、中世、近世、近現代のゼミに分属し、それにおいて4回生時の卒業論文作成のための準備段階としてその基礎訓練を行います。テーマの設定、関連文献の探索、報告発表と討論が中心となります。

#### 日本史演習Ⅱ

時代ごとに古代、中世、近世、近現代のゼミに分属し、それにおいて4回生時の卒業論文作成のための準備段階としてその基礎訓練を行います。テーマの設定、関連文献の探索、報告発表と討論が中心となります。

#### 日本史講読Ⅰ

講読は各時代いずれも、当該時代を研究する上で最も基本となる古文書・記録類の史料を精読します。正確な読解力と史料から歴史を考える力の養成を目標としています。理解を助けるため関連する研究論文・研究書を併用する場合もあります。

#### 日本史講読Ⅱ

講読は各時代いずれも、当該時代を研究する上で最も基本となる古文書・記録類の史料を精読します。正確な読解力と史料から歴史を考える力の養成を目標としています。理解を助けるため関連する研究論文・研究書を併用する場合もあります。

#### 日本史演習Ⅲ

日本史演習Ⅲ・Ⅳは卒業研究科目です。

#### 日本史演習Ⅳ

日本史演習Ⅲ・Ⅳは卒業研究科目です。

#### 卒業研究（歴史）

自ら設定したテーマについて、自ら解決方法を見だし、それを、説得力ある方法で他人に伝達するという、大学で学ぶべき最も重要な能力をつけるのが目標である。専門演習Ⅰ～Ⅲと連携しつつ、卒業研究の完成を目指し、各自の執筆の手助けを行う。なお、すぐれた卒業研究の成果は、学生会誌に掲載される。

#### 東洋史概説Ⅰ

1回生から配当される講義科目です。東アジア世界、イスラム・西アジア世界など、主にヨーロッパ・アメリカを除く世界をとり上げ、歴史を概観します。Iは基本的な問題をとり上げて社会科・地理歴史科教員免許のための概説的知識の修得を図り、IIは各地域の歴史の大きな流れを概観するとともにその特質や研究動向などを掘り下げて、一段深い歴史の理解を図ります。

#### 東洋史概説Ⅱ

1回生から配当される講義科目です。東アジア世界、イスラム・西アジア世界など、主にヨーロッパ・アメリカを除く世界をとり上げ、歴史を概観します。Iは基本的な問題をとり上げて社会科・地理歴史科教員免許のための概説的知識の修得を図り、IIは各地域の歴史の大きな流れを概観するとともにその特質や研究動向などを掘り下げて、一段深い歴史の理解を図ります。

#### 西洋史概説Ⅰ

1回生から配当される講義科目です。主にヨーロッパ・アメリカ世界を扱い、歴史を概観します。Iは基本的な問題をとり上げ

て社会科・地理歴史科教員免許のための概説的知識の修得を図り、Ⅱはヨーロッパ・アメリカ世界の歴史の大きな流れを概観するとともに、その特質や研究動向などを掘り下げて、一段深い歴史の理解と認識を図ります。

#### 西洋史概説Ⅱ

1回生から配当される講義科目です。主にヨーロッパ・アメリカ世界を扱い、歴史を概観します。Ⅰは基本的な問題をとり上げて社会科・地理歴史科教員免許のための概説的知識の修得を図り、Ⅱはヨーロッパ・アメリカ世界の歴史の大きな流れを概観するとともに、その特質や研究動向などを掘り下げて、一段深い歴史の理解と認識を図ります。

#### 考古学概説Ⅰ

考古学の方法と成果についての基本的な知識を解説します。前期Ⅰでは入門編として考古学とは何か、その方法論等を述べ、考古学調査と研究の現状を紹介します。後期Ⅱはその延長です。

#### 考古学概説Ⅱ

考古学の方法と成果についての基本的な知識を解説します。前期Ⅰでは入門編として考古学とは何か、その方法論等を述べ、考古学調査と研究の現状を紹介します。後期Ⅱはその延長です。

#### 古文書学AⅠ（古代・中世）

古文書学の初級と位置づけられ、古代・中世と近世が用意されています。古文書の判読と内容の説解に主眼を置いています。また古文書の様式や歴史学における古文書の役割についても学ぶこととしています。

#### 古文書学AⅡ（古代・中世）

古文書学の初級と位置づけられ、古代・中世と近世が用意されています。古文書の判読と内容の説解に主眼を置いています。また古文書の様式や歴史学における古文書の役割についても学ぶこととしています。

#### 古文書学BⅠ（近世）

古文書学の初級と位置づけられ、古代・中世と近世が用意されています。古文書の判読と内容の説解に主眼を置いています。また古文書の様式や歴史学における古文書の役割についても学ぶこととしています。

#### 古文書学BⅡ（近世）

古文書学の初級と位置づけられ、古代・中世と近世が用意されています。古文書の判読と内容の説解に主眼を置いています。また古文書の様式や歴史学における古文書の役割についても学ぶこととしています。

#### 出土文字資料論

発掘調査などにより新たに発見された遺跡および出土史料とはいかなるものであり、またそれらは歴史学を研究する上でどのような意義を有するのかを、遺跡・出土史料の具体例を挙げつつ考えていく科目です。したがって、文字史料の説解も当然含まれます。初級の古文書学AⅠ・AⅡ（中世）、BⅠ・BⅡ（近世）の古代部門と位置づけられる科目です。

#### 古文書学C（近世）

古文書学の中級です。古文書学AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡを履修した後に履修する科目であり、これまで身につけた古文書学上の知識と能力をさらに深めることを目標にします。

#### 日本史特講a（古代史）

古代（a、b）・中世（c、d）・近世（e、f）と時代別に3つの講義が開講されています。日本史の特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 日本史特講b（古代史）

古代（a、b）・中世（c、d）・近世（e、f）と時代別に3つの講義が開講されています。日本史の特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 日本史特講c（中世史）

古代（a、b）・中世（c、d）・近世（e、f）と時代別に3つの講義が開講されています。日本史の特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 日本史特講d（中世史）

古代（a、b）・中世（c、d）・近世（e、f）と時代別に3つの講義が開講されています。日本史の特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 日本史特講e（近世史）

古代（a、b）・中世（c、d）・近世（e、f）と時代別に3つの講義が開講されています。日本史の特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 日本史特講f（近世史）

古代（a、b）・中世（c、d）・近世（e、f）と時代別に3つの講義が開講されています。日本史の特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 近現代史特講a（日本）

近現代史における個別・専門的な問題につき講義をおこなう。aは主として19世紀を扱い、bは20世紀の問題を扱う。

#### 近現代史特講b（日本）

近現代史における個別・専門的な問題につき講義をおこなう。aは主として19世紀を扱い、bは20世紀の問題を扱う。

#### 近現代史特講c（世界）

欧米史を中心に世界史分野の近現代史について、特定のテーマや問題点について専門的な講義を行います。近現代史に関するより専門的な知識を習得することをめざします。

#### 近現代史特講d（世界）

欧米史を中心に世界史分野の近現代史について、特定のテーマや問題点について専門的な講義を行います。近現代史に関するより専門的な知識を習得することをめざします。

#### 京都の歴史と文化遺産

歴史都市といわれる京都の発展の過程と、そのなかで育まれ継承されてきた史跡（遺跡）・庭園・建造物・歴史的町並み・美術工芸品・祭礼など、多様な歴史遺産の態様とその現状についての理解を深めます。複数の文化財を見学するとともに、文化財保護行政の現場に携わる技師の方々の話を通じて、文化財保護の課題について考える視点と姿勢を学ぶことも目的の一つです。

#### 20世紀の日本と世界

20世紀の日本の歴史を「世界史としての日本近現代史」という観点から概説する。この授業では、第1次世界大戦から1990年の冷戦体制の終焉までの20世紀の日本の歩みを東アジアの国際関係の変容との相関関係の中であとづける。

#### 歴史地理学

歴史地理学は地理学の分野の一つで、歴史時代における地表面上の人文現象を研究対象としています。ここでは、過去の地表面（空間）を分析するための方法論や、日本・世界を研究地域とした

事例研究などが概説される予定です。

#### 現代史研究I

日本史コース及び世界史コースで、より深く現代史を学びたい場合はこの科目を選択して下さい。授業はゼミ形式で行い、Ⅰは日本史分野、Ⅱは世界史分野の学習をします。

#### 現代史研究II

日本史コース及び世界史コースで、より深く現代史を学びたい場合はこの科目を選択して下さい。授業はゼミ形式で行い、Ⅰは日本史分野、Ⅱは世界史分野の学習をします。

#### 女性史研究I

国別や時代別に分かれるのではなく、女性という存在を、歴史的に研究したいと考える学生のための演習授業である。日本史、世界史両コースの学生が集うことで見い出す事が出来る新たな視点や話題を考えいく。

#### 女性史研究II

国別や時代別に分かれるのではなく、女性という存在を、歴史的に研究したいと考える学生のための演習授業である。日本史、世界史両コースの学生が集うことで見い出す事が出来る新たな視点や話題を考えいく。

#### 文化交流史研究I

日本史・世界史の専攻にかかわりなく異文化間の交流や文化伝播のダイナミクスに関心をもっている人は、この授業を選択してください。学習方法は日本史演習Ⅰ～Ⅳ・世界史演習Ⅰ～Ⅳと同様です。

#### 文化交流史研究II

日本史・世界史の専攻にかかわりなく異文化間の交流や文化伝播のダイナミクスに関心をもっている人は、この授業を選択してください。学習方法は日本史演習Ⅰ～Ⅳ・世界史演習Ⅰ～Ⅳと同様です。

#### 世界史特講a（東アジア史I）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講b（東アジア史II）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講c（東アジア史III）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講d（東アジア史IV）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講e（中央・西アジア史I）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、

ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講f（中央・西アジア史II）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講g（中央・西アジア史III）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講h（中央・西アジア史IV）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講i（ヨーロッパ・アメリカ史I）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界史特講j（ヨーロッパ・アメリカ史II）

東アジア（a、b、c、d）、中央西アジア（e、f、g、h）、ヨーロッパ・アメリカ（i、j、k、l）の各地域にわるる最大6つの講義が用意されています。それぞれ特定のテーマや問題点につき専門的な講義を行います。各分野での専門知識の習得に役立ててほしい科目です。

#### 世界女性史特講I

隔年で開講する講義であり、専門的な知識の習得に役立てて欲しい科目です。

#### 世界女性史特講II

隔年で開講する講義であり、専門的な知識の習得に役立てて欲しい科目です。

#### 法学概論I

法学概論Iでは、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていく、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要な事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

#### 政治学概論I

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマ



## 第14章 免許・資格

## 1 取得可能資格一覧

## 遺産情報演習Ⅰ

情報が大量に蓄積し、氾濫する文化遺産にかかる情報について、収集、図化、模型表現する基礎を身につけるとともに、データ集積、分類、解釈の方法を合わせ体得する。

## 歴史遺産調査実習

いろいろな役割を測量や発掘調査が含むことを体で感じ、その中でまず自身が進んで行動できるものを見つけ、そこから発掘技術の修得へと向かう。

## 遺産情報演習Ⅱ

歴史学で扱う材料は文献史料だけではない。現代の歴史学では、考古学の遺跡・構造・遺物、古地図、絵図など、さまざまな歴史遺産的な史料を組み合わせることによって歴史像を復元しようとしている。

## 保存科学Ⅰ

文化財資料を対象とした保存科学の歴史を学び、文化財資料の保存を考える上で必要な様々な調査の目的と方法を学ぶ。

## 保存科学Ⅱ

保存処理の現場の見学も含め、様々な文化財資料を材質ごとに分けて具体的な例も交えながらどのように保存処理・修復するかその理念や方法を学ぶ。

## 法学概論Ⅱ

法学概論Ⅱでは、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初步的な応用力を身につける。

## 政治学概論Ⅱ

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はいかに描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

## 社会学概論Ⅱ

社会学概論Ⅱでは、社会学概論Ⅰでの基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着をめざす。

## 経済学概論Ⅱ

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

資格名称	対象学部・学科	掲載ページ
教育職員免許状	国語（中1種・高1種） 書道（高1種）	130～
	社会（中1種）	
	地理歴史（高1種）	
司書	文学部日本語日本文学科	148
	文学部歴史学科 文学部歴史遺産学科	
	文学部歴史学科 文学部歴史遺産学科	
	文学部全学科	
	社会教育主事	
	日本語教員養成	
2級考古調査士（考古調査士資格認定機構）	文学部歴史学科 文学部歴史遺産学科	156

## 2 教職課程

### (1) 教職課程とは

教職課程とは、教育職員免許法に基づいて授与される教育職員免許状（以下、教員免許状）を取得するための課程です。

大学卒業後、教職につくことを志望する者は、この課程で定められた所定の単位を修得し、都道府県教育委員会に教員免許状授与の申請をしなければなりません。

また、小学校教諭・中学校教諭免許状取得のためには、「介護等体験」が義務づけられています。（（7）参照）

### (2) 履修上の心構え

中等教職課程において、中学校教諭、高等学校教諭両方の教員免許状取得が可能な学科は、在学中に両方の免許状取得を目指すことを原則としています。

所定のすべての単位を修得して教員免許状の交付が受けられても、地方自治体や各私立学校が行う教員採用試験に合格しなければ、教員には採用されません。近年の公立学校の教員採用人数については、たいへん厳しいものがあります。

教職課程履修にあたっては、適性と将来の計画についてよく考え、教員になろうとする強い意志と努力が必要であり、実際に教職につくことを志望する人のみが履修するようにしてください。

教員免許状を単に資格のひとつとしてとらえることは、教育の軽視であり、教育実習校・生徒たちや介護等体験先に多大な迷惑をかける結果となります。

加えて、教職課程必修科目の履修が、時間割上の制約のため、卒業に必要な科目の選択を狭めることになります。

### (3) 免許状の種類および教科

本学で取得できる教員免許状の種類および教科

学部・学科		免許状の種類	免許状の教科
文学部	日本語 日本文学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	国語 国語 書道
	歴史学科 および 歴史遺産学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	社会 地理歴史
	国際英語学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	英語 英語
国際部	児童教育学科	小学校教諭1種免許状 幼稚園教諭1種免許状	
現代社会部	経営学学科 および 都市環境デザイン学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	社会 公民
保健学部	心理学科	高等学校教諭1種免許状	公民

### (4) 基礎資格および最低修得単位数

教員免許状を取得するには、基礎資格を有し表1および表2のとおり最低必要単位数を修得しなければなりません。

#### 教育職員免許法別表第1関係（最低必要単位数）

（表1）

所要資格 免許状の種類	基礎資格	最低取得単位数			合計単位数	
		科目				
		教職に関する科目 <sup>※1</sup>	教科又は教職に関する科目 <sup>※2</sup>	教科に関する科目 <sup>※3</sup>		
幼稚園教諭1種免許状	学士の学位を有すること	35	10	6	51	
小学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること	41	10	8	59	
中学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること	31	8	英語20 国語20 社会20	59	
高等学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること	23	16	英語20 国語20 書道20 地理歴史20 公民20	59	

#### ※1 教職に関する科目（（8）表3）

「教職に関する科目」は、教員免許状取得希望者は全員履修しなければなりません。

#### ※2 教科又は教職に関する科目（（8）表4）

「教科又は教職に関する科目」は、「教職に関する科目」、「教科に関する科目」および「教科又は教職に関する科目」の3分野から、合計で8または16単位を修得しなければなりません。

#### ※3 教科に関する科目（（8）表5）

「教科に関する科目」は、取得希望の教員免許状の教科ごとに履修科目が定められています。

### 教育職員免許法施行規則第66条の6関係

#### 文学部（表2）

施行規則による科目名	法定単位	本学開設科目名	単位	種別
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修
体育	2	体育理論	2	必修
外国語コミュニケーション	2	英語IA	1	必修
		英語IB	1	必修
情報機器の操作	2	情報処理演習I	1	必修
		情報処理演習II	1	必修

国際英語学部（表2）

施行規則による科目名	法定単位	本学開設科目名	単位	種別
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修
体育	2	体育理論	2	必修
		スポーツコース I	1	1単位選択必修
		スポーツコース II	1	
外国語コミュニケーション	2	中国語 I	2	2単位選択必修
		観光英語	2	
情報機器の操作	2	情報処理演習 I	1	必修
		情報処理演習 II	1	必修

現代ビジネス学部（表2）

施行規則による科目名	法定単位	本学開設科目名	単位	種別
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修
体育	2	体育理論	2	必修
		スポーツコース I	1	経営学科のみ、1単位選択必修
		スポーツコース II	1	
外国語コミュニケーション	2	英語 I A	1	必修
		英語 I B	1	必修
情報機器の操作	2	情報処理演習 I	1	必修
		情報処理演習 II	1	必修

健康科学部心理学科（表2）

施行規則による科目名	法定単位	本学開設科目名	単位	種別
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修
体育	2	体育理論	2	必修
		スポーツコース I	1	1単位選択必修
		スポーツコース II	1	
外国語コミュニケーション	2	English Literacy I	1	必修
		English Communication I	1	必修
情報機器の操作	2	情報処理演習 I	1	必修
		情報処理演習 II	1	必修

## （5）教職課程の履修方法

教職課程を履修しようとする者は、1回生から4回生まで、さまざまな手続きやガイダンスへの出席が必要です。諸手続きを行わない場合は、履修意志がないものとみなし、教職関係科目の履修ができなくなりますので注意してください。

### ① 教職課程履修登録

1回生の4月に「教職課程履修希望票」を提出し、教職課程履修者として登録してください。

### ② 各科目の登録について

受講登録の際に、各自が必要な科目を登録してください。科目によっては履修条件が付されている場合がありますので、履修の手引きやシラバス等で事前に確認する必要があります。

### ③ 教職課程履修の辞退・変更について

教職課程の履修を辞退または取得希望免許種の変更をする場合は、学務第2課へ「教職課程履修辞退・免許種変更届」を提出しなければなりません。

### ④ 各種連絡について

教職課程（介護等体験に関するものも含む）に関する上記以外の日程等連絡事項は、資格関係掲示版で通知します。常に掲示板には注意をはらうようにしてください。

### ⑤ 必要な費用

教育実習を受ける際には、実習校に対する教育実習委託費や、保険料・消耗品費などが必要です。また、交通費、食費等は実習生負担となります。（詳細は、実習時に通知します）。また、免許状申請時には所定の手続きおよび、申請料、手数料等の納入が必要です。

### ⑥ 感染症の予防について

教育実習や介護等体験に際し、麻疹等の抗体検査・ワクチン接種が求められることがあります。

## （6）教員免許状を取得するまで

### 1回生

時期	予定	概要
4月	教職課程履修ガイダンス	「教職課程履修希望票」を提出し、教職課程履修者として登録
	受講登録	教職課程で必要な科目を登録
1月	教職ガイダンス	次年度の履修に向けたガイダンスに参加
3月	受講登録	教職課程で必要な科目を登録

### 2回生

時期	予定	概要
8月～9月	教育実習に向けた準備	教育実習を依頼したい学校（母校など）について調査 ・教育実習生を受け入れているか ・受け入れてくれる教科は何か ・実習時期・期間はどれくらいか
1月	介護等体験申込ガイダンス	中学校の免許状取得に必須のため3回生での参加に向けて申込
	教職ガイダンス	次年度の履修に向けたガイダンスに参加
3月	成績確認	2回生終了時の累計GPAが基準（2.3）以上であることを確認 ※基準値2.3を下回ると、在学中の免許状取得が不可能
	受講登録	3回生終了時までに修得が必要な科目に注意しながら登録

## 3回生

時 期	予 定	概 要
4月	健康診断	介護等体験参加には、健康診断証明書が必要
	教育実習内諾ガイダンス	内諾方法を確認し内諾活動を開始
4月～5月	介護等体験事前指導	事前指導を3回受講
6月～7月	介護等体験参加	指定された日時・場所にそれぞれ体験に参加
7月	教育実習反省会①	4回生の実習報告を聞き学ぶ
	介護等体験報告会①	体験の内容・学びを共有
11月	教育実習ガイダンス	実習に向けた指導
	教育実習反省会②	4回生の実習報告を聞き学ぶ
	介護等体験報告会②	体験の内容・学びを共有
1月	教育実習ガイダンス	実習に向けた指導
3月	成績確認	3回生終了時の累計GPAが基準(2.3)以上であることを確認 ※基準値2.3を下回ると、在学中の免許状取得が不可能 ※内諾を得た実習予定校へ辞退手続きが必要
	受講登録	教職課程で必要な科目の修得状況を再度確認しながら登録

## 4回生

時 期	予 定	概 要
4月	健康診断	教育実習実施には健康診断書が必要
	教育実習事前ガイダンス	実習に必要な書類の確認、最後の指導
5月～	教育実習実施	それぞれ必要な期間の実習を実施
7月	教育実習反省会①	実習内容・学びを共有
11月	教員免許状授与申請ガイダンス	申請書・申請料を確認し期限までに大学に提出(現行1免許につき3,500円)
	教育実習反省会②	実習内容・学びを共有
3月	卒業判定・成績の確認	卒業が確定し、かつ免許状に必要な科目を全て修得したか確認
	教員免許状交付	卒業式前日に交付

## (7) 介護等体験

小学校教諭1種免許状及び中学校教諭1種免許状取得のための必要要件として、所定の単位の修得以外に、法令により、介護等体験が義務づけられています。

介護等体験の概要は以下のとおりです。

- 【趣旨】「個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることを重要視し、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期すること」を目的としています。
- 【内容】盲学校、聾学校、養護学校(以下、特別支援学校という)の児童・生徒や、社会福祉施設での障害者、高齢者等の施設利用者に対する介護、介助等(満18才になってからの体験で、文部科学省・厚生労働省で認められた施設での体験でなければなりません)。
- 【期間】免許状申請時までに7日間以上の体験が必要です(7日間以上の介護等体験実施の証明書が必要)。体験期間7日間の内訳は、特別支援学校で2日間以上、社会福祉施設で5日間以上とされています。

児童教育学科の児童教育コースの学生は、「保育実習Ⅰ～Ⅱ」の施設実習を社会福祉施設(5日間)の体験とみなすことができます。従って、児童教育コースの学生は特別支援学校(2日間)での体験のみ必要となります。

【介護等体験施設】介護等体験は大学をとおして申込手続をしてください(学生個人で直接申込することはできません)。特別支援学校の場合は各都道府県教育委員会経由で、社会福祉施設の場合は各都道府県社会福祉協議会を経由して、実施施設の決定がされます。

【体験証明書】体験実施の証明書を教員免許状申請時(4回生時10月頃)に教員免許状授与申請書に添付しなければなりません。

【適用除外】1)既に、中学校教諭や小学校教諭の免許状を取得済みの場合。  
2)既に、看護師、保健師、社会福祉士、介護福祉士等の免許や資格を有する場合。  
3)学生自身が、1級から6級の身体障害者として認定されている場合。

【実施回数】介護等体験実施回数は、児童教育学科は2回生、その他の学科生は3回生とします。

## ① 介護等体験に参加するには

- 1) 介護等体験実施前年度末(2回生終了時)までに「福祉とボランティア」を修得済みであること。
- 2) 介護等体験参加年度当初の『定期健康診断』を受診していること。
- 3) 介護等体験ガイダンス等に出席していること。申し込みを行っても、必要なガイダンスに出席していない場合、介護等体験には参加できません。
- 4) 以下の介護等体験諸費用を大学をとおして受入機関等に納入すること(いったん納入された諸費用は返金されません)。

上記1)～4)の各事項を満たしていない場合、介護等体験に参加できない場合があります。また、麻疹等の抗体検査が必要となる場合もあります。

## 1. 実施費用

- a) 社会福祉施設: 8,100円～(学生実費負担)  
→実施都道府県により異なります。  
食費・交通費は含みません。

- b) 養・聾・盲学校(=特別支援学校): 各都道府県により異なります。

## 2. 保険

学生教育研究災害傷害保険(学研災)および学研災付帯賠償責任保険(学研賠)に、大学で一括加入しています。したがって、介護等体験中に、学生本人に災害傷害が発生したり、他人にけがをさせたり、他人の物を破損したりした場合、保険が適用されます。

## 3. 検便等検査報告書の提出(現行費用約500～約2,000円)(学生実費負担)

受入施設により、検便や細菌培養検査等の検査結果報告書の提出が求められる場合があります。

## 4. 麻疹等抗体検査結果報告書の提出

受入施設により、麻疹等の抗体検査結果の報告が求められる場合があります。

## ② 介護等体験必読文献

以下2点を事前学習のための必読テキストとします。

生協等一般書店で購入できます。購入申込手続は各自で行ってください。

- ①『特別支援学校における介護等体験ガイドブックフィリア』  
全国特別支援学校長会編著 933+税 (現行)
  - ②『よくわかる社会福祉施設教員免許志願者のためのガイドブック』  
社会福祉法人全国社会福祉協議会 600+税 (現行)

## (8) 教職課程のカリキュラム表と履修にあたっての注意事項（中等教職課程用）

### 教職に関する科目（各学科共通）（表3）

注1) 本学基準の教職に関する科目（表3）の合計単位数（各学校種ごと）の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目（表4）の単位数に含まれます。

注2) 高等学校教諭免許状取得希望者が「道徳教育の理論と方法」を修得した場合、教科又は教職に関する科目（表4）の単位となります。

注3) 中等教育課程を履修する学生は、[ ]の科目は、時間割において、科目名の後に（初）と表記のある科目を履修することはできません。

## 履修にあたっての注意事項（中等教職課程用）

### — 教職に関する科目（表3）についての注意事項 —

- ① 教職に関する科目表の配当回生欄に記載どおり、1回生から履修可能です。1回生から計画的に履修するようしてください。

② 「道徳教育の理論と方法」は、中学校教諭1種免許状を取得する場合に限り必修です。

③ 教科教育法は、希望する免許状の教科ごとに当該教科教育法（下記に定める科目および単位数）を3回生を終了するまでに修得しなければなりません。

1) 中学校教諭1種免許状：当該教科教育法Ⅰ・Ⅱ（必修）、および当該教科教育法ⅢまたはⅣのいずれか1科目（選択必修）。合計6単位以上。

2) 高等学校教諭1種免許状：当該教科教育法Ⅰ・Ⅱ（必修）、合計4単位以上。

④ 教科教育法を受講するためには下記の受講資格基準を満たさなければなりません。

1) 2回生終了時の累計GPAが、2.3以上であること。

2) 各種教職ガイダンス出席者であること。

⑤ 「教育実習Ⅰ」および「教育実習Ⅱ」は、希望する免許状の学校種により、下記に定める科目および単位数を修得しなければなりません。

1) 中学校教諭1種免許状：「教育実習Ⅰ（2単位）」および「教育実習Ⅱ（3単位）」合計5単位

2) 高等学校教諭1種免許状：「教育実習Ⅱ（3単位）」

⑥ 「教育実習Ⅰ」を受講するためには下記の受講資格基準を満たさなければなりません。

1) 3回生終了時の累計GPAが、2.3以上であること。

2) 「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ（4回生配当）」および「教職実践演習」以外の教職に関する科目の内、必修科目および選択必修科目のすべてを3回生終了時までに修得済み、あるいは実習年度に履修中であること。  
ただし、履修中科目は2単位までを上限とし、各教科教育法については修得済みであること。

3) 各種教職ガイダンス出席者であること。

⑦ 「教育実習Ⅱ」は、3回生、4回生の2年間履修とします。

⑧ 「教育実習Ⅱ（3回生配当：教育実習事前指導に該当）」を受講するためには下記の受講資格基準を満たさなければなりません。

1) 2回生終了時の累計GPAが、2.3以上であること。

2) 各種教職ガイダンス出席者であること。

⑨ 「教育実習Ⅱ（4回生配当：教育実習および教育実習事後指導に該当）」を受講するためには下記の受講資格基準を満たさなければなりません。

1) 3回生終了時の累計GPAが、2.3以上であること。

2) 「教育実習Ⅱ（4回生配当）」、「教育実習Ⅰ」および「教職実践演習」以外の教職に関する科目の内、必修科目および選択必修科目のすべてを3回生終了時までに修得済み、あるいは実習年度に履修中であること。  
ただし、履修中科目は2単位までを上限とし、各教科教育法については修得済みであること。

3) 各種教職ガイダンス出席者であること。

## 教科又は教職に関する科目

文学部・国際英語学部・現代ビジネス学部 (表4)

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	種別		配当回生	備考
				必修	選択必修		
教科又は教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	中 8 高 16	福祉とボランティア(2)	<input checked="" type="radio"/>		1~	高校1種のみ 「国語」のみ
			人権と教育(2)		<input checked="" type="radio"/>	2~	
			道徳教育の理論と方法(2)		<input type="radio"/>	2~	
			学校経営と学校図書館(2)		<input type="radio"/>	2~	
			学校図書館メディアの構成(2)		<input type="radio"/>	2~	
			学習指導と学校図書館(2)		<input type="radio"/>	2~	
			読書と豊かな人間性(2)		<input type="radio"/>	2~	
			情報メディアの活用(2)		<input type="radio"/>	2~	
			日本語教授法I(2)		<input type="radio"/>	2~	
			日本語教授法II(2)		<input type="radio"/>	2~	
			日本語教授法III(2)		<input type="radio"/>	3~	
			日本語教授法IV(2)		<input type="radio"/>	3~	

注1) 「福祉とボランティア(2単位)」および「人権と教育(2単位)」は中学校および高等学校教諭1種免許状の必修科目です。

注2) 「日本語教授法I・II・III・IV」は、中学校および高等学校教諭1種免許状教科国語に対してのみ、教科又は教職に関する科目として認められます。

注3) 教職に関する科目(表3)と教科に関する科目(表5)の本学基準から法定基準を引いた単位を教科又は教職に関する科目の単位数としてみなすことができます。したがって(表3)と(表5)の本学基準を満たせば(表4)においては、「福祉とボランティア」「人権と教育」以外は履修の必要がありません。

注4) 国際英語学部の学生は、以下の科目は含まれません。

- ・学校経営と学校図書館
- ・学校図書館とメディアの校正
- ・学習指導と学校図書館
- ・読書と豊かな人間性
- ・情報メディアの活用

健康科学部心理学科 (表4)

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	種別		配当回生	備考
				必修	選択必修		
教科又は教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	高 16	人権と教育(2)	<input checked="" type="radio"/>		2~	
			学校経営と学校図書館(2)		<input type="radio"/>	2~	
			学校図書館メディアの構成(2)		<input type="radio"/>	2~	
			学習指導と学校図書館(2)		<input type="radio"/>	2~	
			読書と豊かな人間性(2)		<input type="radio"/>	2~	
			情報メディアの活用(2)		<input type="radio"/>	2~	

注1) 「人権と教育(2単位)」は高等学校教諭1種免許状の必修科目です。

注2) 教職に関する科目(表3)と教科に関する科目(表5)の本学基準から法定基準を引いた単位を教科又は教職に関する科目の単位数としてみなすことができます。したがって(表3)と(表5)の本学基準を満たせば「人権と教育」以外は履修の必要がありません。

### 教科に関する科目(表5)についての注意事項

- ① 教科に関する科目は、免許状の種類・教科ごとに履修科目を定めており、所定の科目の必要単位を卒業するまでに修得しなければなりません。1回生から計画的に履修するようにしてください。

## 教科に関する科目(表5)

教科: 国語(文学部 日本語日本文学科)

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(国語)	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む)	中10 高14	日本語学概説I(2) 日本語学概説II(2) 文芸創作演習(2) アカデミックライティング(2) 日本語学講義III(社会言語学)(2) 日本語学講義I(日本語文法)(2) 日本語学講義II(日本語文法)(2) 日本語学講義IV(日本語史)(2)	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	中学1種は6単位 高校1種は10単位 選択必修
	国文学(国文学史を含む)	中8 高12	日本文学史I(2) 日本文学史II(2) 古典文学講義I(平安)(2) 古典文学講義II(平安)(2) 古典文学講義III(中世)(2) 古典文学講義IV(中世)(2) 近現代文学講義I(2) 近現代文学講義II(2) 近現代文学講義III(2) 近現代文学講義IV(2)	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	
	漢文学	2	漢文学I(2) 漢文学II(2)		<input type="radio"/>	2単位選択必修
	書道(書写を中心とする)	中2	中学書写I(1) 中学書写II(1)		<input type="radio"/>	中学1種のみ必修
	合計単位数		法定: 中学校20単位以上、高等学校20単位以上 本学基準: 中学校22単位以上、高等学校28単位以上			

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 選択必修の内、中学校教諭1種免許状のみに必修となる科目があります。(備考欄参照)

注3) 本学基準の教科に関する科目の合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

教科: 書道(文学部 日本語日本文学科)

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(書道)	書道(書写を含む)	14	書法I(1) 書法II(1) 書法III(1) 書法IV(1) 書法V(1) 書法VI(1) 漢字古典研究I(2) 漢字古典研究II(2) かな古典研究I(2) かな古典研究II(2)	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	2単位選択必修
	書道史	4	日本書道史(2) 中国書道史(2)		<input type="radio"/>	
	「書論、鑑賞」	4	書論・鑑賞I(2) 書論・鑑賞II(2)		<input type="radio"/>	
	「国文学、漢文学」	6	日本文学史I(2) 日本文学史II(2) 古典文学講義I(平安)(2) 古典文学講義III(中世)(2) 近現代文学講義I(2) 近現代文学講義III(2) 漢文学I(2) 漢文学II(2)	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	
	合計単位数		法定: 高等学校20単位以上 本学基準: 高等学校28単位以上			

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 「漢文学I」、「漢文学II」は、教育職員免許状取得の際の自由選択科目として位置づけられ、必ずしも免許状取得に必要な科目ではありません。

注3) 本学基準の教科に関する科目の合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

## 教科：社会〈文学部 歴史学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(社会)	日本史及び外国史	12	日本史概説Ⅰ(2) 日本史概説Ⅱ(2) 東洋史概説Ⅰ(2) 西洋史概説Ⅰ(2) 東洋史概説Ⅱ(2) 西洋史概説Ⅱ(2) 日本史基礎ゼミⅠ(2) 日本史基礎ゼミⅡ(2) 世界史基礎ゼミⅠ(2) 世界史基礎ゼミⅡ(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	4単位選択必修
	地理学(地誌を含む)	4	地理学概論(2) 地誌(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>		
	「法律学、政治学」	2	法学概論Ⅰ(2) 政治学概論Ⅰ(2)	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	2単位選択必修	
	「社会学、経済学」	2	社会学概論Ⅰ(2) 経済学概論Ⅰ(2)	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	2単位選択必修	
	「哲学、倫理学、宗教学」	2	哲学概論(2) 倫理学概論(2) 宗教学概論(2)	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	2単位選択必修	
	合計単位数	法 定：中学校20単位以上 本学基準：中学校22単位以上				

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 本学基準の教科に関する科目的合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

## 教科：地理歴史〈文学部 歴史学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(地理歴史)	日本史	12	日本史概説Ⅰ(2) 日本史概説Ⅱ(2) 歴史学入門講義(2) 日本史基礎ゼミⅠ(2) 日本史基礎ゼミⅡ(2) 日本史講読Ⅰ(2) 日本史講読Ⅱ(2) 考古学概説Ⅰ(2) 考古学概説Ⅱ(2) 日本美術史Ⅰ(2) 日本美術史Ⅱ(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	6単位選択必修
	外国史	10	東洋史概説Ⅰ(2) 西洋史概説Ⅰ(2) 東洋史概説Ⅱ(2) 西洋史概説Ⅱ(2) 世界史基礎ゼミⅠ(2) 世界史基礎ゼミⅡ(2) 世界史講読Ⅰ(2) 世界史講読Ⅱ(2) 東洋美術史(2) 西洋美術史(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	6単位選択必修
	人文地理学及び自然地理学	4	人文地理学(2) 自然地理学(2) 歴史地理学(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	地誌	2	地誌(2)	<input checked="" type="radio"/>		
	合計単位数	法 定：高等学校20単位以上 本学基準：高等学校28単位以上				

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 本学基準の教科に関する科目的合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

## 教科：社会〈文学部 歴史遺産学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(社会)	日本史及び外国史	12	日本史概説Ⅰ(2) 日本史概説Ⅱ(2) 東洋史概説Ⅰ(2) 西洋史概説Ⅰ(2) 日本美術史Ⅰ(2) 日本美術史Ⅱ(2) 東洋美術史(2) 西洋美術史(2) 考古学研究Ⅰ(2) 美術工芸史研究Ⅰ(2) 歴史遺産総合演習Ⅰ(2) 歴史遺産総合演習Ⅱ(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	4単位選択必修
	地理学(地誌を含む)	4	地理学概論(2) 地誌(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>		
	「法律学、政治学」	2	法学概説Ⅰ(2) 政治学概説Ⅰ(2)	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	2単位選択必修	
	「社会学、経済学」	2	社会学概説Ⅰ(2) 経済学概説Ⅰ(2)	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	2単位選択必修	
	「哲学、倫理学、宗教学」	2	哲学概説(2) 倫理学概説(2) 宗教学概説(2)	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	2単位選択必修	
	合計単位数	法 定：中学校20単位以上 本学基準：中学校22単位以上				

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 本学基準の教科に関する科目的合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

## 教科：地理歴史〈文学部 歴史遺産学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(地理歴史)	日本史	14	日本史概説Ⅰ(2) 日本史概説Ⅱ(2) 歴史遺産総合演習Ⅰ(2) 歴史遺産総合演習Ⅱ(2) 日本美術史Ⅰ(2) 日本美術史Ⅱ(2) 考古学研究Ⅰ(2) 考古学研究Ⅱ(2) 美術工芸史研究Ⅰ(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	6単位選択必修
	外国史	8	東洋史概説Ⅰ(2) 西洋史概説Ⅰ(2) 東洋史概説Ⅱ(2) 西洋史概説Ⅱ(2) 東洋美術史(2) 西洋美術史(2) 美術工芸史研究Ⅱ(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	4単位選択必修
	人文地理学及び自然地理学	4	人文地理学(2) 自然地理学(2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>		
	地誌	2	地誌(2)	<input checked="" type="radio"/>		
	合計単位数	法 定：高等学校20単位以上 本学基準：高等学校28単位以上				

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 本学基準の教科に関する科目的合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

## 教科：英語〈国際英語学部 国際英語学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(英語)	英語学	4	英語学A (2) 英語学B (2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>		
	英米文学	4	英語圏文学A (2) 英語圏文学B (2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>		
	英語コミュニケーション	中8 高12	Advanced English Communication A (2) Advanced English Communication B (2) Advanced English Communication C (2) Advanced English Communication D (2) Career English I (1) Career English II (1) Career English III (1) 翻訳演習 (2) 通訳演習 (2) 観光英語 (2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>		高校1種のみ 4単位選択必修
	異文化理解	中6 高8	多文化コミュニケーションA (2) 多文化コミュニケーションB (2) 英語圏文化論A (2) 英語圏文化論B (2) 英語圏文化論C (2) 比較文化論 (2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	高校1種のみ必修 高校1種のみ必修 中学1種のみ2単位選択必修
	合計単位数		法 定:中学校20単位以上、高等学校20単位以上 本学基準:中学校22単位以上、高等学校28単位以上			

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 選択必修の内、高等学校教諭1種免許状のみに必修となる科目があります。(備考欄参照)

注3) 本学基準の教科に関する科目の合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

## 教科：社会〈現代ビジネス学部 経営学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(社会)	日本史及び外国史	8	日本史概説 I (2) 日本史概説 II (2) 東洋史概説 I (2) 西洋史概説 I (2) 経済と経営の歴史 (2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	
	地理学(地誌を含む)	4	地理学概論 (2) 地誌 (2) 経済地理学 (2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	
	「法律学、政治学」	4	法学概論 I (2) 政治学概論 I (2) 法学概論 II (2) 政治学概論 II (2) 公共政策論 現代企業と法 I (2) 現代企業と法 II (2) 自治体経営論 (2) 行政法 (2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	
	「社会学、経済学」	6	社会学概論 I (2) 経済学 I (2) 経済学 II (2) 社会学概論 II (2) 経営戦略論 I (2) マーケティング論 I (2) マーケティング論 II (2) 現代企業論 I (2) 現代企業論 II (2) 企業と産業の経済学 (2) 非営利組織論 (2) 社会問題論 (2) グローバル経済論 (2) 財政学 (2) 金融論 (2)	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	
	「哲学、倫理学、宗教学」	2	哲学概論 (2) 倫理学概論 (2) 宗教学概論 (2)		<input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>	2単位選択必修
	合計単位数		法 定:中学校20単位以上 本学基準:中学校24単位以上			

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 本学基準の教科に関する科目の合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

教科：公民 〈現代ビジネス学部 経営学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目(公民)	「法律学(国際法を含む)、政治学(国際政治を含む)」	12	法学概論Ⅰ(2) 法学概論Ⅱ(2) 政治学概論Ⅰ(2) 政治学概論Ⅱ(2) 公共政策論(2) 現代企業と法Ⅰ(2) 現代企業と法Ⅱ(2) 自治体経営論(2) 行政法(2)	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	国際法を含む 国際政治を含む 4単位選択必修
	「社会学、経済学(国際経済を含む)」	14	社会学概論Ⅰ(2) 社会学概論Ⅱ(2) 経済学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2) 経営戦略論Ⅰ(2) マーケティング論Ⅰ(2) マーケティング論Ⅱ(2) 現代企業論Ⅰ(2) 現代企業論Ⅱ(2) 企業と産業の経済学(2) 非営利組織論(2) 社会問題論(2) グローバル経済論(2) 財政学(2) 金融論(2)	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	国際経済を含む 6単位選択必修
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	2	哲学概論(2) 倫理学概論(2) 宗教学概論(2) 心理学概論(2)		○ ○ ○ ○	2単位選択必修
合計単位数		法 定:高等学校20単位以上 本学基準:高等学校28単位以上				

教科：社会 〈現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目(単位数)	必修	選択必修	備考
教科に関する科目 (社会)	日本史及び外国史	8	日本史概説Ⅰ(2) 日本史概説Ⅱ(2) 東洋史概説Ⅰ(2) 西洋史概説Ⅰ(2) 東洋史概説Ⅱ(2) 西洋史概説Ⅱ(2) 都市建築文化史Ⅰ(2) 都市建築文化史Ⅱ(2)	◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○	
	地理学(地誌を含む)	4	地理学概論(2) 地誌(2) 自然地理学(2) 人文地理学(2)	○ ○	○ ○	
	「法律学、政治学」	2	法学概論Ⅰ(2) 法学概論Ⅱ(2) 政治学概論Ⅰ(2) 政治学概論Ⅱ(2) 民法(2) 行政法(2) 行政学研究(2) 法律学研究(2)		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2単位 選択必修
	「社会学、経済学」	2	社会学概論Ⅰ(2) 社会学概論Ⅱ(2) 経済学概論Ⅰ(2) 経済学概論Ⅱ(2)		○ ○ ○ ○	2単位 選択必修
	「哲学、倫理学、宗教学」	2	哲学概論(2) 倫理学概論(2) 宗教学概論(2)		○ ○ ○	2単位 選択必修
合計単位数			法 定:中学校20単位以上 本学基準:中学校22単位以上			さらに選択必修科目から4単位以上修得 (注2)

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 本学基準の教科に関する科目の合計単位数（各学校種ごと）の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目（表4）の単位数に含まれます。

主1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

2) 必修科目と備考欄に記載された選択必修科目の必要単位を修得したうえ、さらに2科目4単位を修得し、上表から合計22単位以上修得しなければなりません。

3) 大学基準の教科に関する科目の合計単位数（各学年種類ごと）の中、決定単位数を超える単位については、各学年種類ごと

注3) 本学基準の教科に関する科目の合計単位数(各学校種ごと)の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目(表4)の単位数に含まれます。

## 教科：公民〈現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目（単位数）	必修	選択必修	備考
教科に関する科目（公民）	「法律学（国際法を含む）、政治学（国際政治を含む）」	8	法学概論Ⅰ（2） 法学概論Ⅱ（2） 政治学概論Ⅰ（2） 政治学概論Ⅱ（2） 民法（2） 行政法（2） 行政学研究（2） 法律学研究（2）	◎ ◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○		国際法を含む 国際政治を含む
	「社会学、経済学（国際経済を含む）」	8	社会学概論Ⅰ（2） 社会学概論Ⅱ（2） 経済学概論Ⅰ（2） 経済学概論Ⅱ（2） 文化経済・政策論（2）	◎ ◎ ◎ ◎ ○		国際経済を含む
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	2	哲学概論（2） 倫理学概論（2） 宗教学概論（2） 心理学概論（2）	○ ○ ○ ○		2単位 選択必修
合計単位数			法 定：高等学校20単位以上 本学基準：高等学校28単位以上			

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 必修科目と備考欄に記載された選択必修科目的必要単位を修得したうえ、さらに5科目10単位を修得し、上表から合計28単位以上修得しなければなりません。

注3) 本学基準の教科に関する科目的合計単位数（各学校種ごと）の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目（表4）の単位数に含まれます。

## 教科：公民〈健康科学部 心理学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目（単位数）	必修	選択必修	備考
教科に関する科目（公民）	「法律学（国際法を含む）、政治学（国際政治を含む）」	6	法学概論Ⅰ（2） 法学概論Ⅱ（2） 政治学概説（2）	◎ ◎ ◎		国際法を含む 国際政治を含む
	「社会学、経済学（国際経済を含む）」	6	社会学概論Ⅰ（2） 社会学概論Ⅱ（2） 経済学概説（2）	◎ ◎ ◎		国際経済を含む
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	18	哲学概論（2） 倫理学概論（2） 宗教学概論（2） 心理学概論Ⅰ（2） 心理学概論Ⅱ（2） 臨床心理学概論（2） 心理学研究法Ⅰ（2） 心理学研究法Ⅱ（2） 発達心理学Ⅰ（2） 発達心理学Ⅱ（2） コミュニティ心理学（2） 社会・集団・家族心理学Ⅰ（2） 社会・集団・家族心理学Ⅱ（2） 対人援助論（2） 知覚・認知心理学（2） 感情・人格心理学（2） 学習・言語心理学（2）	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		2単位選択必修 16単位選択必修
合計単位数			法 定：高等学校20単位以上 本学基準：高等学校30単位以上			

注1) 必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。

注2) 本学基準の教科に関する科目的合計単位数（各学校種ごと）の内、法定単位数を超える単位については、各学校種ごとに必要な教科又は教職に関する科目（表4）の単位数に含まれます。

## 3 司書課程

司書とは、地方公共団体の設置する公立図書館、または法人の設置する私立図書館において、図書資料の収集・整理・保管や利用者サービス等に従事する専門職です。

司書資格は、大学において所定の図書館に関する科目を履修した者に授与されます（図書館法第5条第1項）。

### （1）司書課程の履修方法

司書となる資格を得るために必要な科目は、図書館法施行規則（第1条）に規定されています。本学ではこれに基づいて司書課程の履修方法を規定しています。

併せて本学の司書資格取得には登録が必要です。登録については、3回生の4月初旬に行う資格ガイダンス時に登録用紙を配布いたしますので、定められた期間に登録してください。

#### 履修にあたっての注意事項

- ① 本学基準の必修科目のすべてと選択必修科目より2単位を修得すれば、司書資格に必要な単位を満たすことができます。
- ② 「図書館実習」の受講にあたっては、2回生終了時のGPAが2.3以上あり、「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」「図書館サービス概論」「情報サービス論」「児童サービス論」「図書館情報資源概論」「情報資源組織論」を実習前年度までに修得済みであること。詳細については、各年度のガイダンス時にお知らせします。
- ③ なお、本資格科目の受講登録に際しては、下記の内容に注意してください。
  - ・「情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱ」は、「情報資源組織論」を履修済みであることが望ましい。
  - ・「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ」は、「情報サービス論」を履修済みであることが望ましい。
  - ・「図書館施設論」は、「図書館概論」又は「図書館サービス概論」を履修済みであることが望ましい。
  - ・「図書館情報資源特論」は、「児童サービス論」を履修済みであることが望ましい。

### （2）司書資格証明書の授与

本学を卒業し、司書課程の所定の単位を修得した者には「司書資格証明書」を授与します。司書資格取得の可否通知は、卒業認定通知等の発表と同時に行います。

証明書の交付は、卒業時に行います。

### （3）図書館に関する科目

司書資格を取得するためには、大学を卒業した上に、次の表にしたがい科目を修得しなければなりません。

法定基準			本学基準							
種別	科目名	単位	種別	科目名	単位	配当回生	備考			
必修	生涯学習概論	2	必修	生涯学習概論Ⅰ	2	1~				
	図書館概論	2		図書館概論	2	1~				
	図書館制度・経営論	2		図書館制度・経営論	2	2~				
	図書館情報技術論	2		図書館情報技術論	2	2~				
	図書館サービス概論	2		図書館サービス概論	2	2~				
	情報サービス論	2		情報サービス論	2	2~				
	児童サービス論	2		児童サービス論	2	2~				
	情報サービス演習	2		情報サービス演習Ⅰ	1	2~				
	図書館情報資源概論	2		情報サービス演習Ⅱ	1	2~				
	情報資源組織論	2		図書館情報資源概論	2	2~				
選択必修	情報資源組織演習	2	選択必修	情報資源組織論	2	2~				
	図書館情報資源特論	1		情報資源組織演習Ⅰ	1	2~				
	図書館施設論	1		情報資源組織演習Ⅱ	1	2~				
			2単位		選択必修					

## 5 博物館学芸員資格課程

一般に博物館と呼ばれているものには、歴史・考古・民俗（族）の博物館、美術館、郷土館、記念館、民芸館のほかに、自然を対象とする自然史博物館、天文館、科学館、水族館のようなものまで幅広く包含されます。これら社会教育機関で、資料の収集・保管・展示および調査研究等に従事する者が学芸員です。したがって、学芸員は研究者であるとともに教育者として位置付けられています。

学芸員資格は、学士の称号を有する者で大学において文部科学省令の定める所定の単位を修得した者に授与されます（博物館法第5条第1項）。

### （1）博物館学芸員課程の履修方法

#### 履修にあたっての注意事項

- ① 本学の学芸員資格取得には登録が必要です。登録については、3回生の4月初旬に行う資格ガイダンス時に登録用紙を配布いたしますので、定められた期間に登録してください。
- ② 3回生時に「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」を履修する者は、2回生終了時の累計GPAが、2.3以上であることが必要です。
- ③ 4回生時に「博物館実習Ⅲ」を履修する者は、3回生終了時までに「博物館実習Ⅲ」を除く全ての課程必修科目を履修済みであることが必要です。
- ④ 館務実習の際には、博物館実習委託費（実費）が必要な場合があります。
- ⑤ 受講者全体の実習館確保を最優先とするため、希望の館以外での実習となる場合があります。

### （2）博物館学芸員資格証明書の授与

本学を卒業し、博物館学芸員課程の所定の単位を修得した者には「学芸員資格証明書」を授与します。博物館学芸員資格取得の可否通知は、卒業認定通知等の発表と同時にいます。

証明書の交付は、卒業時に行います。

### （3）ガイダンス等の実施

博物館学芸員課程を履修しようとする学生は、1回生から4回生まで、さまざまな手続きやガイダンスへの出席が必要です。諸手続きを行わない場合は、履修意志がないものとみなし、博物館学芸員課程関係科目の履修ができないことがありますので、注意してください。

#### 博物館実習（館務実習）関連ガイダンス等スケジュール

対象	時期	内容
3回生	10月頃	実習説明会および実習先希望調査
	11月	地方館内諾依頼説明会（大学が斡旋する実習館以外での実習希望者対象）
	10～3月	地方館内諾依頼（大学が斡旋する実習館以外）
4回生	5月下旬頃	実習配当館決定 実習事前ガイダンス、実習関連書類提出開始
	6月～12月	博物館実習（館務実習）

※ガイダンス等の案内は掲示・ポータルサイトにて行いますので、自主的に確認するよう心がけてください。

### （4）博物館学芸員に関する科目

学芸員の資格を得るためにには、次の表にしたがい科目を修得しなければなりません。

種別	法定基準		本学基準					
	科目名	単位	種別	科目名	単位	配当回生	区分	備考
必修	生涯学習概論	2	必修	生涯学習概論Ⅰ	2	1～	A文化史	8単位選択必修（A～Eの区分のうち、2区分以上にわたって修得すること。）
	博物館概論	2		博物館概論	2	1～		
	博物館経営論	2		博物館経営論	2	2～		
	博物館資料論	2		博物館資料論	2	2～		
	博物館資料保存論	2		博物館資料保存論	2	2～		
	博物館展示論	2		博物館展示論※1	2	2～		
	博物館教育論	2		博物館教育論	2	1～		
	博物館情報・メディア論	2		博物館情報・メディア論	2	1～		
	博物館実習	3		博物館実習Ⅰ	1	3～		
				博物館実習Ⅱ	1	3～		
選択必修				博物館実習Ⅲ	1	4	B美術史	8単位選択必修（A～Eの区分のうち、2区分以上にわたって修得すること。）
				古都学Ⅰ	2	3～		
				古都学Ⅱ	2	3～		
				出土文字資料論	2	2～		
				建築遺産研究Ⅰ	2	2～		
				建築遺産研究Ⅱ	2	2～		
				歴史遺産研究Ⅰ	2	2～		
				歴史遺産研究Ⅱ	2	2～		
				木簡・金石文学	2	3～		
				古文書学AⅠ（古代・中世）	2	2～		
選択必修				古文書学AⅡ（古代・中世）	2	2～	C考古学	8単位選択必修（A～Eの区分のうち、2区分以上にわたって修得すること。）
				古文書学BⅠ（近世）	2	2～		
				古文書学BⅡ（近世）	2	2～		
				日本美術史Ⅰ	2	1～		
				日本美術史Ⅱ	2	1～		
				東洋美術史	2	1～		
				西洋美術史	2	1～		
				美術工芸史研究Ⅰ	2	2～		
				美術工芸史研究Ⅱ	2	2～		
				考古学概説Ⅰ	2	1～		
選択必修				考古学概説Ⅱ	2	1～	D地学	8単位選択必修（A～Eの区分のうち、2区分以上にわたって修得すること。）
				考古学研究Ⅰ	2	2～		
				考古学研究Ⅱ	2	3～		
				人文地理学	2	2～		
				自然地理学	2	2～		
				地理学概論	2	1～		
				民俗学	2	1～		
				文化遺産学	2	1～		

注1：都市環境デザイン学科の学生は、学科の選択必修科目として設定されている「展示デザイン論」で読み替えを行います。

## 6 社会教育主事課程

社会教育主事は、都道府県および市（特別区）町村の教育委員会の事務局に置かれ、社会教育を行う者の求めに応じて専門的、技術的な助言と指導を与えることを職務とする専門的教育職員です（「社会教育法」第9条の2・3「教育公務員特例法」第2条第5項）。

「社会教育法」第9条の4には、大学に2年間以上在学して、62単位以上を修得し、且つ大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で、以下のイ～ハに掲げる期間を通算した期間が1年以上になるものは「社会教育主事となる資格を有する」と定められています。

- イ. 社会教育主事補の職にあった期間

ロ. 官公署又は社会教育関係団体における社会教育に關係のある職で文部科学大臣の指定するものにあった期間

ハ. 官公署又は社会教育関係団体が実施する社会教育に關係のある事業における業務であつて、社会教育主事として必要な知識又は技能の習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間（イ又はロに掲げる期間に該当する期間を除く。）

### （1）社会教育主事課程の履修方法

社会教育主事となる資格を得るために必要な科目は、「社会教育主事講習等規程」第11条に規定されています。本学ではこれに基づいて社会教育主事関係科目の履修方法を規定しています。

社会教育主事課程に関する科目は1回生から計画的に履修してください。

## （2）社会教育主事課程修了証書の授与

社会教育主事課程の所要単位を修得した者には、社会教育主事としての基礎資格を有する者として、卒業時に本学より「社会教育主事課程修了証書」を授与します。社会教育主事課程の修了可否の通知は、卒業認定通知等の発表と同時に行います。修了証書の交付は卒業時に行います。

### （3）社会教育主事課程に関する科目

法定基準			本学基準				
種別	科目名	単位	種別	科目名	単位	配当回生	備考
必修	生涯学習概論	4	必修	生涯学習概論Ⅰ	2	1~	
	社会教育計画	4		生涯学習概論Ⅱ	2	1~	
	社会教育演習または、社会教育課題研究	4		社会教育計画Ⅰ	2	2~	
				社会教育計画Ⅱ	2	2~	
				社会教育演習	2	2~	
				社会教育課題研究	2	2~	
選択必修	社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	4	選択必修	地球環境論	2	1~	
				人権と教育	2	2~	
				自然の探求	2	1~	
				情報社会論	2	1~	
				時事問題研究	2	1~	
	社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)	4	選択必修	博物館学概論	2	1~	
				図書館概論	2	1~	
				情報サービス論	2	2~	
				博物館情報・メディア論	2	1~	
				文化財行政論	2	1~	
	社会教育特講Ⅲ	4	4単位選択必修				
					4単位選択必修		
					4単位選択必修		

## 7 日本語教員養成

日本語教員養成に関する科目は、外国人に対して日本語を教授する人材（日本語教員）を養成することを目的として開講する科目群です。日本と外国との交流が活発化するにしたがい、日本語を学習しようとする外国人が増加してきています。このような社会的背景を考慮して本科目群を開講します。

なお、現在日本語教員の資格・免許は制度化されていませんが、本学の日本語教員養成を修了すれば、日本語教員となる基準をみたすことができます。

※国際英語学部生は、1年間または半年留学のため、在学4年間のうちに取得することが難しい場合もあります。

### （1）日本語教員養成科目的履修方法

文部科学省によって定められた「日本語教育機関の運営に関する基準」の第11条では、「教員の資格」について以下のように示されています。

- ① 大学(短期大学を除く)において日本語教育に関する主専攻(日本語教育科目45単位以上)を修了し、卒業した者。
- ② 大学(短期大学を除く)において日本語教育に関する科目を26単位以上修得し、卒業した者。

本学では、これに基づいて日本語教員養成の履修方法を規定し、本学としての自主的な判断から、大学学部卒の日本語教師として望まれる資質、能力を養成するため、次表に示す日本語養成に関する科目を修得することを条件に、日本語教員養成修了証を授与します。

### （2）教育実習参加の条件

教育実習は国内もしくは海外のいずれかで実施することとしています。実習に参加するためには以下の条件を満たす必要があります。

- ① 海外実習希望者について
  - ア) 「日本語教材研究」の単位を取得していること。
    - イ) 「日本語教授法Ⅲ」・「日本語教授法Ⅳ」2科目の成績平均が80点以上であること。
    - ウ) 言語教育・国際交流支援オフィスが実施する書類選考および面接選考に合格すること。
  - なお、書類選考は以下の2テーマに関する1000字程度のレポートにより行う。
    - (ア) 模擬授業を実際に行ってわかった自身の課題点
    - (イ) 海外実習参加希望理由
- ② 国内実習希望者について
  - ア) 「日本語教材研究」の単位を取得していること。
  - イ) 言語教育・国際交流支援オフィスが実施する書類選考に合格すること。
  - 書類選考は、以下の2テーマに関する1000字程度のレポートにより行う。
    - (ア) 模擬授業を実際に行ってわかった自身の課題点
    - (イ) 国内実習参加希望理由

### （3）日本語教員養成修了証書の授与

日本語教員養成の所要単位を修得した者には、本学より「日本語教員養成修了証」を授与します。日本語教員養成修了の通知は、卒業認定通知等の発表と同時に、修了証書の交付は卒業時に行います。

### （4）日本語教員養成に関する科目

	必修科目	単位	配当回生	選択科目	単位	配当学年	備考
社会・文化・地域	時事問題研究	2	1	英語圏文学A	2	1~	
				情報社会論	2	1~	
				文化人類学	2	1~	
				国際関係入門	2	1~	
				社会学概論Ⅰ	2	1~	
				社会学概論Ⅱ	2	1~	
				日本文学史Ⅰ	2	2~	
				日本文学史Ⅱ	2	2~	
				近現代文学講義Ⅰ	2	2~	
				近現代文学講義Ⅱ	2	2~	
言語と社会				近現代文学講義Ⅲ	2	2~	
				近現代文学講義Ⅳ	2	2~	
				英語圏文学B	2	3~	
				比較文化論	2	3~	
				ジェンダー研究	2	1~	
				言語コミュニケーション論	2	1~	
				現代のメディアと表現	2	1~	
				異文化コミュニケーション論(人文)	2	1~	
				多文化コミュニケーションA	2	1~	
				日本語学講義Ⅲ(社会言語学)	2	2~	
言語と心理				多文化コミュニケーションB	2	3~	
				翻訳演習	2	3~	
言語と教育				通訳演習	2	3~	
				教育心理学	2	1~	
言語				心理学概論	2	2~	
	日本語教授法Ⅰ	2	2~	英語教育論	2	2~	
	日本語教授法Ⅱ	2	2~				
	日本語教授法Ⅲ	2	3~				
	日本語教授法Ⅳ	2	3~				
	日本語教材研究	2	4				
	日本語教育実習	2	4				
	日本語学概説Ⅰ	2	1~	日本語学講義Ⅳ(日本語史)	2	2~	
	日本語学概説Ⅱ	2	1~	アナウンス技術演習Ⅰ	2	2~	
	日本語学講義Ⅰ(日本語文法)	2	2~	アナウンス技術演習Ⅱ	2	2~	
	日本語学講義Ⅱ(日本語文法)	2	2~	英語学A	2	1~	
				Language Studies A	2	2~	
				Language Studies B	2	2~	
	小計	22		小計	12		

注1:「日本語教材研究」は、「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を修得済みでなければ登録できません。

注2:「日本語教育実習」は、「日本語教材研究」とあわせて登録しなければなりません。

注3:「日本語教材研究」の成績が「不可」の場合、「日本語教育実習」の登録は取り消されます。

注4:「比較文化論」は、国際英語学科の専門科目を指し、教養教育科目の「比較文化論」とは別科目です。

## 8 2級考古調査士

考古調査士の資格は、考古調査士資格認定機構より、大学などの教育機関で、考古学を専門に勉強した学生などからの申請に基づき認定される資格です。

本学では、「2級考古調査士」資格取得の教育課程を開設しています。併せて本学の考古調査士資格取得には登録が必要です。履修登録時に「希望資格登録」画面より登録してください。

2級考古調査士の資格は、埋蔵文化財調査に必要な以下の基礎的な知識と技術の修得を証明する資格です。

- ① 遺跡の発掘調査における調査補助員、あるいは発掘調査時の諸作業で、調査担当者を補佐することができる。
- ② 技術的には遺構の発掘と、記録保存における遺構測量や細部測量、作図、写真撮影などの業務を遂行することができる。
- ③ 整理作業において、図面整理作業や遺物の実測作業などを担当でき、報告書の作成においては、事実記載の一部を執筆できる。

2級考古調査士資格の取得は、所定の期間に必要書類を揃え、考古調査士資格認定機構へ資格申請料を添えて申請する必要があります。申請方法は1月頃に掲示・ポータルサイトにて案内します。

### ■ 2級考古調査士資格に関する科目

※科目は変更となる可能性があります。毎年4月初めにポータルで配信する最新の「2級考古調査士資格要件科目」を確認してください。

種別	科目名	群	単位
必 修	文化財行政論	5群	2
	考古学研究Ⅰ	2群	2
	考古学研究Ⅱ	3群	2
選 択	保存科学Ⅰ	6群	2
	保存科学Ⅱ	6群	2
	古都学Ⅰ ※2021年度修得分のみ	3群	2
	古都学Ⅱ ※2018～2020年度修得分のみ	3群	2
	地球生命論 ※2018～2020年度修得分のみ	7群	2
	文献史料学Ⅰ ※2021年度修得分のみ	7群	2

注1：【資格申請要件】3群に渡り10単位以上修得。

上表の必修6単位（2群1科目、3群1科目、5群1科目）以外に、選択科目から4単位以上を修得。

ただし、同一群内からは2科目4単位を超えて修得することはできません。

注2：2級考古調査士資格申請には、所定の資格申請と申請料が必要です。

注3：群についての詳細は、考古調査士資格認定機構のHPに記載されています。

注4：考古調査士資格認定機構のHP:<http://www.jabar.jp/>

## その他

## キャンパスマップ



## 教室一覽

建物	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
清和館	111教室	58	121教室	58	131教室	76
	112教室	58	122教室	58	132教室	98
	113教室	58	123教室	58	133教室	58
	114教室	107	124教室	107	134教室	108
	115教室	60	125教室	60	135教室	169
	116教室	60	126教室	60		
教室棟・特別	4階	収容数				
	141教室	58				
	142教室	58				
	143教室	33				
	144教室	33				
	145教室	119				
清心館	4階	収容数				
	242教室〈書道教室〉	45				
	244教室〈書道教室〉	72				
	245教室〈書道教室〉	—				
	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	711教室〈PC教室〉	60	721教室〈PC教室〉	36	731教室〈PC・LL教室〉	40
清史館			722教室〈PC教室〉	36		
			723教室〈PC・LL教室〉	56		
			724教室〈PC教室〉	56		
	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
清風館	811教室〈実習室〉	48	821教室	204	831教室〈共同研究室D〉	20
	812教室	56	822教室	22		
			823教室	22		
清優館	3階	収容数	4階	収容数	5階	収容数
	9301教室	22	9401教室	36	9501教室	321
	9302教室〈共同研究室1〉	24	9402教室〈共同研究室3〉	24	9502教室〈製図教室〉	35
	9303教室〈共同研究室2〉	24				
清香館	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	A102教室〈実習室〉	40	A201教室	165	A301教室〈第1実習室〉	—
	A103教室	24			A302教室〈第2実習室〉	—
	4階	収容数				
	A401教室〈第3実習室〉	—				
	A405大学院生室	—				
	A406教室〈ゼミ・会議室〉	36				
	1階	収容数	2階	収容数		
	B101教室	24	B201教室	292		
	B102教室	24	B202教室	174		
	B103教室	24				
	B104教室	24				
	B105教室	24				
	B106教室	24				
	B107教室	24				
	B108教室	24				
	B109教室	24				
	B110教室	24				

## 事務局連絡先一覧

建物	2階	収容数	3階	収容数	4階	収容数
児 優 館	C201教室〈多目的教室〉	90	C301教室〈理科実験室〉	42	C401教室〈調理実習室〉	40
			C302教室〈図工実習室〉	54	C402教室〈音楽実習室〉	60
	5階	収容数				
	C502教室〈臨床教育実践スタジオ〉	40				
明 優 館	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	D101教室	245	D201教室	245	D301教室〈CAD教室〉	46
	D102教室〈実習室〉	—	D202教室	180	D302教室〈製図教室〉	96
			D203教室	180		
優 心 館	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	E101教室	110	E201教室	150	E301教室〈運動療法実習室〉	—
	E110教室〈大学院生室〉	—	E202教室	150	E302教室〈評価実習室〉	—
					E304教室	125
					E305教室	87
					E306教室〈大学院生室〉	—
	4階	収容数	5階	収容数	6階	収容数
	E401教室〈演習室2〉	—	E501教室〈共同研究室〉	24	E601教室〈物理療法・水治療義肢装具実習室〉	—
	E402教室〈共同研究室〉	24	E502教室〈基礎医学実習室〉	—	E603教室〈日常動作訓練室〉	—
	E403教室〈演習室3〉	30	E503教室〈運動生理機能評価測定実習室〉	—		
	E404教室〈演習室4〉	30				
	E405教室〈演習室5〉	30				
	E406教室〈演習室6〉	30				
	E407教室〈会議演習室〉	36				
響 友 館	1階	収容数	3階	収容数	4階	収容数
	F101教室〈保育実習室〉	—	F303教室〈GroupAccessRoom〉	12	F401教室〈演習・会議室〉	60
			F304教室〈GroupAccessRoom〉	12	F402教室〈講義室〉	60
			F305教室〈GroupAccessRoom〉	12	F403教室	60
			F306教室〈IndividualStudyRoom〉	20	F404教室	60
	5階	収容数			F405教室	60
	F501教室〈演習・会議室〉	54				
	F502教室	60				
	F503教室	60				
	F504教室	60				
啓 成 館	地下1階	収容数	1階	収容数	2階	収容数
	G001教室〈生理機能実習室〉	48	G101教室	63	G201教室〈織物・手工芸・絵画室〉	48
	G002教室〈レクレーションルーム〉	—	G102教室	120	G202教室〈木工・金工・陶工・義肢装具室〉	48
	G003教室	48	G103教室	108	G203教室〈共同研究室〉	—
	G004教室	105	G104教室	105		
	G005教室	120	G105教室	135		
	G006教室	107				
	G007教室					
	3階	収容数	4階	収容数		
	G301教室〈細胞診演習室〉	24	G401教室〈顕微鏡実習室〉	96		
	G302教室〈生化学・免疫系実験室〉	96	G402教室〈微生物・形態系実験室〉	96		
	G303教室〈共同研究室1〉					
	G304教室〈共同研究室2〉					
体育 館	1階	収容数	3階	収容数		
	小アリーナ	—	大アリーナ	—		
	中アリーナ	—				
体育 館2	1階	収容数	2階	収容数		
	小アリーナ	—	アリーナ	—		

セクション名	直通電話番号	メールアドレス	場所
総務課	574-4111	gen@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟2階
人事秘書課	574-4375	jinji@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
経理課	574-4113	acc@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
教務部	学務第1課 学務第2課 学務第3課 総合教育課	574-4324 574-4192 574-4325 574-4365	1 academic@tachibana-u.ac.jp 2 academic@tachibana-u.ac.jp 3 academic@tachibana-u.ac.jp g-edu@tachibana-u.ac.jp
学生部	学生支援課 就職進路課(キャリアセンター)	574-4114 574-4117	リバティホール1階 studentc@tachibana-u.ac.jp career@tachibana-u.ac.jp
学術情報部	図書館情報課 情報メディアセンター 学術振興課	574-4118 574-4130 574-4186 574-4186	図書館 media@tachibana-u.ac.jp aca-ext@tachibana-u.ac.jp liaison@tachibana-u.ac.jp
入学部	入学課 企画広報課	574-4116 574-4112	管理・特別教室棟1階 pub@tachibana-u.ac.jp
公務員試験支援センター	574-4125	koumuin@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
教職保育職支援室	574-4192	tpsc@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
女性歴史文化研究所	574-4120	iwhc@tachibana-u.ac.jp	清風館2階
地域連携センター	574-4131	icps@tachibana-u.ac.jp	清風館2階
看護異文化交流・社会連携推進センター	574-4235	ktnc@tachibana-u.ac.jp	清優館2階
看護教育研修センター	574-4133	cpdn@tachibana-u.ac.jp	清風館2階
京都橘学園生活協同組合	571-2325	tachibana-coop@ma1.seikyou.ne.jp	響友館1階

\*電話番号の市外局番はすべて「075」

## 教務部各課業務内容と窓口時間

各課とも窓口業務は月曜日～金曜日で、11:10～12:10は窓口業務を行いません。

	主な業務内容
学務第1課	教務システム管理、学籍管理・時間割・受講登録・成績管理等に関する事 (上記に関する個別の相談は、学務第2課・学務第3課、もしくは総合教育課で行います。) ※学務第1課に学生受付カウンターはありません。
学務第2課	文学部の教學に関する事 発達教育学部の教學に関する事 現代ビジネス学部の教學に関する事 大学院文学研究科の教學に関する事 大学院現代ビジネス研究科の教學に関する事 大学院文化政策学研究科の教學に関する事 資格に関する事 ※教育職員免許状／保育士／司書／学校図書館司書教諭／博物館学芸員／社会教育主事／2級考古調査士 ／一級建築士受験資格／二級・木造建築士受験資格／インテリアプランナー登録資格／初級地域公共政 策士資格／アーツマネジメント／小学校英語指導者資格(J-SHINE認定)／診療情報管理士資格／その他
学務第3課	看護学部の教學に関する事 健康科学部の教學に関する事 大学院看護学研究科の教學に関する事 大学院健康科学研究科の教學に関する事 看護師・保健師・助産師・公認心理師・理学療法士・作業療法士・救急救命士・臨床検査技師・細胞検査士 の国家試験に関する事 資格に関する事 ※認定心理士／社会調査士
総合教育課	国際英語学部の教學に関する事 基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群に関する事 国際交流・言語教育に関する事 留学相談に関する事 資格に関する事(日本語教員資格)
窓口時間	
基本は8:45～17:15。平常授業期間中の月～金は以下の業務に限り、窓口業務を延長します。	
証明書自動発行は18:15まで	
授業に関する対応は19:40まで(6講時に授業がある場合)	
土曜日の補講・集中講義	
8:45～17:15(授業対応・証明書自動発行のみ)	

---

発行 〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34 Tel075-571-1111(代)  
編集 京都橘大学

2018年4月1日発行

---

印刷 株式会社グラフィック